

府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第7期）策定
のためのアンケート調査報告書（中間報告書） 1

1. 市民一般調査

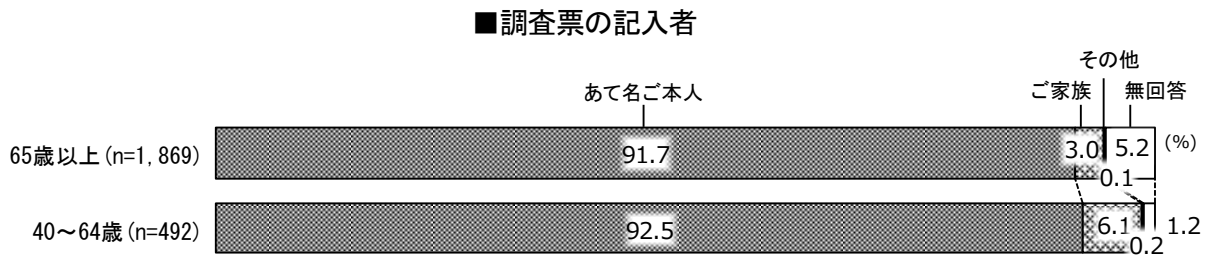
※上記以外は別途作成

1. 市民一般調査

1 調査票記入にあたって

(1) 調査票の記入者

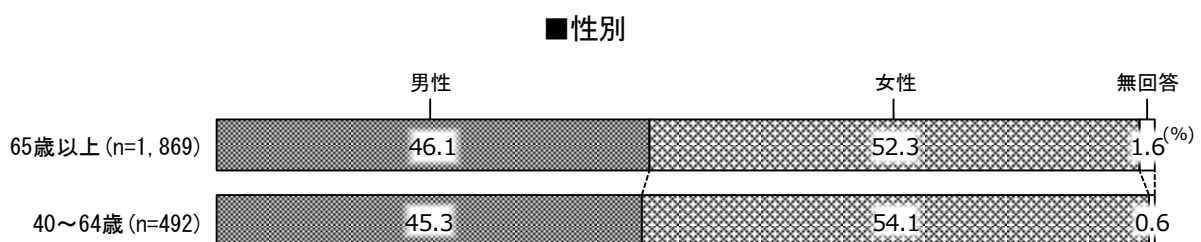
調査票の記入者は、65歳以上は「あて名ご本人」が91.7%、「ご家族」が3.0%となっている。
40～64歳は、「あて名ご本人」が92.5%、「ご家族」が6.1%となっている。



2 基本属性

(1) 性別 (F1)

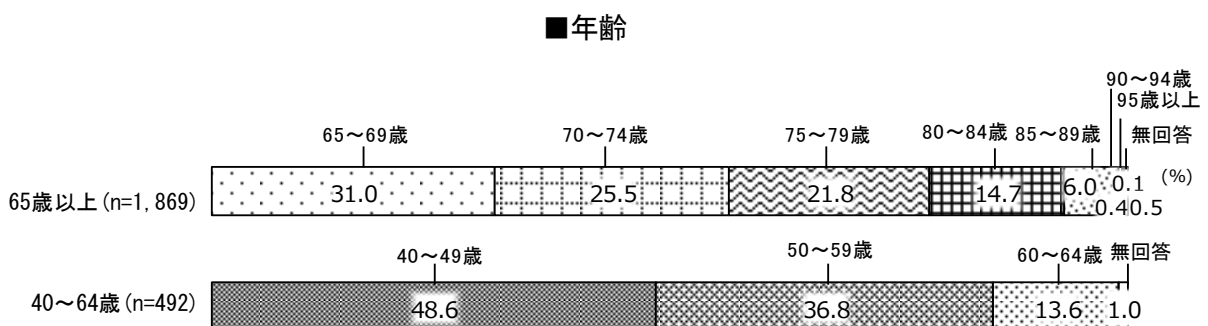
性別は、65歳以上は「男性」が46.1%、「女性」が52.3%となっている。
40～64歳は、「男性」が45.3%、「女性」が54.1%となっている。



(2) 年齢 (F2)

年齢は、65歳以上は「65～69歳」(31.0%)が最も多く、「70～74歳」(25.5%)、「75～79歳」(21.8%)と続いている。

40～64歳は、「40～49歳」(48.6%)が最も多く、「50～59歳」(36.8%)、「60～64歳」(13.6%)と続いている。

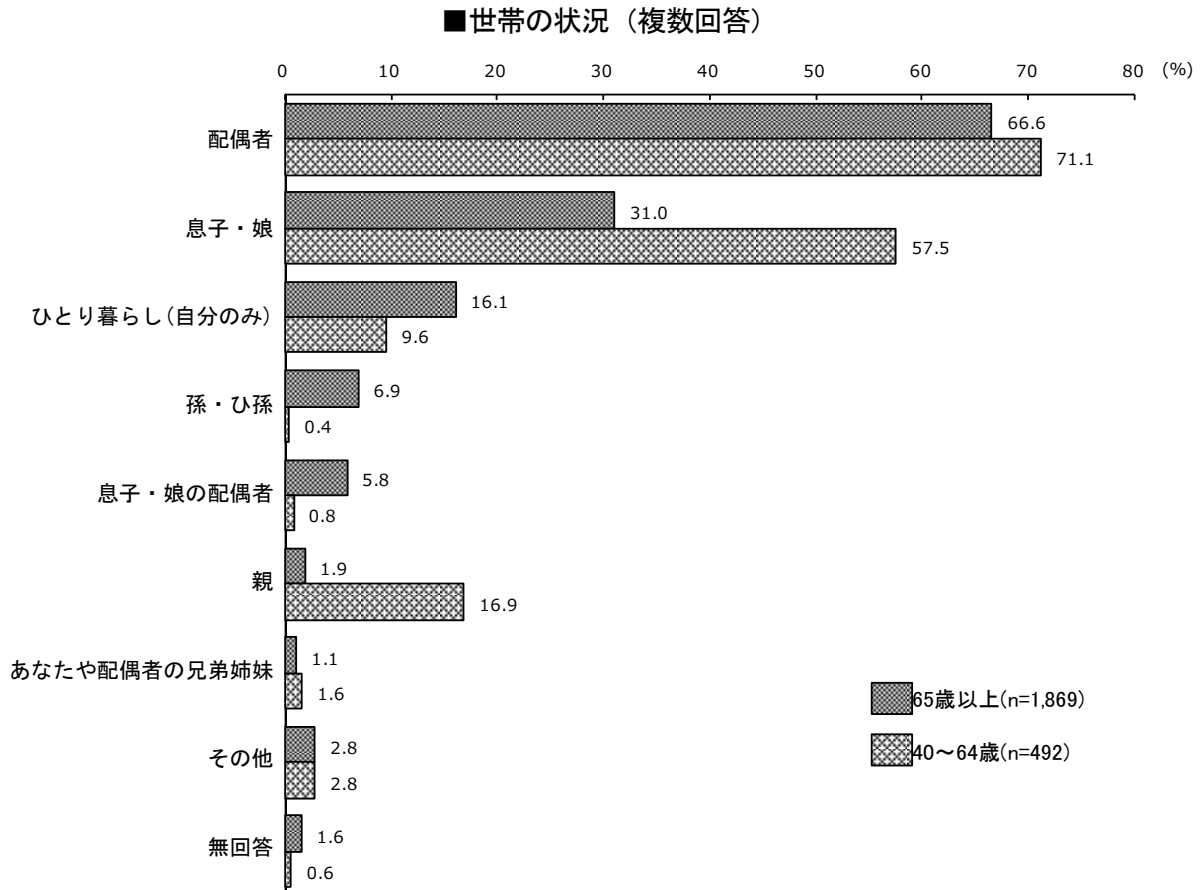


1. 市民一般調査

(3) 世帯の状況 (F 3)

世帯の状況は、65歳以上は「配偶者」(66.6%)が最も多く、「息子・娘」(31.0%)、「ひとり暮らし(自分のみ)」(16.1%)と続いている。

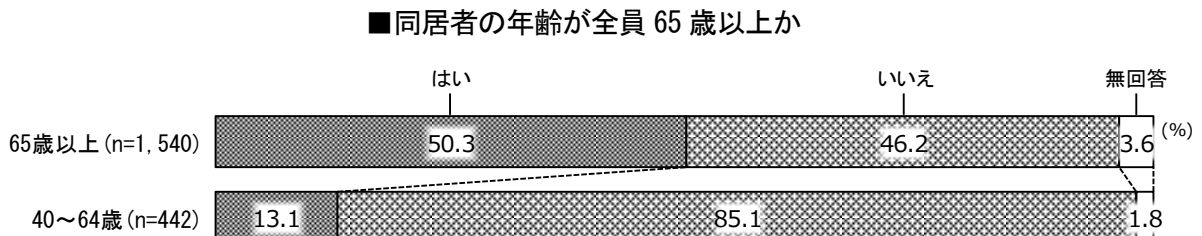
40~64歳は、「配偶者」(71.1%)が最も多く、「息子・娘」(57.5%)、「親」(16.9%)と続いている。



(4) 同居者の年齢が全員 65 歳以上か (F 3-1)

「ひとり暮らし(自分のみ)」以外を回答した人に同居者の年齢が全員 65 歳以上かを聞いたところ、回答者が 65 歳以上の場合「はい」が 50.3%、「いいえ」が 46.2%となっている。

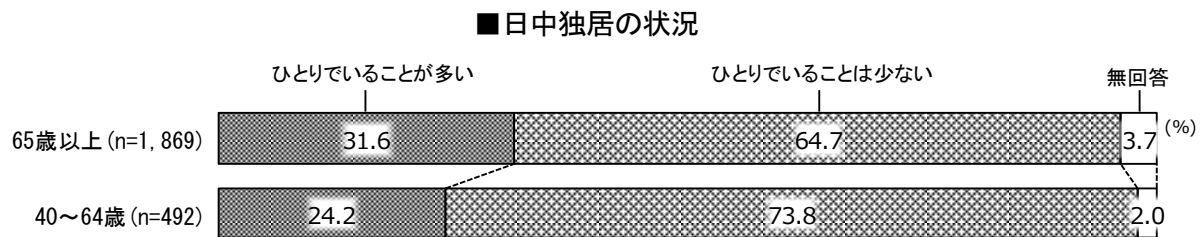
回答者が 40~64 歳の場合は、「はい」が 13.1%、「いいえ」が 85.1%となっている。



(5) 日中独居の状況 (F 4)

日中独居の状況は、65歳以上は「ひとりであることが多い」が31.6%、「ひとりであることは少ない」が64.7%となっている。

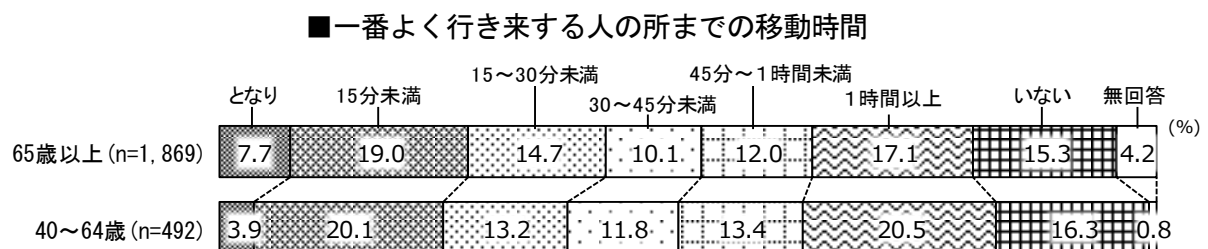
40～64歳は、「ひとりであることが多い」が24.2%、「ひとりであることは少ない」が73.8%となっている。



(6) 一番よく行き来する人の所までの移動時間 (F 5)

一番よく行き来する人の所までの移動時間は、65歳以上は「15分未満」(19.0%)が最も多く、「1時間以上」(17.1%)、「15～30分未満」(14.7%)と続いている。

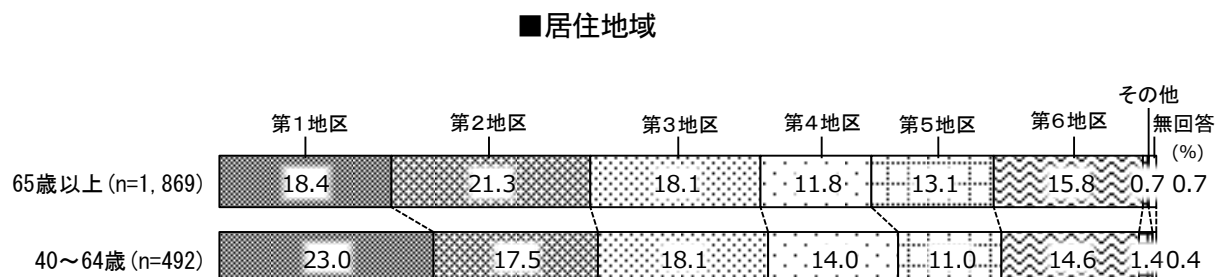
40～64歳は、「1時間以上」(20.5%)が最も多く、「15分未満」(20.1%)、「45分～1時間未満」(13.4%)と続いている。



(7) 居住地域 (F 6)

居住地域は、65歳以上は「第2地区」(21.3%)が最も多く、「第1地区」(18.4%)、「第3地区」(18.1%)、「第6地区」(15.8%)、「第5地区」(13.1%)、「第4地区」(11.8%)となっている。

40～64歳は、「第1地区」(23.0%)が最も多く、「第3地区」(18.1%)、「第2地区」(17.5%)、「第6地区」(14.6%)、「第4地区」(14.0%)、「第5地区」(11.0%)となっている。

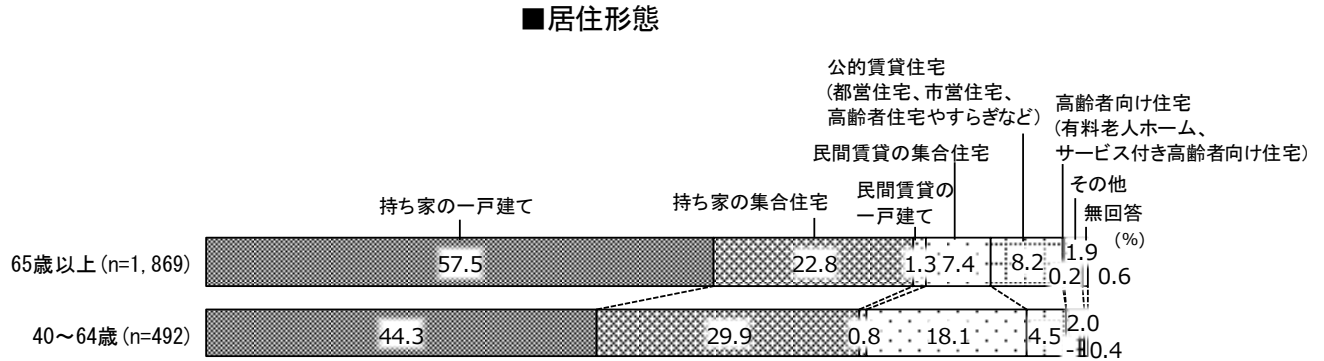


3 住まいについて

(1) 居住形態 (問1)

居住形態は、65歳以上は「持ち家の一戸建て」(57.5%)が最も多く、「持ち家の集合住宅」(22.8%)、「公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)」(8.2%)と続いている。

40～64歳は、「持ち家の一戸建て」(44.3%)が最も多く、「持ち家の集合住宅」(29.9%)、「民間賃貸の集合住宅」(18.1%)と続いている。



65歳以上について年齢別にみると、75歳以上は「持ち家の一戸建て」(63.5%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「持ち家の集合住宅」(26.8%)と「民間賃貸の集合住宅」(9.5%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区、第5地区、第6地区は「持ち家の一戸建て」(順に65.7%、64.5%、64.2%)、第2地区は「持ち家の集合住宅」(34.9%)、第3地区は「公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)」(15.0%)、第4地区は「持ち家の集合住宅」(29.0%)と「公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者住宅やすらぎなど)」(15.4%)が全体に比べ多くなっている。

■居住形態 (65歳以上)

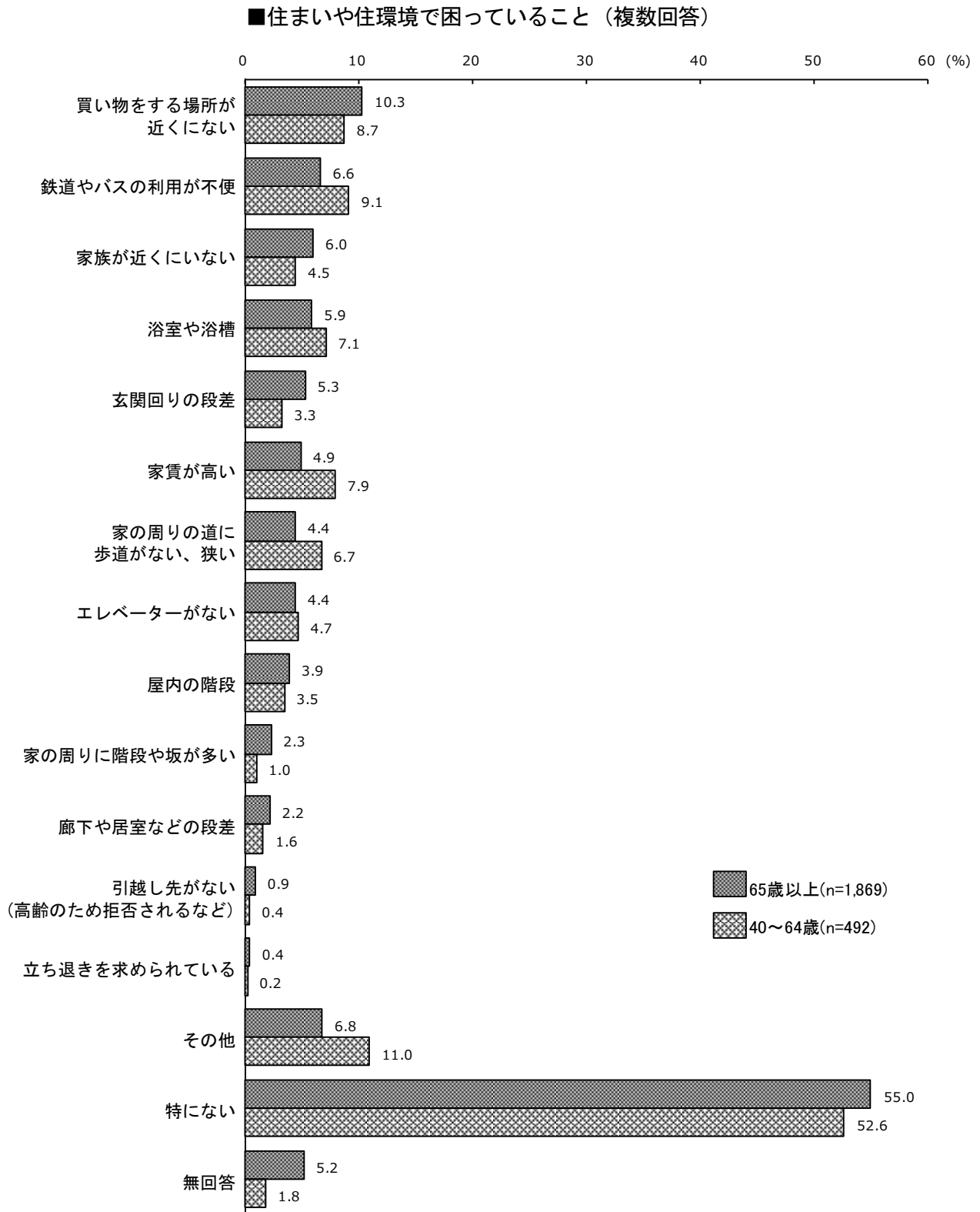
		持ち家の一戸建て	持ち家の集合住宅	民間賃貸の一戸建て	民間賃貸の集合住宅	高齢者向け住宅(都営住宅、市営住宅、やすらぎなど)	民間賃貸の集合住宅	公的賃貸住宅(都営住宅、市営住宅、高齢者向け住宅)	高齢者向け住宅(有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅)	その他	無回答
全体(n=1,869)		57.5	22.8	1.3	7.4	8.2	0.2	0.2	1.9	0.6	
年齢別	75歳以上(n=803)	63.5	17.6	1.7	4.7	9.6	0.5	0.5	1.9	0.5	
	65～74歳(n=1,056)	53.3	26.8	0.9	9.5	7.3	-	-	2.0	0.2	
地区別	第1地区(n=344)	65.7	17.7	0.6	9.6	4.1	0.3	0.3	1.7	0.3	
	第2地区(n=398)	48.0	34.9	2.0	6.8	5.5	-	-	2.8	-	
	第3地区(n=339)	57.2	17.4	0.6	7.4	15.0	-	-	1.8	0.6	
	第4地区(n=221)	48.9	29.0	0.9	3.6	15.4	0.5	0.5	1.8	-	
	第5地区(n=245)	64.5	17.1	0.4	6.1	10.6	-	-	0.8	0.4	
	第6地区(n=296)	64.2	19.6	3.0	9.8	1.7	0.3	0.3	1.4	-	

(2) 住まいや住環境で困っていること (問2)

住まいや住環境で困っていることは、65歳以上も40～64歳も「特にない」が最も多い。

困っている内容では、65歳以上は「買い物をする場所が近くにない」(10.3%)が最も多く、「鉄道やバスの利用が不便」(6.6%)、「家族が近くにいない」(6.0%)と続いている。

40～64歳の困っている内容は「鉄道やバスの利用が不便」(9.1%)が最も多く、「買い物をする場所が近くにない」(8.7%)、「家賃が高い」(7.9%)と続いている。



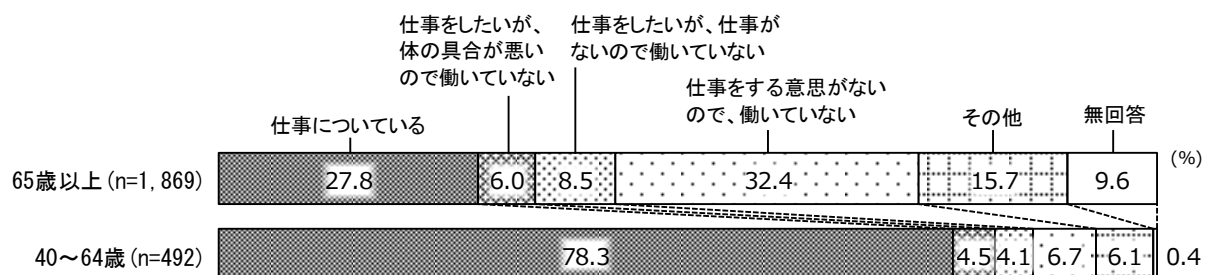
4 就労状況について

(1) 収入のある仕事の有無（問3）

収入のある仕事の有無は、65歳以上は「仕事をする意思がないので、働いていない」（32.4%）が最も多く、「仕事についている」（27.8%）、「仕事をしたいが、仕事がないので働いていない」（8.5%）と続いている。

40～64歳は、「仕事についている」（78.3%）が最も多く、「仕事をする意思がないので、働いていない」（6.7%）、「仕事をしたいが、体の具合が悪いので働いていない」（4.5%）と続いている。

■収入のある仕事の有無



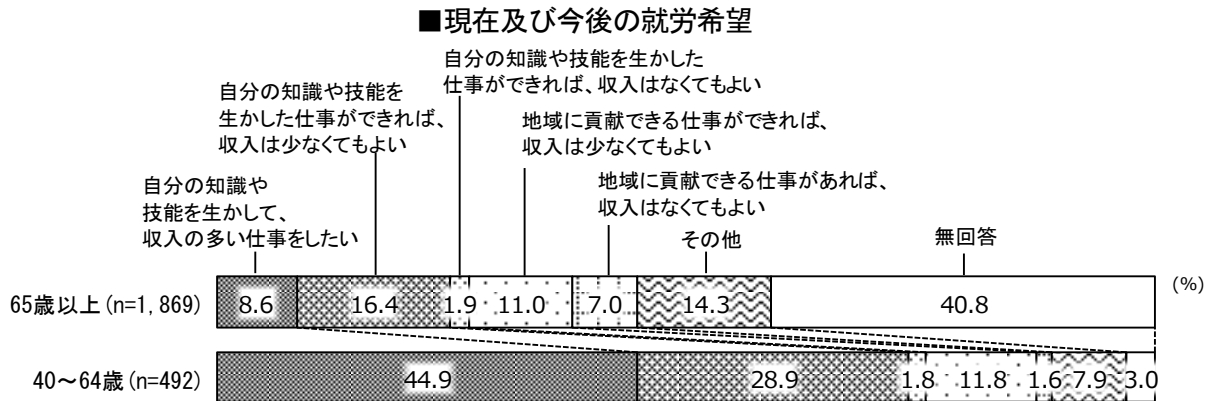
65歳以上について性別にみると、女性は「仕事についている」（21.6%）が男性に比べ少なくなっている。年齢別にみると、75歳以上は「仕事についている」（15.8%）が65～74歳に比べ少なくなっている。

■収入のある仕事の有無（65歳以上）

		収入のある仕事の有無 (65歳以上)					
		仕事についている	仕事をしたいが、体の具合が悪いので働いていない	仕事をしたいが、仕事がないので働いていない	仕事をする意思がないので、働いていない	その他	無回答
全体(n=1,869)		27.8	6.0	8.5	32.4	15.7	9.6
性別	男性(n=862)	34.9	6.6	9.9	30.5	13.1	5.0
	女性(n=977)	21.6	5.3	7.4	34.2	18.2	13.3
年齢別	75歳以上(n=803)	15.8	4.7	5.9	35.5	23.3	14.8
	65～74歳(n=1,056)	36.6	7.0	10.5	30.3	9.9	5.6

(2) 現在及び今後の就労希望 (問4)

現在及び今後の就労希望は、65歳以上は「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(16.4%)が最も多く、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(11.0%)、「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(8.6%)と続いている。
 40～64歳は、「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(44.9%)が最も多く、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(28.9%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(11.8%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(11.4%)、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(20.5%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(13.2%)が女性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい」(12.3%)、「自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(22.3%)、「地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい」(14.4%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■現在及び今後の就労希望 (65歳以上)

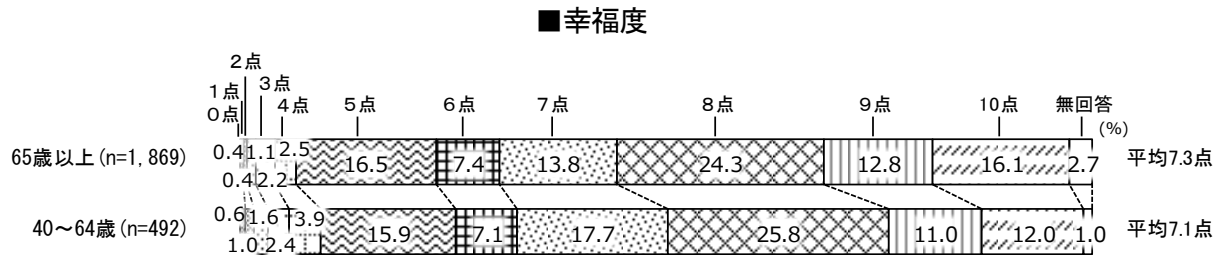
		自分の知識や技能を生かして、収入の多い仕事をしたい	自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい	自分の知識や技能を生かした仕事ができれば、収入は少なくてもよい	地域に貢献できる仕事ができれば、収入は少なくてもよい	地域に貢献できる仕事があれば、収入は少なくてもよい	その他	無回答
全体(n=1,869)		8.6	16.4	1.9	11.0	7.0	14.3	40.8
性別	男性(n=862)	11.4	20.5	2.4	13.2	7.9	12.8	31.8
	女性(n=977)	6.2	12.7	1.5	9.0	6.2	15.7	48.6
年齢別	75歳以上(n=803)	3.6	8.2	1.1	6.7	7.1	16.7	56.5
	65～74歳(n=1,056)	12.3	22.3	2.6	14.4	6.9	12.6	28.9

5 健康づくりや介護予防などについて

(1) 幸福度 (問5)

幸福度（「とても不幸」が0点、「とても幸せ」が10点）は、65歳以上は「8点」（24.3%）が最も多く、「5点」（16.5%）、「10点」（16.1%）と続いており、平均は7.3点である。

40～64歳は、「8点」（25.8%）が最も多く、「7点」（17.7%）、「5点」（15.9%）と続いており、平均は7.1点である。



65歳以上について性別にみると、男性は「10点」（12.6%）が女性に比べ少なくなっている。年齢別にみると、65～74歳は「10点」（12.7%）が75歳以上に比べ少なくなっている。

■幸福度 (65歳以上)

		(%)											平均点	
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	
全体(n=1,869)		0.4	0.4	1.1	2.2	2.5	16.5	7.4	13.8	24.3	12.8	16.1	2.7	7.3
性別	男性(n=862)	0.1	0.2	1.4	2.1	3.4	18.0	8.6	13.5	25.4	12.6	12.6	2.1	7.2
	女性(n=977)	0.5	0.6	0.8	2.3	1.5	15.5	6.3	14.2	23.5	13.1	18.6	3.0	7.4
年齢別	75歳以上(n=803)	0.4	0.6	1.0	1.7	2.0	15.9	5.9	11.3	24.5	12.7	20.3	3.6	7.5
	65～74歳(n=1,056)	0.4	0.3	1.1	2.6	2.8	17.0	8.7	15.5	24.1	12.9	12.7	1.9	7.2

さらに65歳以上について世帯の状況別にみると、ひとり暮らしの人は「平均以下(7点以下)」（57.0%）がひとり暮らし以外の人に比べ多くなっている。

日中独居の状況別にみると、ひとりであることが多い人は「平均以下(7点以下)」（50.5%）がひとりであることは少ない人に比べ多くなっている。

■幸福度 (65歳以上)

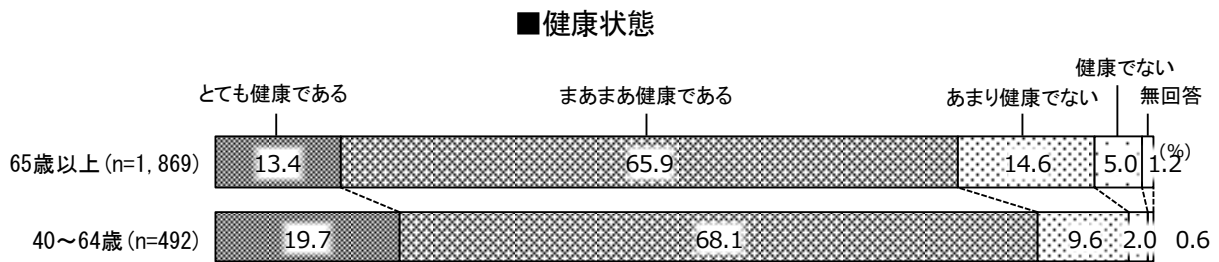
		(%)		
		(平均7点以下)	(平均8点以上)	無回答
全体(n=1,869)		44.2	53.1	2.7
世帯の状況別	ひとり暮らし(n=300)	57.0	40.0	3.0
	ひとり暮らし以外(n=1,540)	41.7	55.8	2.5
日中独居の状況別	ひとりであることが多い(n=590)	50.5	46.6	2.9
	ひとりであることは少ない(n=1,209)	41.1	56.7	2.2

1. 市民一般調査

(2) 健康状態 (問6)

健康状態は、65歳以上は「まあまあ健康である」(65.9%)が最も多く、「あまり健康でない」(14.6%)、「とても健康である」(13.4%)と続いている。「とても健康である」「まあまあ健康である」を合わせた“健康である”は79.3%、「あまり健康でない」「健康でない」を合わせた“健康でない”は19.6%となっている。

40～64歳は、「まあまあ健康である」(68.1%)が最も多く、「とても健康である」(19.7%)、「あまり健康でない」(9.6%)と続いている。“健康である”は87.8%、“健康でない”は11.6%となっている。



65歳以上について年齢別にみると、75歳以上は“健康でない”(22.4%)が65～74歳に比べ多くなっている。

健康状態 (65歳以上)

(%)

		あ健と る康て でも	であま あ健あ る康ま	な健あ い康ま でり	な健 い康 で	無 回 答
全体(n=1,869)		13.4	65.9	14.6	5.0	1.2
年齢別	75歳以上(n=803)	11.3	65.1	16.2	6.2	1.1
	65～74歳(n=1,056)	15.0	66.4	13.4	4.1	1.1

さらに65歳以上について幸福度別にみると、平均以下(7点以下)の人は“健康でない”(30.4%)が平均以上(8点以上)の人に比べ多くなっている。

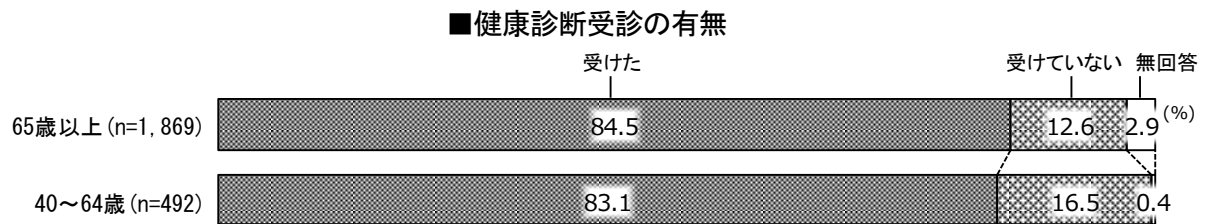
健康状態 (65歳以上)

(%)

		あ健 る康 で	な健 い康 で	無 回 答
全体(n=1,869)		79.2	19.6	1.2
幸福度別	平均以下(7点以下)(n=826)	69.5	30.4	0.1
	平均以上(8点以上)(n=993)	89.5	10.4	0.1

(3) 健康診断受診の有無 (問7)

健康診断受診の有無は、65歳以上は「受けた」が84.5%、「受けていない」が12.6%となっている。40～64歳は、「受けた」が83.1%、「受けていない」が16.5%となっている。



65歳以上について年齢別にみると、65～74歳は「受けていない」(15.7%)が75歳以上に比べ多くなっている。

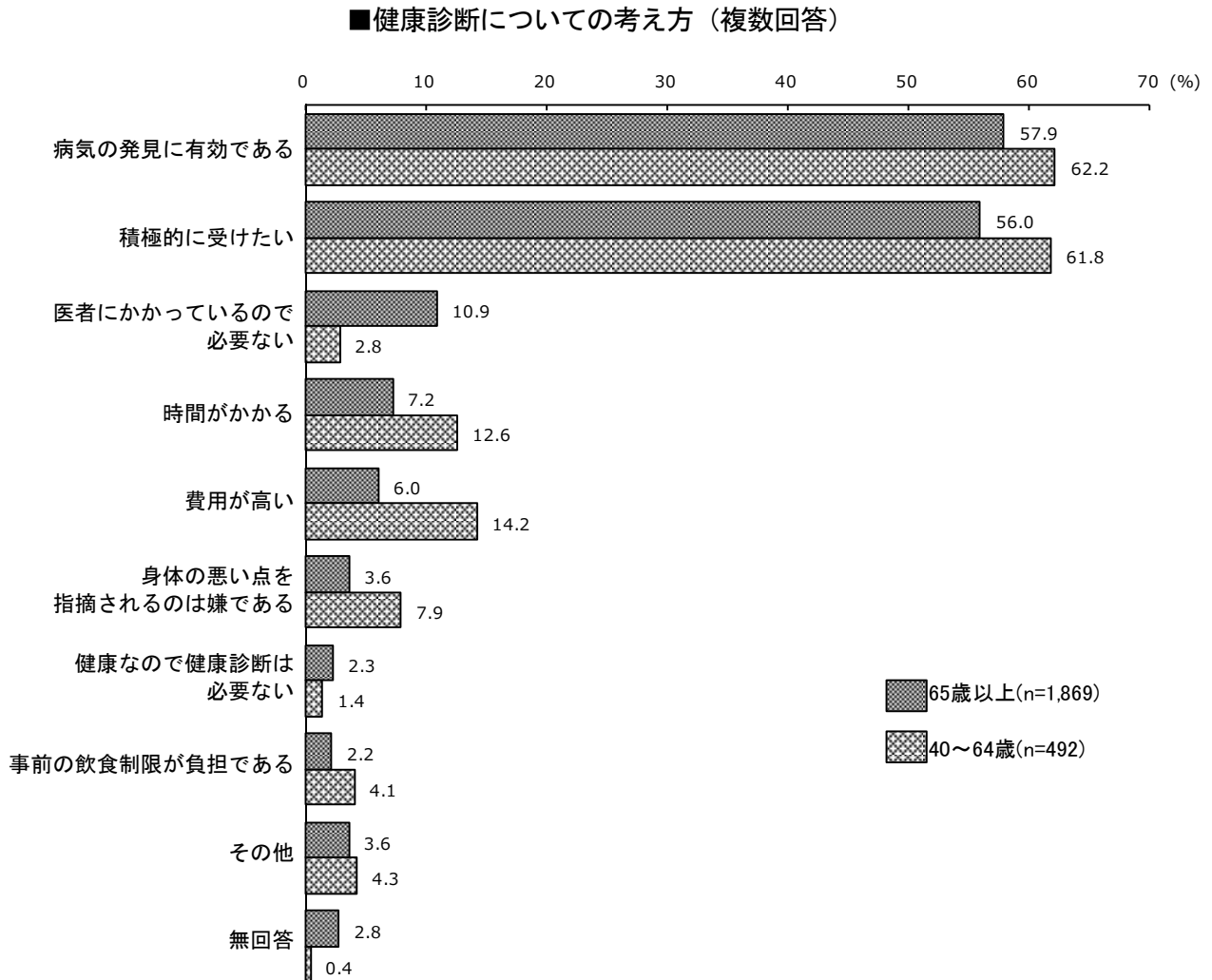
■健康診断受診の有無 (65歳以上)

(%)

		受けた	受けていない	無回答
全体(n=1,869)		84.5	12.6	2.9
年齢別	75歳以上(n=803)	87.5	8.6	3.9
	65～74歳(n=1,056)	82.2	15.7	2.1

(4) 健康診断についての考え方 (問8)

健康診断についての考え方は、65歳以上は「病気の発見に有効である」(57.9%)が最も多く、「積極的に受けたい」(56.0%)、「医者にかかっているので必要ない」(10.9%)と続いている。
 40～64歳は、「病気の発見に有効である」(62.2%)が最も多く、「積極的に受けたい」(61.8%)、「費用が高い」(14.2%)と続いている。



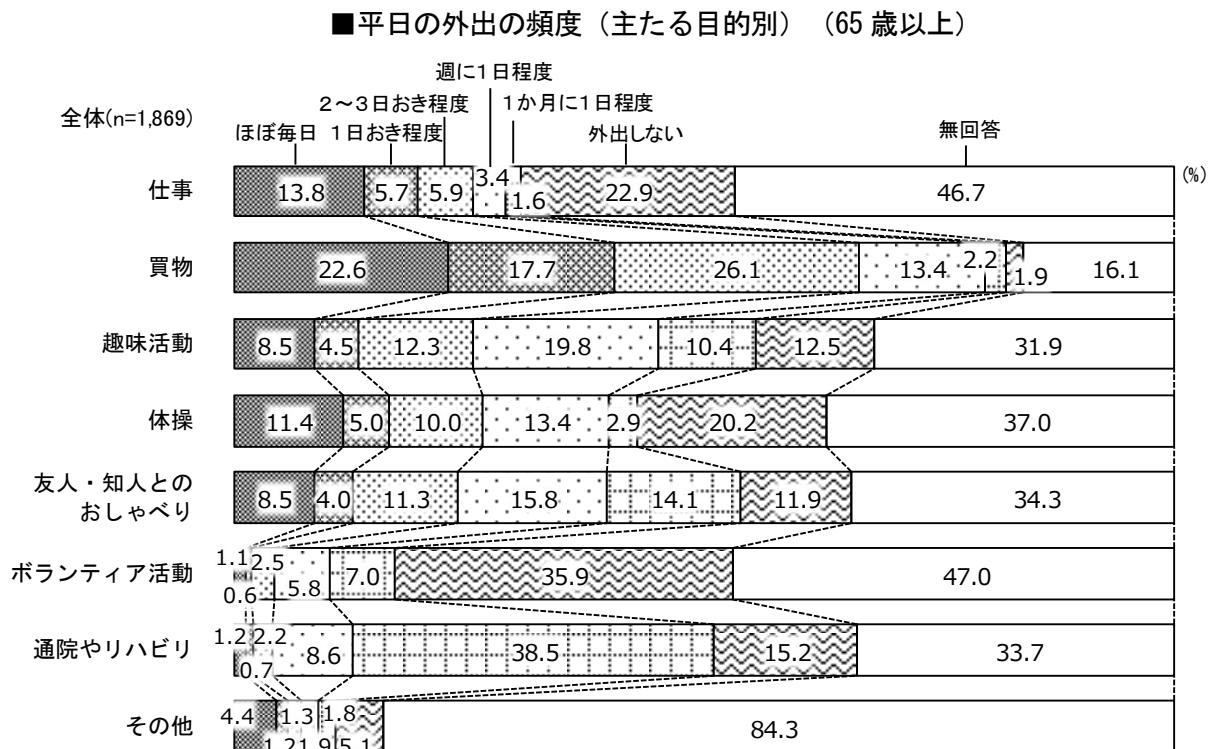
65歳以上について性別にみると、女性は「時間がかかる」(8.5%)が男性に比べ多くなっている。
 年齢別にみると、75歳以上は「医者にかかっているので必要ない」(12.6%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「時間がかかる」(8.2%)、「費用が高い」(8.6%)、「身体の悪い点を指摘されるのは嫌である」(4.7%)、「事前の飲食制限が負担である」(2.9%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■健康診断についての考え方 (複数回答) (65歳以上)

		るに病有気効の発見	け積た極的に受	いのか医でつ者に必要なる	る時間がかか	費用が高い	でれ点身を指の嫌	必健康診断は	健康な	で制事前の負担	その他	無回答
全体(n=1,869)		57.9	56.0	10.9	7.2	6.0	3.6	2.3		2.2	3.6	2.8
性別	男性(n=862)	59.6	55.8	10.1	5.7	5.8	3.7	2.7		1.7	3.0	2.6
	女性(n=977)	57.1	56.3	11.3	8.5	6.2	3.7	1.9		2.6	3.9	3.0
年齢別	75歳以上(n=803)	56.4	57.2	12.6	5.9	2.7	2.2	1.9		1.2	4.1	3.1
	65～74歳(n=1,056)	59.3	55.2	9.5	8.2	8.6	4.7	2.7		2.9	3.1	2.5

(5) 平日の外出の頻度（主たる目的別）（問9）

65歳以上の平日の外出の頻度について、「ほぼ毎日」から「1か月に1日程度」を合わせた“外出する”は『買物』（82.0%）が最も多く、『趣味活動』（55.5%）、『友人・知人とのおしゃべり』（53.7%）と続いている。外出の頻度を「ほぼ毎日」に限定すると、『買物』（22.6%）が最も多く、『仕事』（13.8%）、『体操』（11.4%）と続いている。



65歳以上について「ほぼ毎日」を性別にみると、男性は『買物』（17.4%）が女性に比べ少なく、女性は『仕事』（10.6%）、『趣味活動』（5.1%）、『体操』（8.0%）が男性に比べ少なくなっている。

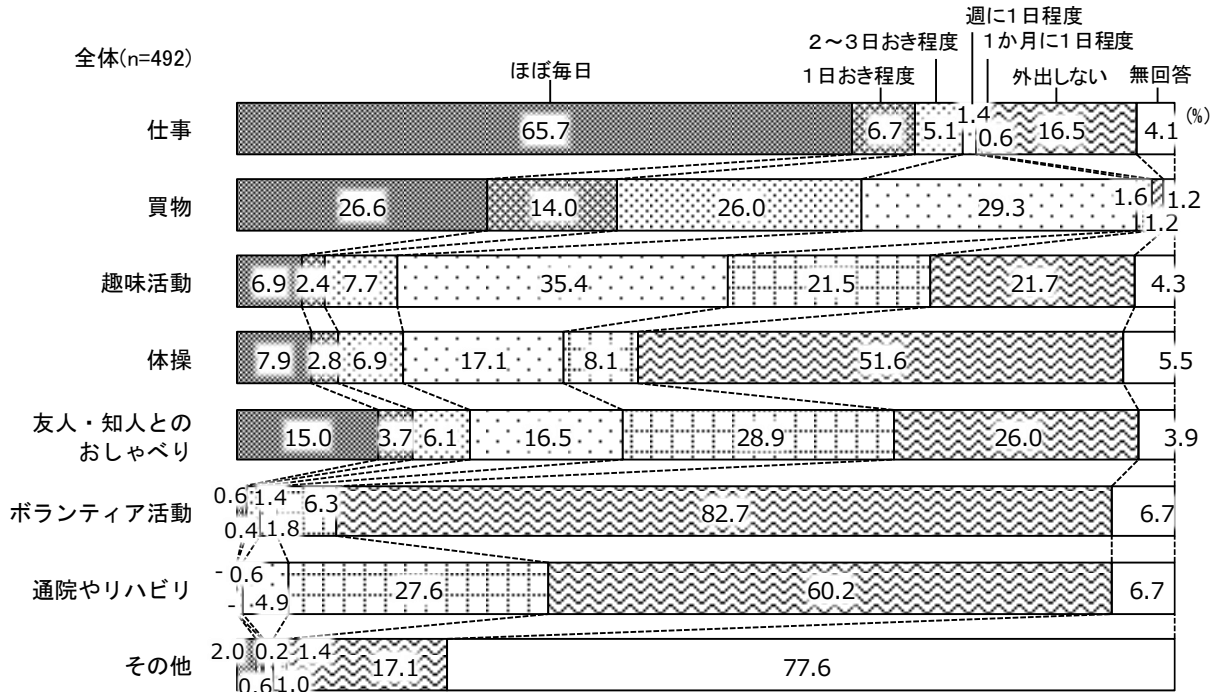
■平日の外出の頻度（主たる目的別）（65歳以上）

		毎 日 ほ ぼ	程 お 1 度 き 日	程 お 3 2 度 き 日	程 1 週 度 日 に	程 1 月 1 度 日 に か	い し 外 な 出	答 無 回
仕事	全体(n=1,869)	13.8	5.7	5.9	3.4	1.6	22.9	46.7
	男性(n=862)	17.4	7.3	7.4	3.9	2.2	21.1	40.6
	女性(n=977)	10.6	4.3	4.6	2.8	1.1	24.8	51.8
買物	全体(n=1,869)	22.6	17.7	26.1	13.4	2.2	1.9	16.1
	男性(n=862)	17.4	12.2	23.9	18.8	3.1	2.8	21.8
	女性(n=977)	27.1	22.6	28.2	8.9	1.4	1.0	10.6
趣味活動	全体(n=1,869)	8.5	4.5	12.3	19.8	10.4	12.5	31.9
	男性(n=862)	12.4	4.6	13.2	19.7	10.6	11.8	27.6
	女性(n=977)	5.1	4.5	11.4	20.0	9.9	13.4	35.7
体操	全体(n=1,869)	11.4	5.0	10.0	13.4	2.9	20.2	37.0
	男性(n=862)	15.4	5.9	7.3	9.3	3.6	21.7	36.8
	女性(n=977)	8.0	4.4	12.5	16.7	2.3	19.2	36.9

1. 市民一般調査

40～64歳の平日の外出の頻度について、“外出する”は『買物』（97.5%）が最も多く、『仕事』（79.5%）、『趣味活動』（73.9%）と続いている。外出の頻度を「ほぼ毎日」に限定すると、『仕事』（65.7%）が最も多く、『買物』（26.6%）、『友人・知人とのおしゃべり』（15.0%）と続いている。

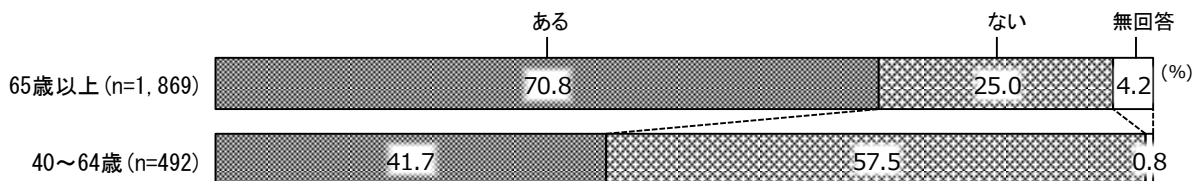
■平日の外出の頻度（主たる目的別）（40～64歳）



(6) 治療中の病気の有無（問 10）

治療中の病気の有無は、65歳以上は「ある」が70.8%、「ない」が25.0%となっている。40～64歳は、「ある」が41.7%、「ない」が57.5%となっている。

■治療中の病気の有無



65歳以上について性別にみると、男性は「ある」（75.5%）が女性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「ある」（76.5%）が65～74歳に比べ多くなっている。

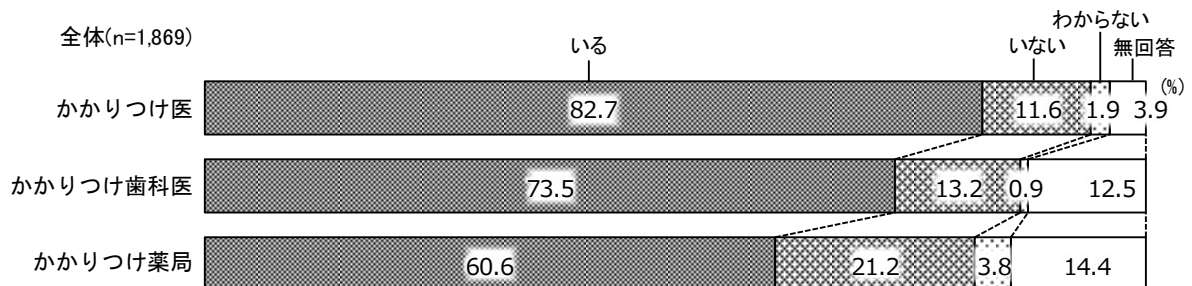
■治療中の病気の有無（65歳以上）

		（%）		
		ある	ない	答無回
全体(n=1,869)		70.8	25.0	4.2
性別	男性(n=862)	75.5	22.0	2.4
	女性(n=977)	66.8	27.6	5.5
年齢別	75歳以上(n=803)	76.5	17.1	6.5
	65～74歳(n=1,056)	66.7	31.0	2.4

(7) かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (問 11)

65 歳以上のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が 82.7%、『かかりつけ歯科医』が 73.5%、『かかりつけ薬局』が 60.6%となっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (65 歳以上)



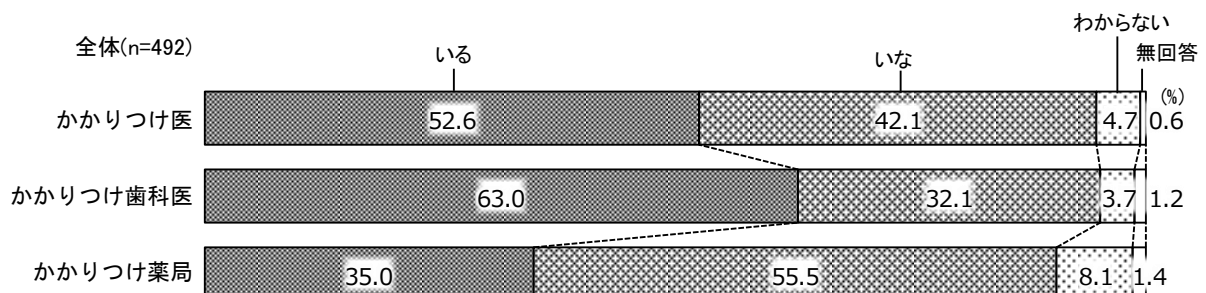
65 歳以上について年齢別にみると、65～74 歳は「いない」がいずれも 75 歳以上に比べ多くなっている。

■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (65 歳以上)

		いる (%)	いない (%)	なわいから (%)	無回答 (%)
かかりつけ医	全体(n=1,869)	82.7	11.6	1.9	3.9
	75歳以上(n=803)	88.8	5.1	1.1	5.0
	65～74歳(n=1,056)	78.1	16.4	2.5	3.0
かかりつけ歯科医	全体(n=1,869)	73.5	13.2	0.9	12.5
	75歳以上(n=803)	73.0	8.3	0.4	18.3
	65～74歳(n=1,056)	73.9	16.9	1.2	8.0
かかりつけ薬局	全体(n=1,869)	60.6	21.2	3.8	14.4
	75歳以上(n=803)	65.3	12.1	2.2	20.4
	65～74歳(n=1,056)	57.3	28.0	4.9	9.8

40～64 歳のかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無について、「いる」は『かかりつけ医』が 52.6%、『かかりつけ歯科医』が 63.0%、『かかりつけ薬局』が 35.0%となっている。

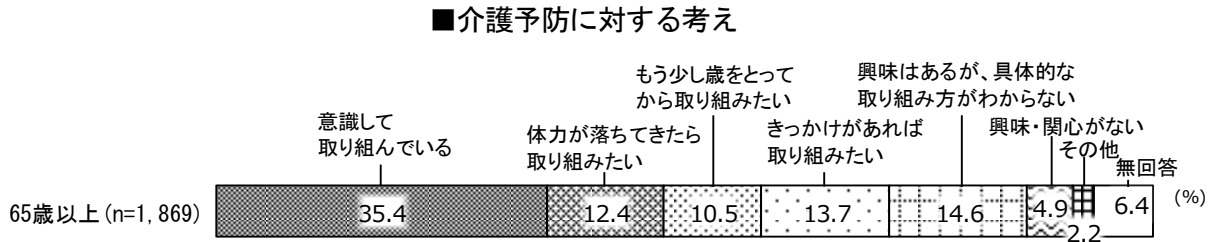
■かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無 (40～64 歳)



1. 市民一般調査

(8) 介護予防に対する考え (65歳以上のみ) (問12)

介護予防に対する考えは、「意識して取り組んでいる」(35.4%)が最も多く、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(14.6%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(13.7%)と続いている。



性別にみると、男性は「体力が落ちてきたら取り組みたい」(15.1%)、「もう少し歳をとってから取り組みたい」(12.3%)、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(17.4%)、「興味・関心がない」(7.1%)が女性に比べ多く、女性は「意識して取り組んでいる」(38.5%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(16.8%)が男性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「意識して取り組んでいる」(38.2%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「もう少し歳をとってから取り組みたい」(13.2%)が75歳以上に比べて多くなっている。

■介護予防に対する考え

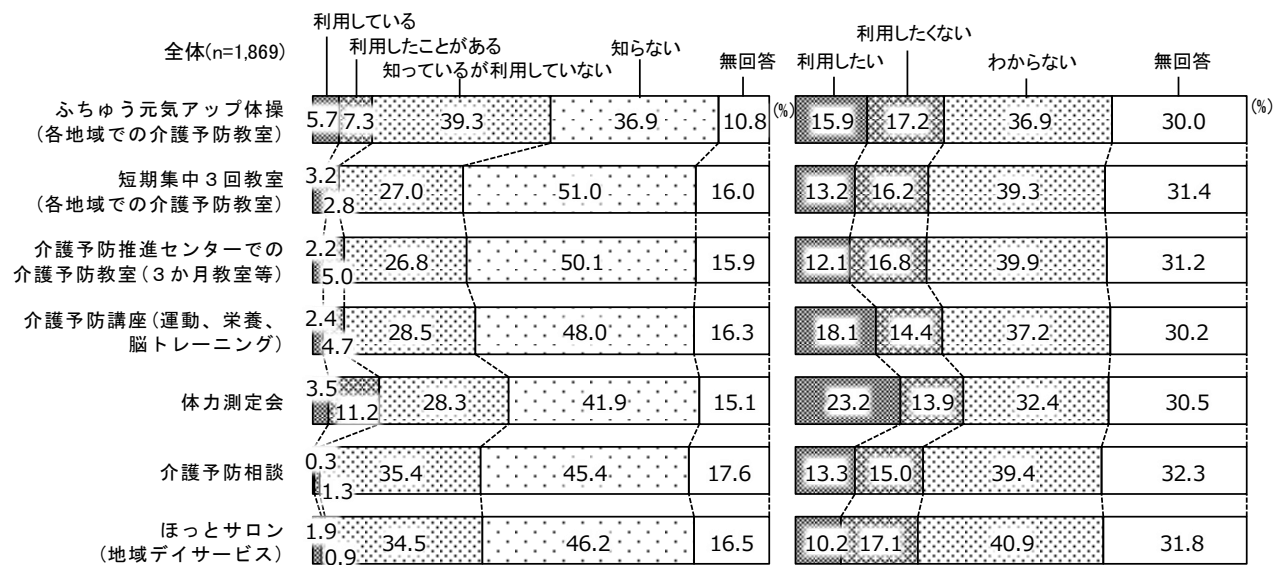
		意識して取り組んでいる	体力が落ちてきたら取り組みたい	もう少し歳をとってから取り組みたい	きっかけがあれば取り組みたい	興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない	興味・関心がない	その他	無回答
全体(n=1,869)		35.4	12.4	10.5	13.7	14.6	4.9	2.2	6.4
性別	男性(n=862)	31.6	15.1	12.3	10.3	17.4	7.1	1.3	5.0
	女性(n=977)	38.5	9.7	9.0	16.8	12.4	3.1	3.1	7.5
年齢別	75歳以上(n=803)	38.2	13.4	7.1	12.7	13.4	4.9	2.1	8.1
	65～74歳(n=1,056)	33.3	11.4	13.2	14.4	15.3	5.0	2.3	5.1

(9) 介護予防事業の利用状況、利用意向 (65歳以上のみ) (問13)

介護予防事業について、「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『体力測定会』(14.7%)が最も多く、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(13.0%)、『介護予防推進センターでの介護予防教室(3か月教室等)』(7.2%)と続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(52.3%)が最も多く、『体力測定会』(43.0%)、『ほっとサロン(地域デイサービス)』(37.3%)と続いている。

利用意向の「利用したい」は、『体力測定会』(23.2%)が最も多く、『介護予防講座(運動、栄養、脳トレーニング)』(18.1%)、『ふちゅう元気アップ体操(各地域での介護予防教室)』(15.9%)と続いている。

■介護予防事業の利用状況(左)、利用意向(右)



1. 市民一般調査

性別にみると、いずれの介護予防事業も、「知らない」は男性が女性に比べ多く、「利用したい」は男性が女性に比べ少なくなっている。

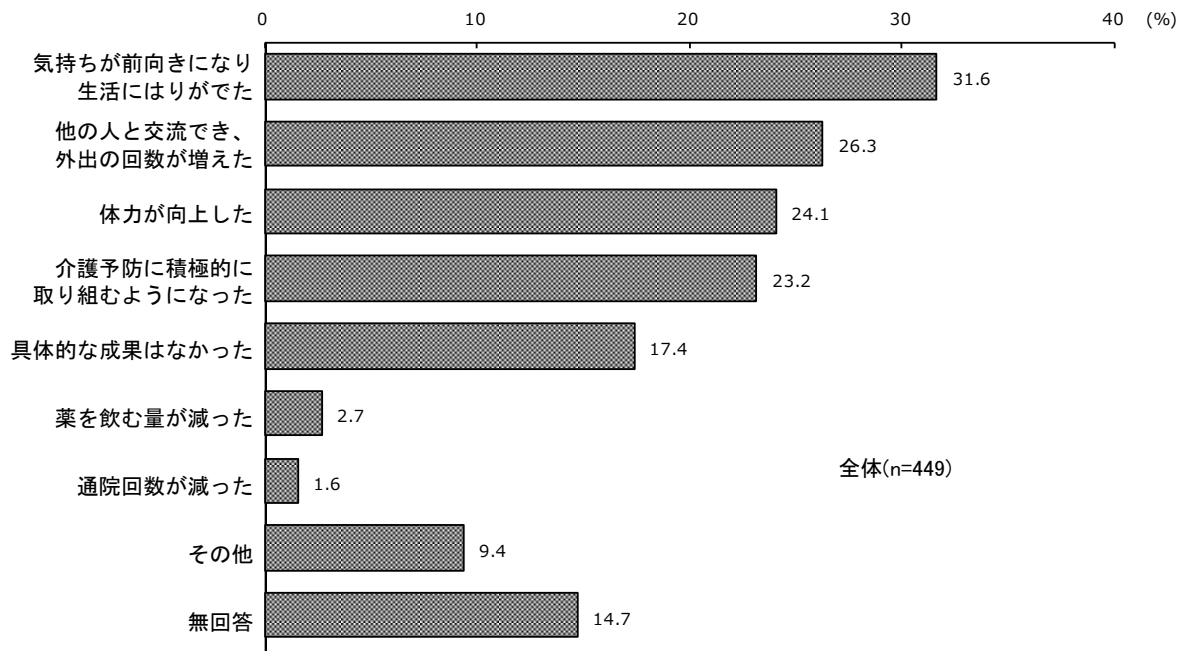
■介護予防事業の利用状況（左）、利用意向（右）

		る利用している	と利用したところ	いが知らない利用している	知らない	無回答	(%)			
							利用したい	ない利用したくない	わからない	無回答
ふちゅう元気アップ体操 (各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	5.7	7.3	39.3	36.9	10.8	15.9	17.2	36.9	30.0
	男性(n=862)	3.5	3.8	36.8	47.9	8.0	11.6	19.6	44.2	24.6
	女性(n=977)	7.5	10.4	41.8	27.1	13.2	19.7	15.5	30.3	34.6
短期集中3回教室(各地域での介護予防教室)	全体(n=1,869)	3.2	2.8	27.0	51.0	16.0	13.2	16.2	39.3	31.4
	男性(n=862)	1.6	2.1	24.0	60.2	12.1	10.2	18.2	45.6	26.0
	女性(n=977)	4.5	3.4	29.8	43.0	19.3	15.8	14.6	33.7	35.9
介護予防推進センターでの 介護予防教室(3か月教室等)	全体(n=1,869)	2.2	5.0	26.8	50.1	15.9	12.1	16.8	39.9	31.2
	男性(n=862)	1.0	3.1	23.1	60.2	12.5	10.2	17.9	46.3	25.6
	女性(n=977)	3.1	6.8	30.4	41.0	18.7	13.8	16.2	34.0	36.0
介護予防講座(運動、栄養、 脳トレーニング)	全体(n=1,869)	2.4	4.7	28.5	48.0	16.3	18.1	14.4	37.2	30.2
	男性(n=862)	0.9	2.6	26.3	57.8	12.4	13.9	16.4	44.8	24.9
	女性(n=977)	3.7	6.7	30.5	39.5	19.7	21.7	13.0	30.4	34.9
体力測定会	全体(n=1,869)	3.5	11.2	28.3	41.9	15.1	23.2	13.9	32.4	30.5
	男性(n=862)	2.1	7.3	27.3	51.0	12.3	19.7	16.2	39.2	24.8
	女性(n=977)	4.7	14.8	29.1	33.8	17.6	25.8	12.2	26.5	35.5
介護予防相談	全体(n=1,869)	0.3	1.3	35.4	45.4	17.6	13.3	15.0	39.4	32.3
	男性(n=862)	0.1	1.2	32.6	53.1	13.0	11.7	16.8	45.1	26.3
	女性(n=977)	0.5	1.4	38.1	38.6	21.4	14.8	13.6	34.1	37.5
ほっとサロン (地域デイサービス)	全体(n=1,869)	1.9	0.9	34.5	46.2	16.5	10.2	17.1	40.9	31.8
	男性(n=862)	0.5	0.3	30.3	55.5	13.5	8.5	18.4	46.9	26.2
	女性(n=977)	3.1	1.4	38.3	38.1	19.1	11.7	16.2	35.5	36.6

(10) 介護予防事業の成果（65歳以上のみ）（問13-1）

介護予防事業を1つでも「利用している」「利用したことがある」と回答した人に介護予防事業の成果を聞いたところ、「気持ちが前向きになり生活にはりがでた」（31.6%）が最も多く、「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」（26.3%）、「体力が向上した」（24.1%）と続いている。

■介護予防事業の成果（複数回答）



性別にみると、男性は「介護予防に積極的に取り組むようになった」（29.8%）が女性に比べ多く、女性は「他の人と交流でき、外出の回数が増えた」（30.4%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「薬を飲む量が減った」（4.0%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「具体的な成果はなかった」（23.6%）が75歳以上に比べ多くなっている。

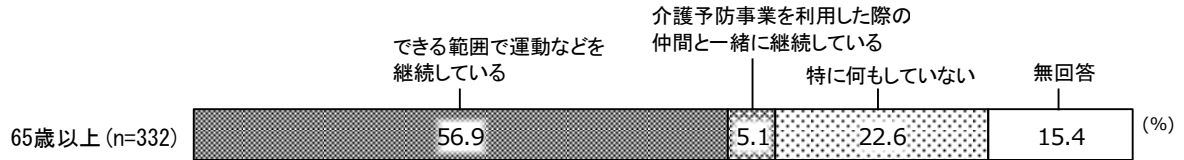
■介護予防事業の成果（複数回答）

		でな気 たり持 生ち 活が に前 は向 りき がに	増き他 え、の た外人 との交 交流 回数で が	体 力 が 向 上 し た	な に介 つ取 たり 組防 むに よ積 う極 的に	か 具 つ体 た的 な成 果は な	た 薬 を 飲 む 量 が 減 っ	通 院 回 数 が 減 っ た	そ の 他	無 回 答
全体(n=449)		31.6	26.3	24.1	23.2	17.4	2.7	1.6	9.4	14.7
性別	男性(n=124)	30.6	16.9	24.2	29.8	19.4	0.8	1.6	8.9	12.9
	女性(n=316)	32.3	30.4	24.4	20.6	17.1	3.2	1.6	9.2	14.9
年齢別	75歳以上(n=251)	35.1	28.7	26.3	25.1	12.4	4.0	2.0	7.6	17.1
	65～74歳(n=195)	27.2	23.1	21.5	21.0	23.6	0.5	1.0	11.8	11.3

(11) 介護予防サービス利用後の継続状況（65歳以上のみ）（問13-2）

介護予防相談以外の介護予防事業を1つでも「利用したことがある」と回答した人に介護予防サービス利用後の継続状況を聞いたところ、「できる範囲で運動などを継続している」（56.9%）が最も多く、「特に何もしていない」（22.6%）、「介護予防事業を利用した際の仲間と一緒に継続している」（5.1%）と続いている。

■介護予防サービス利用後の継続状況



地区別にみると、第5地区は「特に何もしていない」（36.0%）が全体に比べ多くなっている。

■介護予防サービス利用後の継続状況

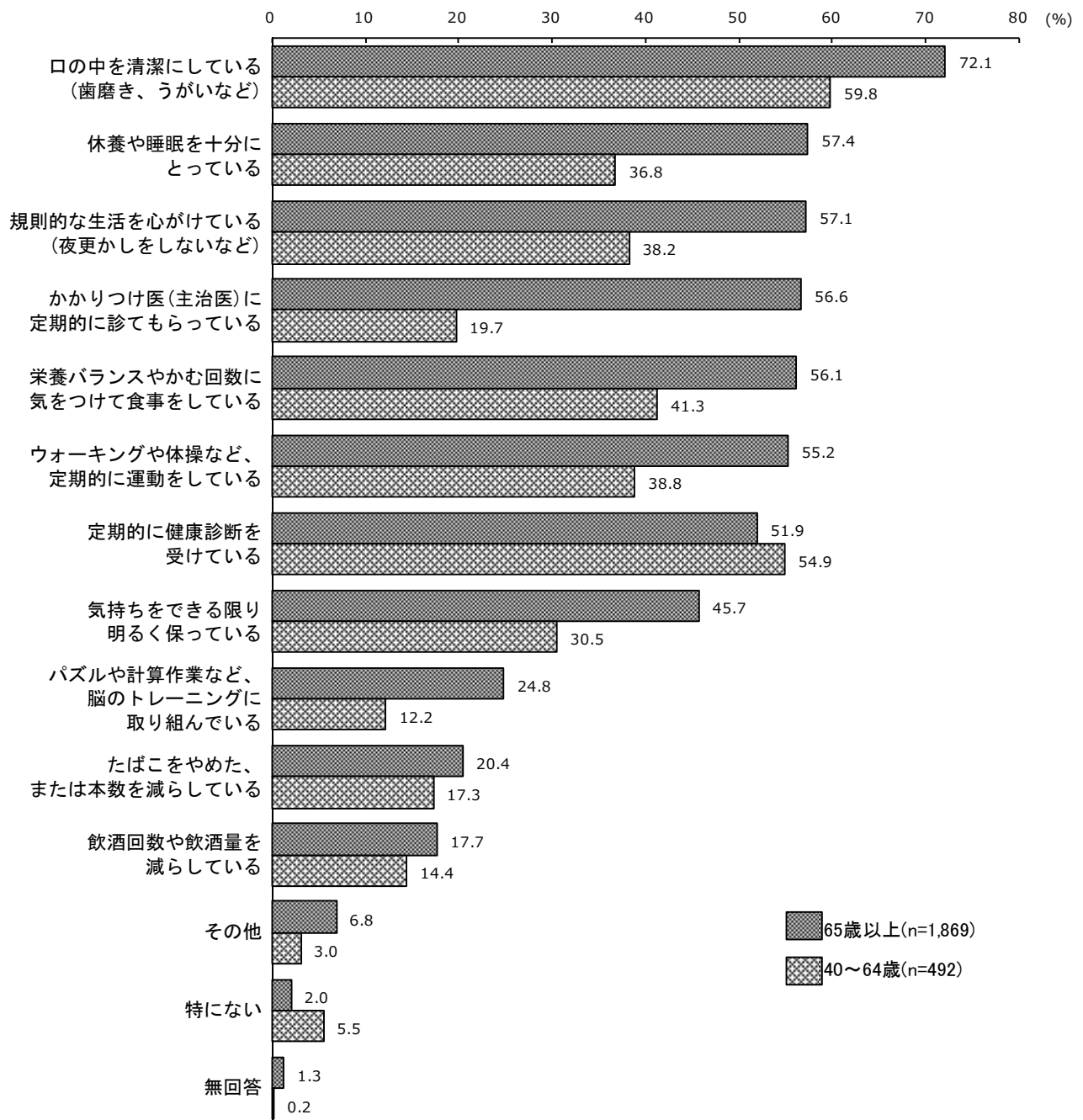
		(%)			
		できる範囲で運動などを継続している	介護予防事業を利用した際の仲間と一緒に継続している	特に何もしていない	無回答
全体(n=332)		56.9	5.1	22.6	15.4
地区別	第1地区(n=53)	60.4	1.9	22.6	15.1
	第2地区(n=64)	59.4	6.3	20.3	14.1
	第3地区(n=53)	60.4	-	15.1	24.5
	第4地区(n=52)	50.0	9.6	26.9	13.5
	第5地区(n=50)	44.0	8.0	36.0	12.0
	第6地区(n=56)	64.3	5.4	17.9	12.5

(12) 健康や介護予防のために気をつけていること（問 14）

健康や介護予防のために気をつけていることは、65 歳以上は「口の中を清潔にしている（歯磨き、うがいなど）」（72.1%）が最も多く、「休養や睡眠を十分にとっている」（57.4%）、「規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど）」（57.1%）と続いている。

40～64 歳は、「口の中を清潔にしている（歯磨き、うがいなど）」（59.8%）が最も多く、「定期的に健康診断を受けている」（54.9%）、「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている」（41.3%）と続いている。

■健康や介護予防のために気をつけていること（複数回答）



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「定期的に健康診断を受けている」(54.8%)、「たばこをやめた、または本数を減らしている」(37.6%)、「飲酒回数や飲酒量を減らしている」(32.1%)が女性に比べ多く、女性は「口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)」(79.1%)、「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている」(63.4%)、「気持ちをできる限り明るく保っている」(51.1%)、「パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる」(27.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)」(75.2%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(63.9%)、「規則的な生活を心がけている(夜更かしをしないなど)」(60.9%)、「かかりつけ医(主治医)に定期的に診てもらっている」(67.0%)、「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている」(62.4%)、「気持ちをできる限り明るく保っている」(49.7%)、「パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる」(28.1%)が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「定期的に健康診断を受けている」(58.4%)が全体に比べ多くなっている。

■健康や介護予防のために気をつけていること(複数回答)(65歳以上)

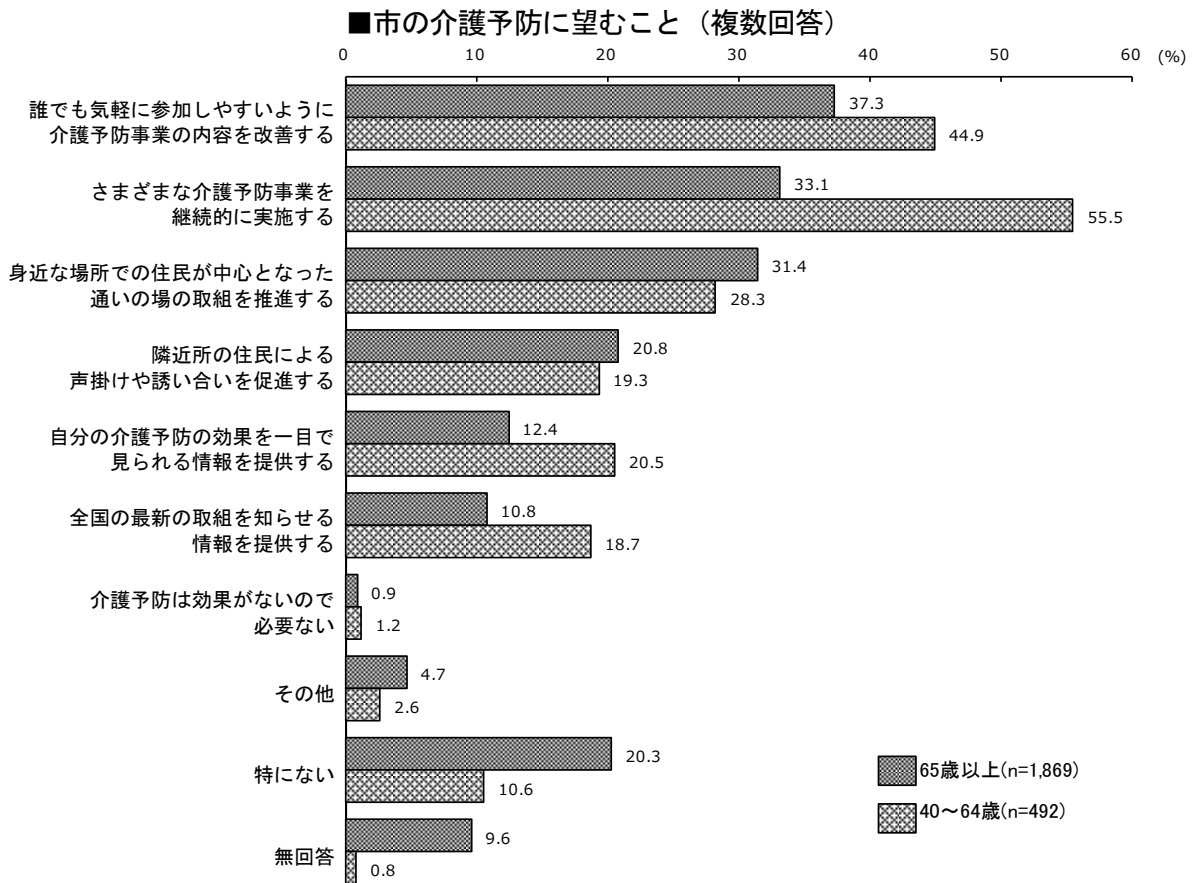
(%)

	口の中を清潔にしている(歯磨き、うがいなど)	休養や睡眠を十分にとっている	規則的な生活を心がけている(夜更かしをしないなど)	定期的にかかりつけ医(主治医)に診てもらっている	栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている	ウォーキングや体操など、定期的に運動をしている	定期的に健康診断を受けている	気持ちをできる限り明るく保っている	パズルや計算作業など、脳のトレーニングに取り組んでいる	たばこをやめた、または本数を減らしている	飲酒回数や飲酒量を減らしている	特になし	無回答	
全体(n=1,869)	72.1	57.4	57.1	56.6	56.1	55.2	51.9	45.7	24.8	20.4	17.7	2.0	1.3	
性別	男性(n=862)	64.4	58.5	57.0	58.7	47.6	56.5	54.8	39.4	21.8	37.6	32.1	2.8	1.3
	女性(n=977)	79.1	56.7	57.8	55.0	63.4	54.0	49.2	51.1	27.5	5.1	4.5	1.4	1.2
年齢別	75歳以上(n=803)	75.2	63.9	60.9	67.0	62.4	53.5	53.8	49.7	28.1	19.9	17.7	1.5	1.6
	65～74歳(n=1,056)	69.6	52.3	54.3	48.5	51.2	56.6	50.5	42.5	22.2	20.8	17.4	2.5	1.0
地区別	第1地区(n=344)	70.9	60.2	59.6	53.5	54.1	57.8	58.4	46.2	25.3	21.5	18.9	1.2	0.6
	第2地区(n=398)	71.4	57.3	56.3	58.8	57.0	59.5	53.0	45.5	24.9	21.9	18.6	1.3	0.8
	第3地区(n=339)	71.1	59.0	57.5	61.4	58.1	55.2	51.3	43.4	24.8	20.4	16.2	2.9	1.5
	第4地区(n=221)	75.1	52.9	52.9	57.5	53.8	53.4	47.5	46.6	22.2	16.3	16.7	2.3	1.8
	第5地区(n=245)	74.7	54.7	61.6	53.1	57.6	54.3	47.8	42.0	24.9	18.4	19.6	2.0	1.6
	第6地区(n=296)	71.6	59.1	55.4	53.7	56.1	49.7	50.0	50.0	25.0	21.6	15.2	3.0	1.4

(13) 市の介護予防に望むこと (問 15)

市の介護予防に望むことは、65 歳以上は「誰でも気軽に参加しやすいように介護予防事業の内容を改善する」(37.3%) が最も多く、「さまざまな介護予防事業を継続的に実施する」(33.1%)、「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(31.4%)と続いている。

40～64 歳は、「さまざまな介護予防事業を継続的に実施する」(55.5%) が最も多く、「誰でも気軽に参加しやすいように介護予防事業の内容を改善する」(44.9%)、「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(28.3%)と続いている。



65 歳以上について性別にみると、男性は「自分の介護予防の効果を一目で見られる情報を提供する」(14.7%)、「全国の最新の取組を知らせる情報を提供する」(12.9%)が女性に比べ多く、女性は「身近な場所での住民が中心となった通いの場の取組を推進する」(34.7%)、「隣近所の住民による声掛けや誘い合いを促進する」(23.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74 歳は「自分の介護予防の効果を一目で見られる情報を提供する」(14.8%)、「全国の最新の取組を知らせる情報を提供する」(11.9%)が 75 歳以上に比べ多くなっている。

■市の介護予防に望むこと (複数回答) (65 歳以上)

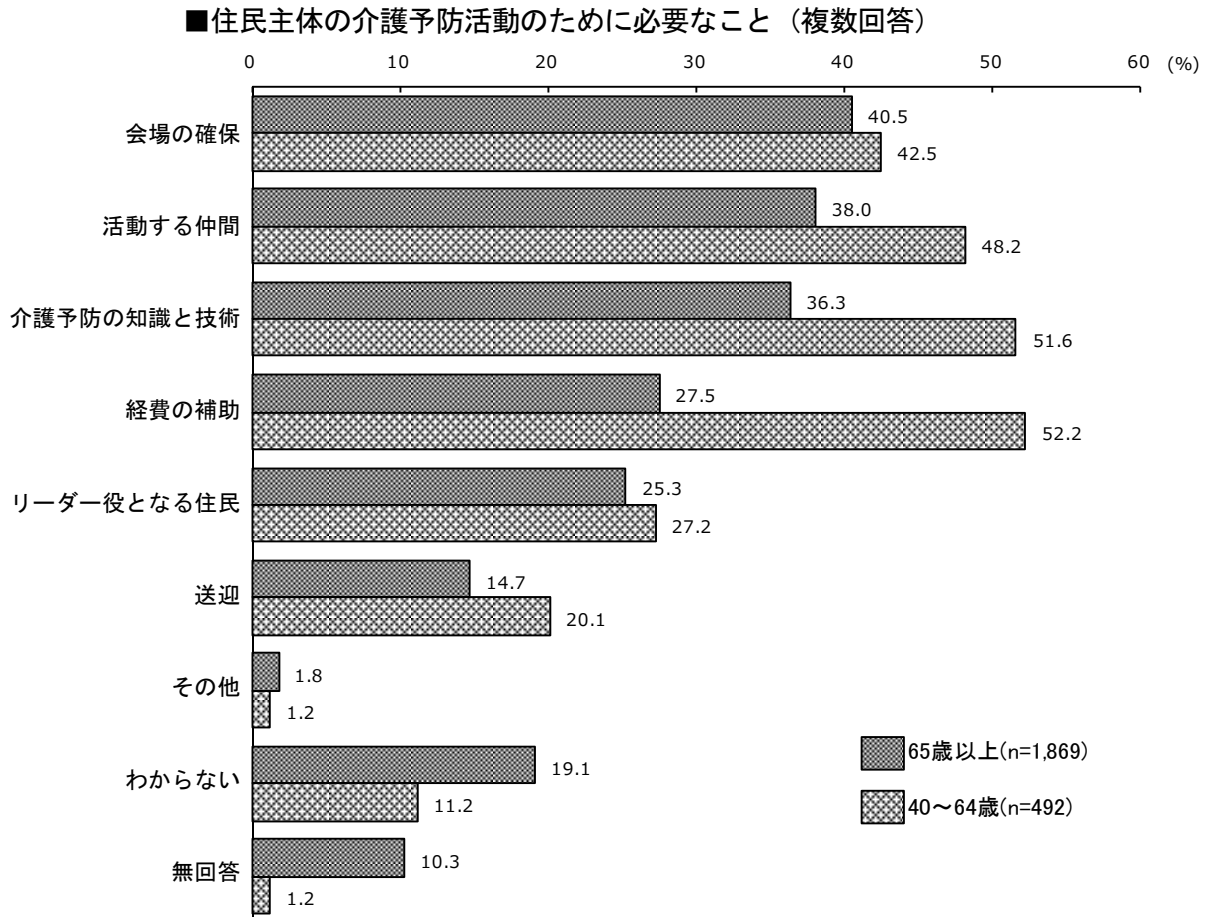
		を 防 参 誰	す 継 護 さ	推 の と の 身	促 や に 隣	る 情 目 防 自	する 取 全	必 果 介	そ の	特 に	無 回
		防 上 加 参 誰	す 継 護 さ	推 の と の 身	促 や に 隣	る 情 目 防 自	する 取 全	必 果 介	そ の	特 に	無 回
		改 事 う 加 参 誰	る 続 予 ま	進 の と の 身	進 誘 よ 近	報 での 分	る 情 組 国	要 な 予	他	い	答
		善 業 に し も	的 防 ざ	進 の と の 身	進 誘 よ 近	を 見 効	を 知 最	い 防		の	
		す の 介 や 気	に 事 ま	す の つ 民 な	す いる 所	を 提 果 介	を 提 新	い の		は	
		る 内 護 す 軽	実 業 な	取 た が 場	る 合 声 の	供 れ を 護	供 せ の	は			
		容 予 い に	施 を 介	を い 心 で	を け 民	する 一 予		で 効			
全体(n=1,869)		37.3	33.1	31.4	20.8	12.4	10.8	0.9	4.7	20.3	9.6
性別	男性(n=862)	36.8	35.4	27.7	18.3	14.7	12.9	0.9	5.3	23.4	7.3
	女性(n=977)	37.5	31.2	34.7	23.1	10.3	8.9	0.7	3.8	17.5	11.5
年齢別	75歳以上(n=803)	36.4	33.0	32.1	22.2	9.3	9.1	1.4	5.7	19.7	11.6
	65～74歳(n=1,056)	38.1	33.3	30.6	19.5	14.8	11.9	0.5	3.8	20.7	8.0

1. 市民一般調査

(14) 住民主体の介護予防活動のために必要なこと（問16）

住民主体の介護予防活動のために必要なことは、65歳以上は「会場の確保」（40.5%）が最も多く、「活動する仲間」（38.0%）、「介護予防の知識と技術」（36.3%）と続いている。

40～64歳は、「経費の補助」（52.2%）が最も多く、「介護予防の知識と技術」（51.6%）、「活動する仲間」（48.2%）と続いている。



65歳以上について性別にみると、女性は「活動する仲間」（42.5%）が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75歳以上は「送迎」（16.9%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「活動する仲間」（41.6%）、「経費の補助」（30.0%）が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「リーダー役となる住民」（31.2%）が全体に比べ多くなっている。

■住民主体の介護予防活動のために必要なこと（複数回答）（65歳以上）

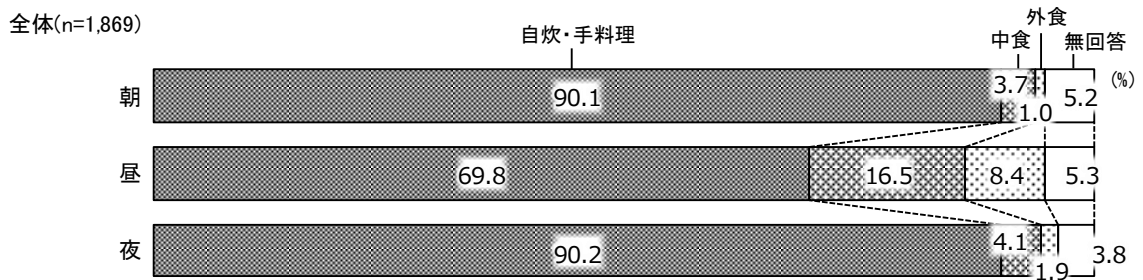
		確会 保場 の	る活 仲動 間す	術識防介 との護 技知予	補経 助費 の	住とダ 民な る役	送 迎	そ 他	なわ い か ら	無 回 答
全体(n=1,869)		40.5	38.0	36.3	27.5	25.3	14.7	1.8	19.1	10.3
性別	男性(n=862)	39.3	33.4	34.9	29.1	25.5	14.6	2.1	22.6	8.9
	女性(n=977)	41.9	42.5	37.8	26.1	25.4	14.9	1.4	16.1	11.0
年齢別	75歳以上(n=803)	38.9	33.6	34.2	24.2	23.3	16.9	1.5	17.9	13.8
	65～74歳(n=1,056)	42.0	41.6	38.1	30.0	26.8	13.1	2.0	20.0	7.3
地区別	第1地区(n=344)	42.2	39.8	33.7	27.9	26.2	14.0	1.7	18.6	9.0
	第2地区(n=398)	41.5	33.9	36.4	28.1	22.4	13.6	1.5	22.4	9.3
	第3地区(n=339)	43.1	38.9	40.4	31.3	27.4	17.1	1.8	16.8	11.8
	第4地区(n=221)	41.6	42.1	36.2	28.1	31.2	17.6	1.8	11.8	15.4
	第5地区(n=245)	40.4	41.2	35.9	27.8	27.3	13.5	2.4	18.8	7.3
	第6地区(n=296)	35.1	36.1	35.5	22.6	19.9	13.9	1.0	24.0	8.1

6 生活習慣について

(1) 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（問17）

65歳以上の普段の食事の状況について、「自炊・手料理」は『朝』が90.1%、『昼』が69.8%、『夜』が90.2%となっている。

■ 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（65歳以上）



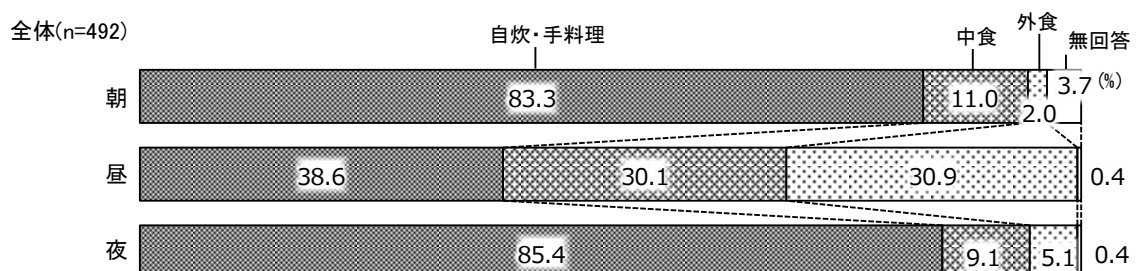
65歳以上について性別にみると、男性は「外食」が女性に比べ多く、女性は「自炊・手料理」が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、65～74歳は「外食」が75歳以上に比べ多くなっている。

■ 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（65歳以上）

			料・自 理手炊	中 食	外 食	答無 回
性別	朝	全体(n=1,869)	90.1	3.7	1.0	5.2
		男性(n=862)	86.9	5.3	1.7	6.0
		女性(n=977)	93.0	2.1	0.4	4.4
	昼	全体(n=1,869)	69.8	16.5	8.4	5.3
		男性(n=862)	64.4	18.0	11.9	5.7
		女性(n=977)	74.5	15.3	5.4	4.8
夜	全体(n=1,869)	90.2	4.1	1.9	3.8	
	男性(n=862)	87.6	5.7	3.1	3.6	
	女性(n=977)	92.4	2.7	0.9	4.0	
年齢別	朝	全体(n=1,869)	90.1	3.7	1.0	5.2
		65～74歳(n=1,056)	89.2	4.3	1.6	4.9
		75歳以上(n=803)	91.3	3.0	0.2	5.5
	昼	全体(n=1,869)	69.8	16.5	8.4	5.3
		65～74歳(n=1,056)	66.3	18.6	11.3	3.9
		75歳以上(n=803)	74.5	13.8	4.6	7.1
	夜	全体(n=1,869)	90.2	4.1	1.9	3.8
		65～74歳(n=1,056)	91.0	4.1	2.6	2.4
		75歳以上(n=803)	89.2	4.1	1.1	5.6

40～64歳の「自炊・手料理」は、『朝』が83.3%、『昼』が38.6%、『夜』が85.4%となっている。

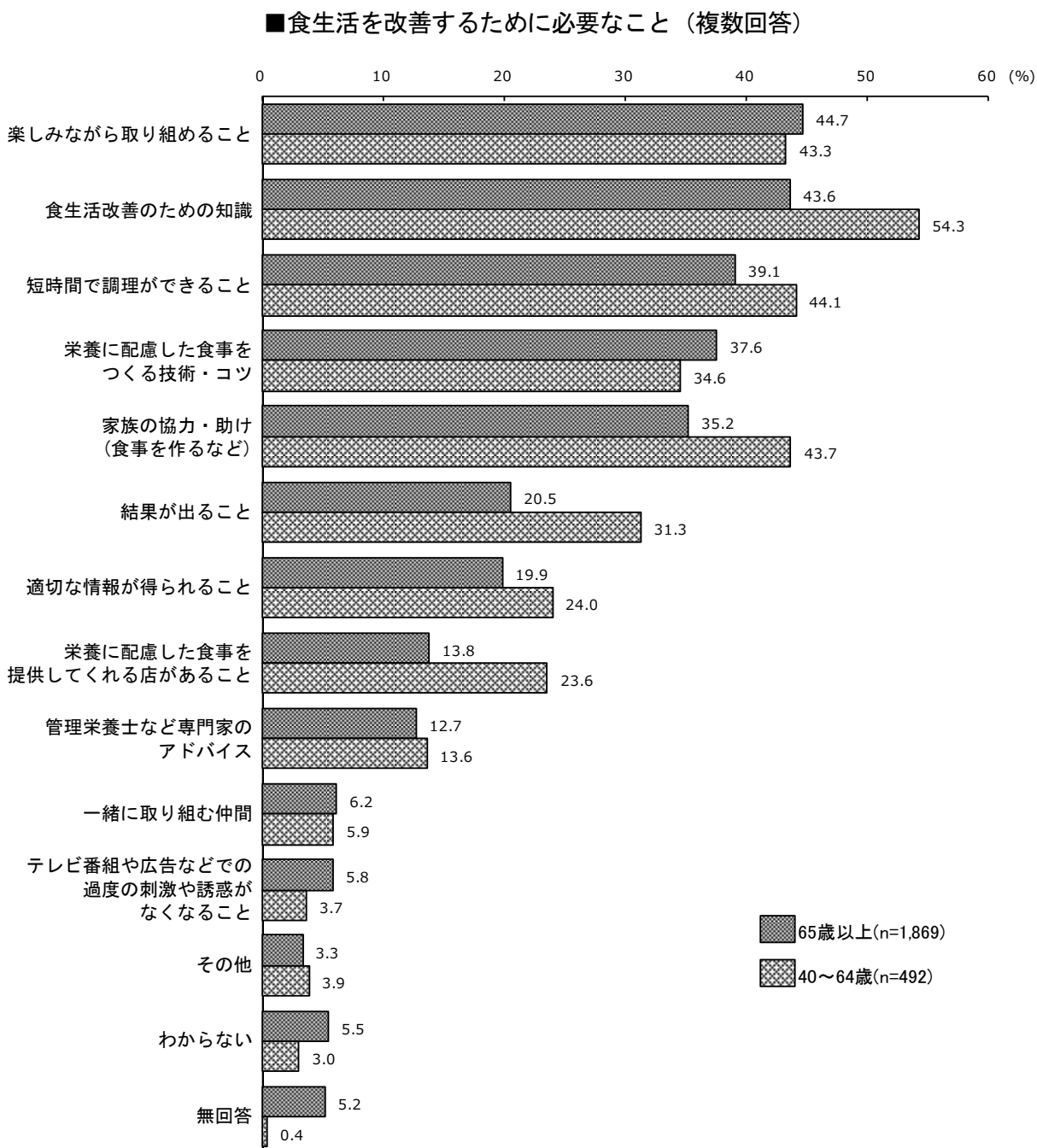
■ 普段の食事の状況（自炊・手料理、中食、外食）（40～64歳）



(2) 食生活を改善するために必要なこと (問18)

食生活を改善するために必要なことは、65歳以上は「楽しみながら取り組めること」(44.7%)が最も多く、「食生活改善のための知識」(43.6%)、「短時間で調理ができること」(39.1%)と続いている。

40～64歳は、「食生活改善のための知識」(54.3%)が最も多く、「短時間で調理ができること」(44.1%)、「家族の協力・助け(食事を作るなど)」(43.7%)と続いている。



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「家族の協力・助け（食事を作るなど）」（47.8%）が女性に比べ多く、女性は「楽しみながら取り組めること」（53.2%）、「短時間で調理ができること」（51.0%）、「栄養に配慮した食事をつくる技術・コツ」（40.0%）、「結果が出ること」（22.3%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「適切な情報が得られること」（23.0%）、「結果が出ること」（23.4%）が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第1地区は「短時間で調理ができること」（44.8%）、第2地区は「結果が出ること」（24.6%）が全体に比べ多くなっている。

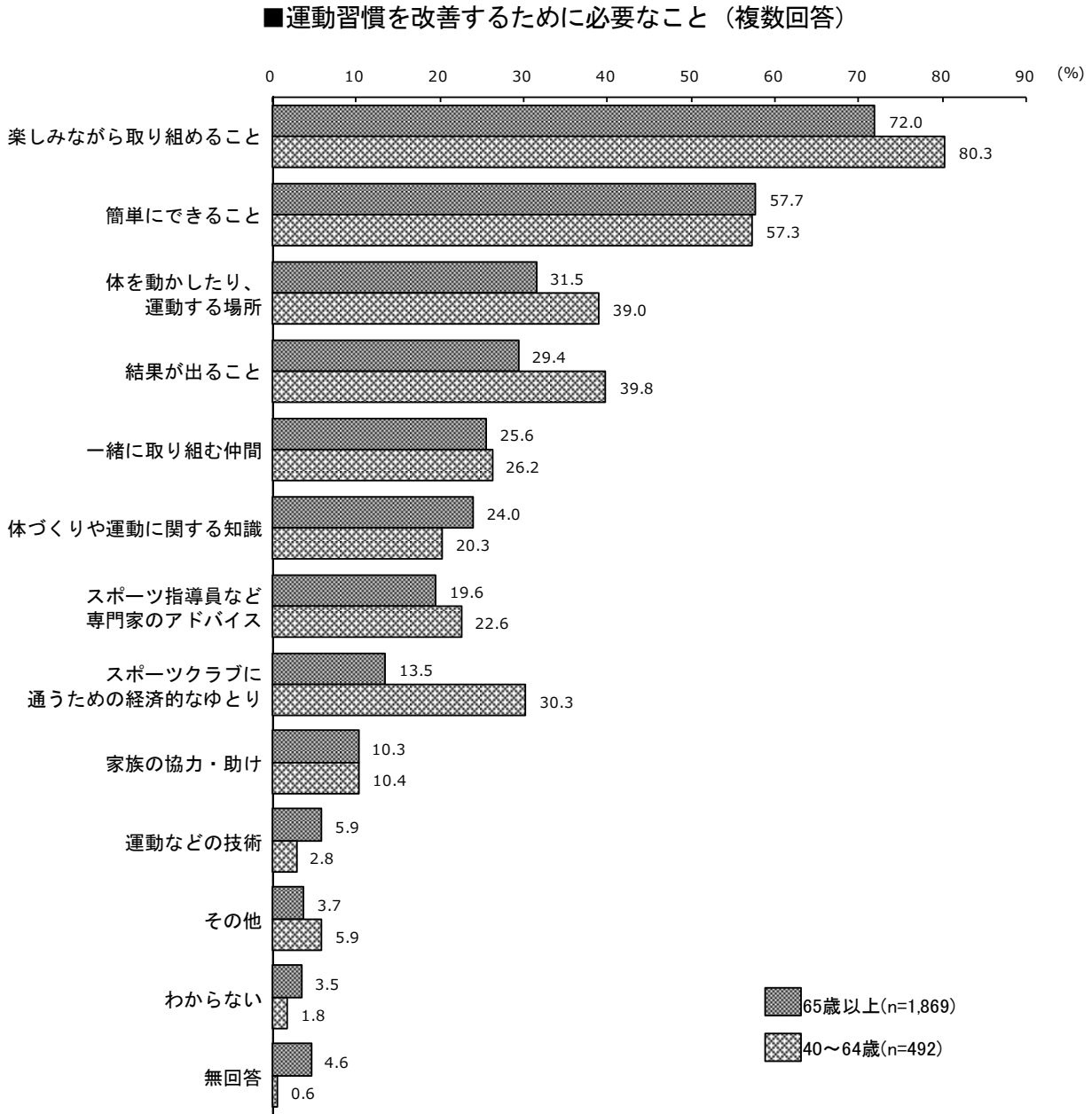
■食生活を改善するために必要なこと（複数回答）（65歳以上）

		楽しみながら取り組めること	食生活改善のための知識	短時間で調理ができること	栄養に配慮した食事をつくる技術・コツ	家族の協力・助け（食事を作るなど）	適切な情報が得られること	結果が出ること	栄養に配慮した店が提案すること	栄養士など専門家のアドバイス	一緒に取り組む仲間	がなくなること	テレビ番組や広告など	その他	わからない	無回答
全体(n=1,869)		44.7	43.6	39.1	37.6	35.2	19.9	20.5	13.8	12.7	6.2	5.8	3.3	5.5	5.2	
性別	男性(n=862)	35.3	44.5	26.0	34.7	47.8	18.9	18.4	13.7	11.5	5.1	6.5	3.0	8.0	5.0	
	女性(n=977)	53.2	42.8	51.0	40.0	24.5	20.9	22.3	14.0	14.0	7.1	5.2	3.6	2.9	5.4	
年齢別	75歳以上(n=803)	43.6	42.1	38.7	39.1	36.6	15.8	16.9	14.7	13.7	5.5	6.2	3.4	5.5	6.5	
	65～74歳(n=1,056)	45.4	44.7	39.5	36.4	34.2	23.0	23.4	12.9	12.0	6.4	5.6	3.2	5.4	4.3	
地区別	第1地区(n=344)	43.3	39.2	44.8	39.8	32.0	19.8	20.1	16.3	13.4	5.5	6.7	4.7	6.4	5.2	
	第2地区(n=398)	46.2	47.7	36.4	34.7	36.2	22.9	24.6	13.8	13.8	4.8	5.0	3.5	7.3	4.5	
	第3地区(n=339)	44.5	42.8	37.8	36.3	35.4	20.1	18.9	12.7	11.8	6.2	5.3	5.6	4.4	6.2	
	第4地区(n=221)	44.3	43.9	40.7	40.7	38.9	19.9	22.6	15.8	14.5	5.4	5.0	1.4	4.1	6.3	
	第5地区(n=245)	46.5	44.1	38.8	42.0	31.8	19.6	18.8	9.4	13.1	8.2	6.1	1.6	4.1	5.3	
	第6地区(n=296)	42.9	44.3	37.8	34.1	38.9	15.9	17.9	13.9	10.5	7.1	6.8	1.7	5.1	3.0	

(3) 運動習慣を改善するために必要なこと (問19)

運動習慣を改善するために必要なことは、65歳以上は「楽しみながら取り組めること」(72.0%)が最も多く、「簡単にできること」(57.7%)、「体を動かしたり、運動する場所」(31.5%)と続いている。

40～64歳は、「楽しみながら取り組めること」(80.3%)が最も多く、「簡単にできること」(57.3%)、「結果が出ること」(39.8%)と続いている。



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「家族の協力・助け」(13.1%)、「運動などの技術」(7.5%)が女性に比べ多く、女性は「楽しみながら取り組めること」(75.2%)、「簡単にできること」(62.8%)、「一緒に取り組む仲間」(28.4%)、「スポーツ指導員など専門家のアドバイス」(23.7%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「家族の協力・助け」(13.4%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「簡単にできること」(60.9%)、「結果が出ること」(32.3%)、「スポーツクラブに通うための経済的なゆとり」(16.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

■運動習慣を改善するために必要なこと（複数回答）（65歳以上）

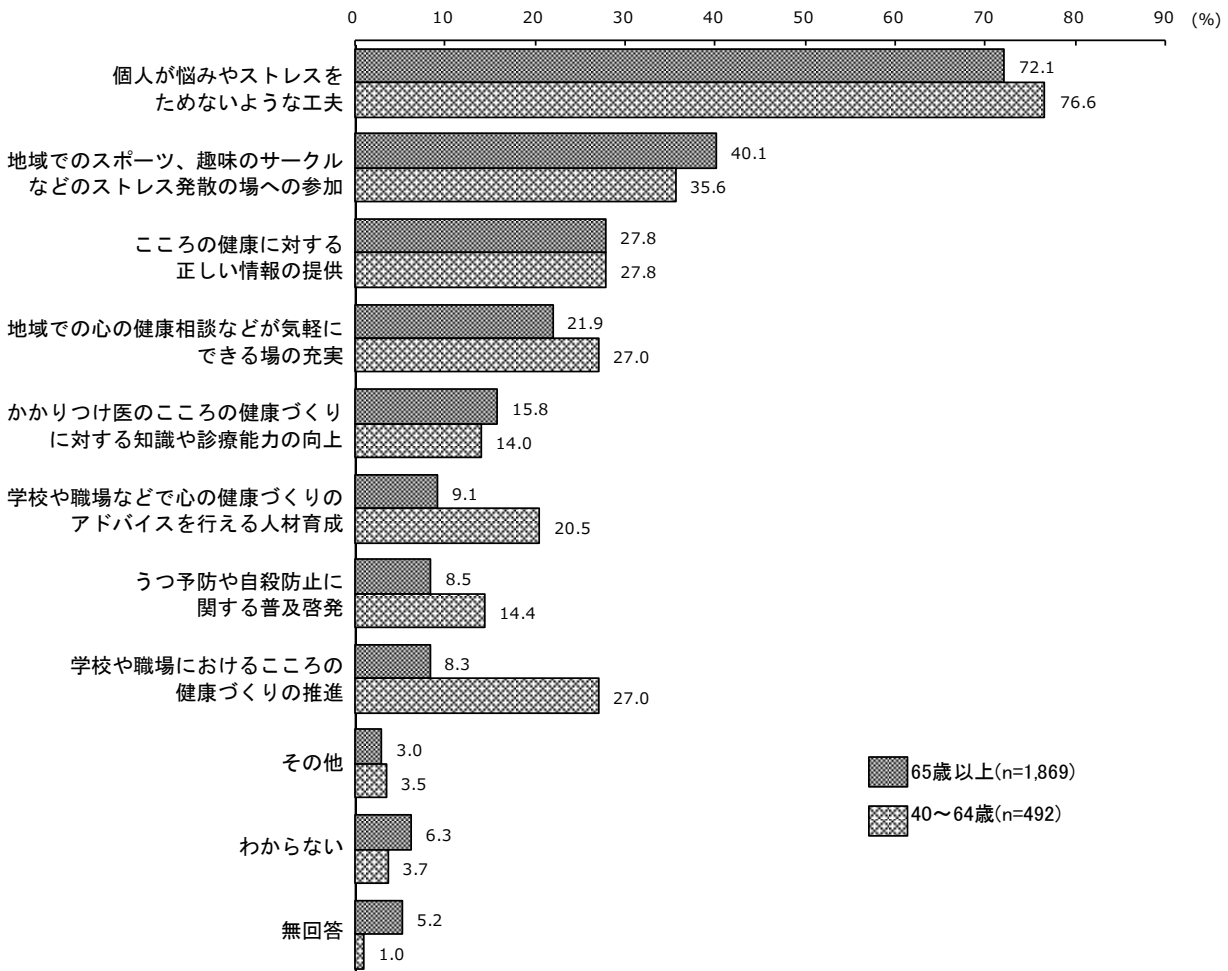
		組 め し み な が ら 取 り こ と	簡 単 に で き る こ と	運 動 を 動 か し た り 、 場 所	結 果 が 出 る こ と	一 緒 に 取 り 組 む 仲 間	体 づ く り や 運 動 に 関 す る 知 識	イ ド ス ポ ー ツ 専 門 家 の 指 導 員 な ど の ア ド バ イ ス	な ゆ と り の 経 済 的 に 通 う た め の ク ラ ブ	ス ポ ー ツ の 経 済 的 に 通 う た め の ク ラ ブ	家 族 の 協 力 ・ 助 け	運 動 な ど の 技 術	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		72.0	57.7	31.5	29.4	25.6	24.0	19.6	13.5	10.3	5.9	3.7	3.5	4.6	
性別	男性(n=862)	68.3	52.7	30.7	28.9	22.5	25.8	14.6	14.0	13.1	7.5	3.6	4.5	4.1	
	女性(n=977)	75.2	62.8	32.3	30.1	28.4	22.5	23.7	13.1	7.9	4.5	3.5	2.7	5.0	
年齢別	75歳以上(n=803)	69.6	53.5	31.0	25.5	26.7	22.7	17.4	9.7	13.4	5.7	5.0	4.2	6.6	
	65～74歳(n=1,056)	73.7	60.9	31.8	32.3	24.6	24.8	21.0	16.3	7.9	6.0	2.7	2.8	3.1	

(4) こころの健康づくりのために必要なこと (問 20)

こころの健康づくりのために必要なことは、65歳以上は「個人が悩みやストレスをためないような工夫」(72.1%)が最も多く、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」(40.1%)、「こころの健康に対する正しい情報の提供」(27.8%)と続いている。

40～64歳は、「個人が悩みやストレスをためないような工夫」(76.6%)が最も多く、「地域でのスポーツ、趣味のサークルなどのストレス発散の場への参加」(35.6%)、「こころの健康に対する正しい情報の提供」(27.8%)と続いている。

■こころの健康づくりのために必要なこと (複数回答)



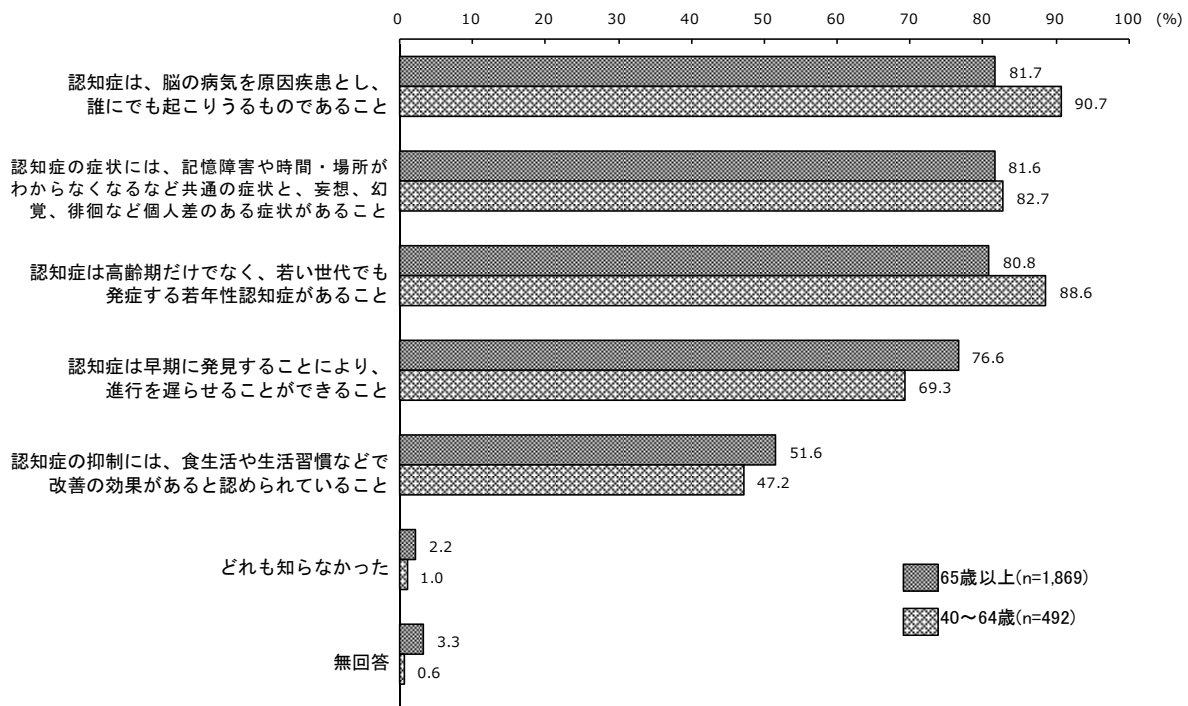
7 認知症について

(1) 認知症について知っていること (問 21)

認知症について知っていることは、65 歳以上は「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(81.7%)が最も多く、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(81.6%)、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(80.8%)と続いている。

40～64 歳は、「認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること」(90.7%)が最も多く、「認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること」(88.6%)、「認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること」(82.7%)と続いている。

■ 認知症について知っていること (複数回答)



65 歳以上について年齢別にみると、75 歳以上はいずれの内容も 65～74 歳に比べ少なくなっている。

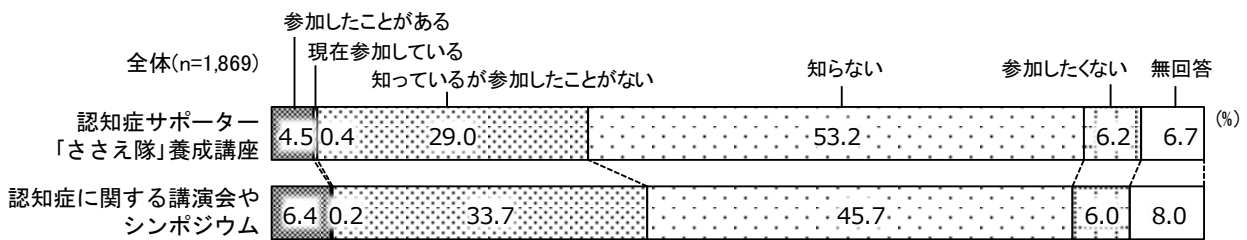
■ 認知症について知っていること (複数回答) (65 歳以上)

		認知症について知っていること (複数回答) (65 歳以上)						(%)
		認知症は、脳の病気を原因疾患とし、誰にでも起こりうるものであること	認知症の症状には、記憶障害や時間・場所がわからなくなるなど共通の症状と、妄想、幻覚、徘徊など個人差のある症状があること	認知症は高齢期だけでなく、若い世代でも発症する若年性認知症があること	認知症は早期に発見することにより、進行を遅らせることができること	認知症の抑制には、食生活や生活習慣などで改善の効果があると認められていること	どれも知らなかった	無回答
全体(n=1,869)		81.7	81.6	80.8	76.6	51.6	2.2	3.3
年齢別	75歳以上(n=803)	77.8	78.5	74.7	73.6	49.3	3.0	4.6
	65～74歳(n=1,056)	84.8	84.0	85.5	78.9	53.3	1.7	2.3

(2) 認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (問 22)

65 歳以上の認知症予防啓発活動について、「参加したことがある」「現在参加している」を合わせた“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が 4.9%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が 6.6%となっている。「参加したことがある」「現在参加している」「知っているが参加したことがない」を合わせた“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が 33.9%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が 40.3%となっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (65 歳以上)



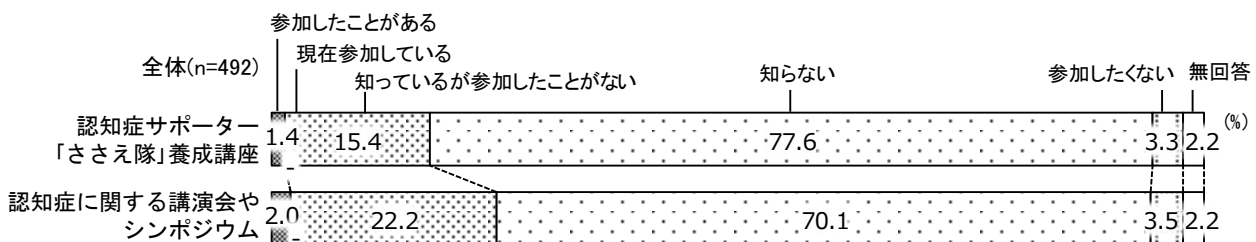
65 歳以上について性別にみると、男性は「知らない」が女性に比べ多くなっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (65 歳以上)

活動	全体(n)	認知状況					無回答
		と参加したことがある	現在参加している	知っているが参加したことがない	知らない	参加したくない	
認知症サポーター「ささえ隊」養成講座	全体(n=1,869)	4.5	0.4	29.0	53.2	6.2	6.7
	男性(n=862)	3.8	0.5	20.1	65.0	6.3	4.4
	女性(n=977)	5.3	0.3	36.5	43.2	6.0	8.6
認知症に関する講演会やシンポジウム	全体(n=1,869)	6.4	0.2	33.7	45.7	6.0	8.0
	男性(n=862)	4.3	0.1	26.5	56.6	6.7	5.8
	女性(n=977)	8.4	0.3	40.2	36.2	5.4	9.4

40～64 歳の“参加状況”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が 1.4%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が 2.0%となっている。“認知度”は、『認知症サポーター「ささえ隊」養成講座』が 16.8%、『認知症に関する講演会やシンポジウム』が 24.2%となっている。

■認知症予防啓発活動への参加・認知状況 (40～64 歳)

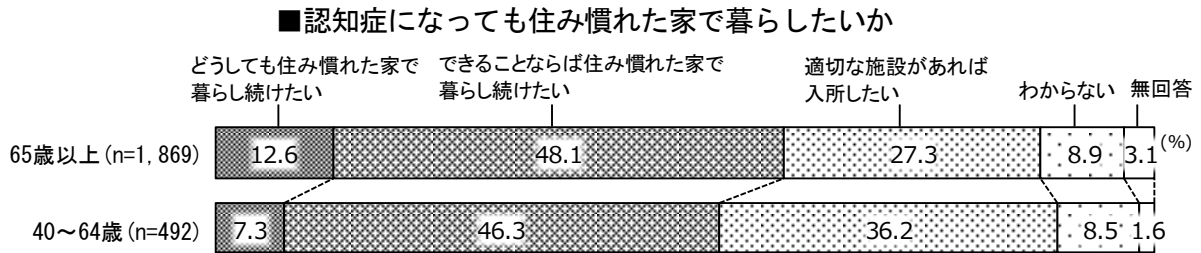


1. 市民一般調査

(3) 認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (問 23)

認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか聞いたところ、65 歳以上は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(48.1%) が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(27.3%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(12.6%) と続いている。

40～64 歳は、「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(46.3%) が最も多く、「適切な施設があれば入所したい」(36.2%)、「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(7.3%) と続いている。



65 歳以上について性別にみると、男性は「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(15.4%) が女性に比べ多く、女性は「適切な施設があれば入所したい」(31.6%) が男性に比べ多くなっている。年齢別にみると、75 歳以上は「どうしても住み慣れた家で暮らし続けたい」(16.6%) が 65～74 歳に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (65 歳以上)

(%)

		続家住ど けでみ うた暮 慣し いら れて した も	た暮慣な で いら れら き した ば る 続家 住こ けで みと	所が適 しあ 切 たれ な い ば施 入 設	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		12.6	48.1	27.3	8.9	3.1
性別	男性(n=862)	15.4	49.4	22.3	10.6	2.3
	女性(n=977)	10.0	47.0	31.6	7.7	3.7
年齢別	75歳以上(n=803)	16.6	46.3	25.0	8.1	4.0
	65～74歳(n=1,056)	9.7	49.3	29.1	9.5	2.5

さらに居住形態別にみると、持ち家の一戸建ての人は「できることならば住み慣れた家で暮らし続けたい」(52.8%)、民間賃貸の集合住宅の人は「適切な施設があれば入所したい」(44.2%) が全体に比べ多くなっている。

■認知症になっても住み慣れた家で暮らしたいか (65 歳以上)

(%)

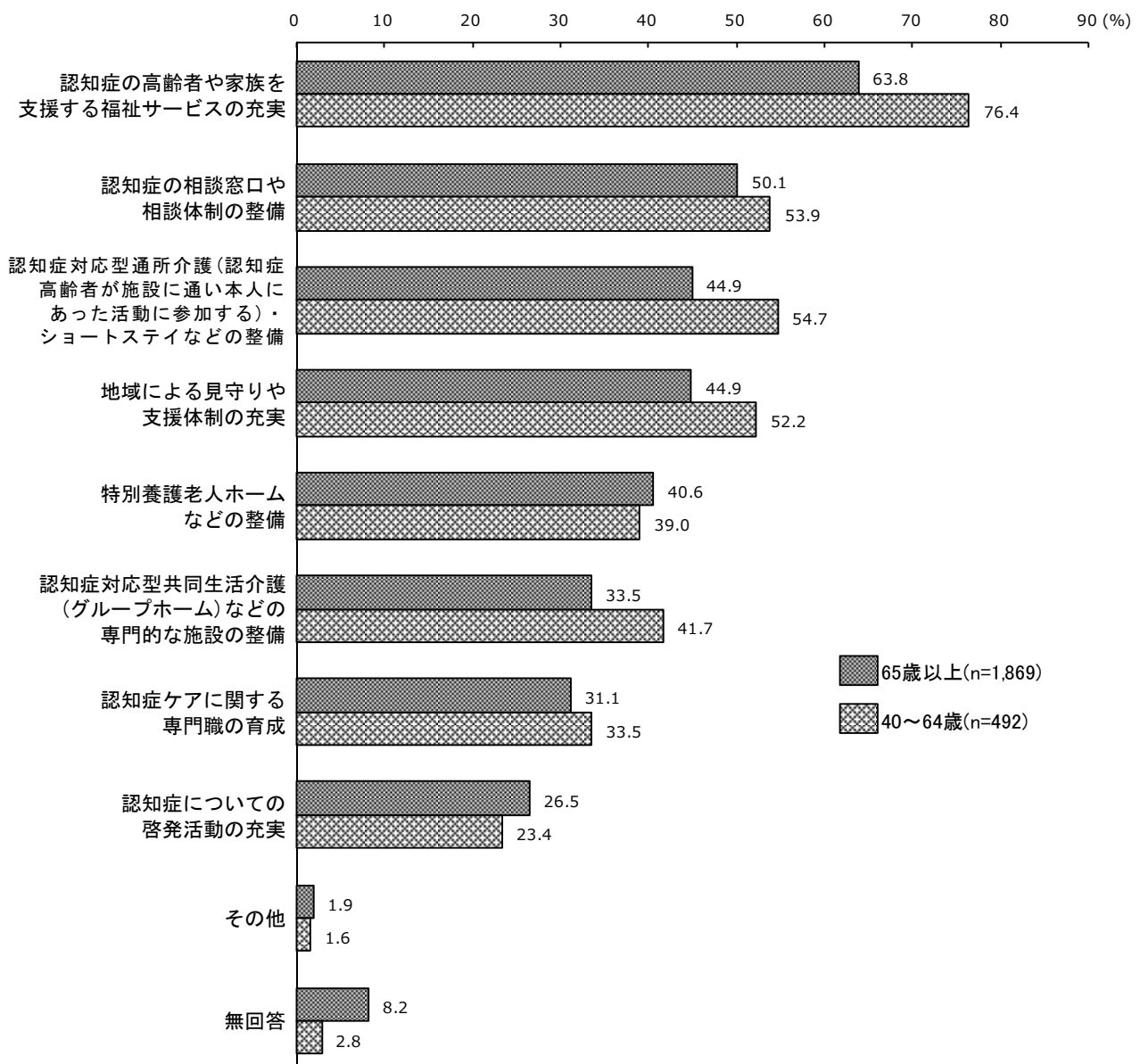
		続家住ど けでみ うた暮 慣し いら れて した も	た暮慣な で いら れら き した ば る 続家 住こ けで みと	所が適 しあ 切 たれ な い ば施 入 設	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		12.6	48.1	27.3	8.9	3.1
居住形態別	持ち家の一戸建て(n=1,075)	13.7	52.8	23.9	7.2	2.4
	持ち家の集合住宅(n=426)	12.7	47.7	28.6	9.4	1.6
	民間賃貸の一戸建て(n=24)	8.3	41.7	33.3	12.5	4.2
	民間賃貸の集合住宅(n=138)	7.2	26.8	44.2	15.2	6.5
	公的賃貸住宅(n=154)	10.4	41.6	29.9	13.0	5.2
	高齢者向け住宅(n=4)	-	-	100.0	-	-

(4) 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (問 24)

認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なことは、65 歳以上は「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(63.8%) が最も多く、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(50.1%)、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」と「地域による見守りや支援体制の充実」(ともに 44.9%) と続いている。

40～64 歳は、「認知症の高齢者や家族を支援する福祉サービスの充実」(76.4%) が最も多く、「認知症対応型通所介護(認知症高齢者が施設に通い本人にあった活動に参加する)・ショートステイなどの整備」(54.7%)、「認知症の相談窓口や相談体制の整備」(53.9%) と続いている。

■ 認知症になっても住み慣れた地域で生活するために必要なこと (複数回答)

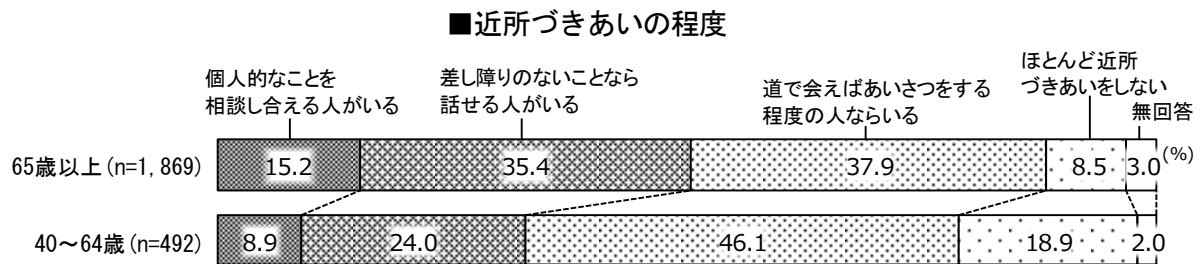


8 地域生活と日ごろの活動について

(1) 近所づきあいの程度 (問 25)

近所づきあいの程度は、65 歳以上は「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(37.9%) が最も多く、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(35.4%)、「個人的なことを相談し合える人がいる」(15.2%)と続いている。

40～64 歳は、「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」(46.1%) が最も多く、「差し障りのないことなら話せる人がいる」(24.0%)、「ほとんど近所づきあいをしない」(18.9%)と続いている。



65 歳以上について性別にみると、男性は「個人的なことを相談し合える人がいる」(9.5%) が女性に比べ少なくなっている。

年齢別にみると、65～74 歳は「個人的なことを相談し合える人がいる」(13.6%) が 75 歳以上に比べ少なくなっている。

■近所づきあいの程度 (65 歳以上)

(%)

		い合と個 るえを人 る相的 人談な がしこ	がらな差 い話し るせこ障 るとり 人なの	人すあ道 なるいで ら程さ会 い度つえ るのをば	を所ほ しづと なきん いあど い近	無 回 答
全体(n=1,869)		15.2	35.4	37.9	8.5	3.0
性別	男性(n=862)	9.5	29.1	47.6	11.8	2.0
	女性(n=977)	20.1	40.8	29.7	5.6	3.8
年齢別	75歳以上(n=803)	17.2	35.0	36.5	7.6	3.7
	65～74歳(n=1,056)	13.6	35.5	39.0	9.3	2.6

さらに 65 歳以上について幸福度別にみると、平均以下(7 点以下) の人は「個人的なことを相談し合える人がいる」(11.7%) が平均以上(8 点以上) の人に比べ少なくなっている。

■近所づきあいの程度 (65 歳以上)

(%)

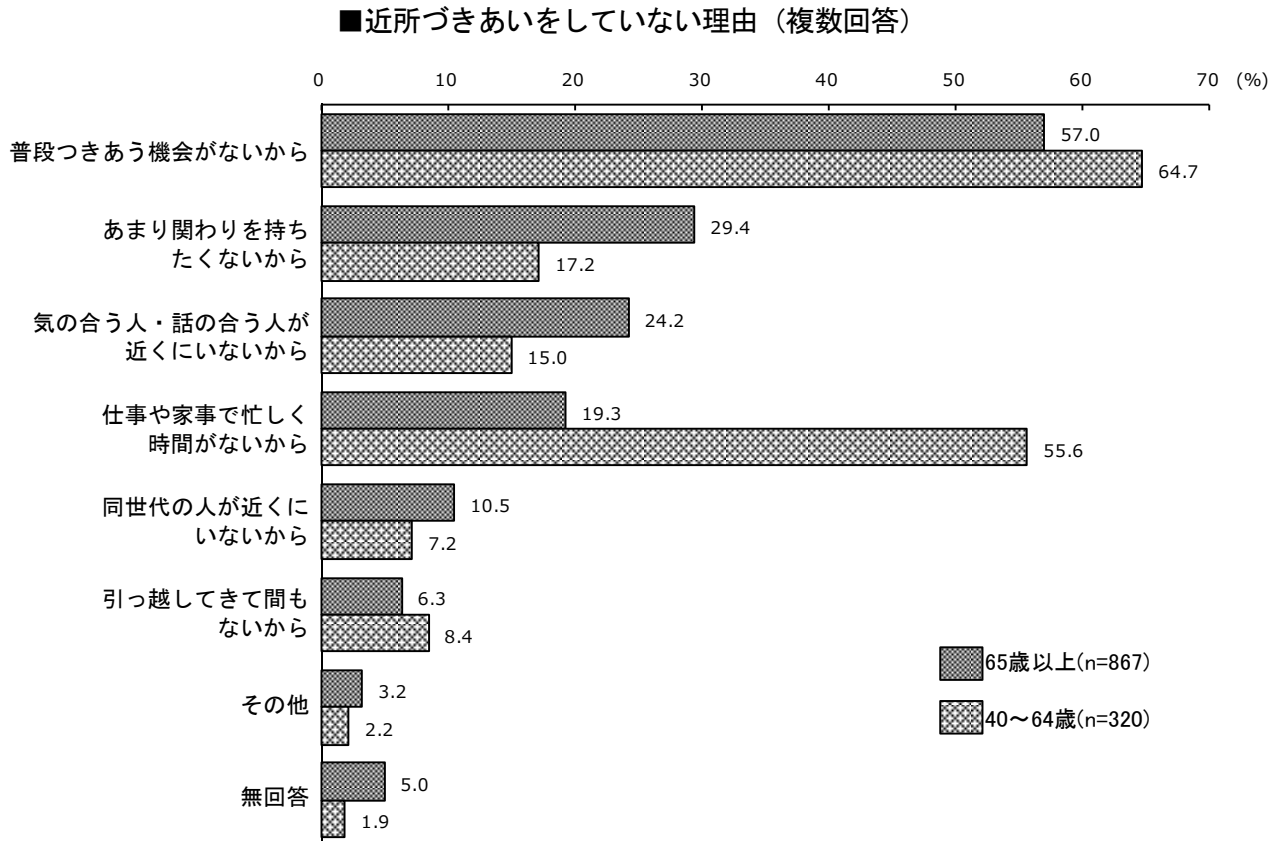
		い合と個 るえを人 る相的 人談な がしこ	がらな差 い話し るせこ障 るとり 人なの	人すあ道 なるいで ら程さ会 い度つえ るのをば	を所ほ しづと なきん いあど い近	無 回 答
全体(n=1,869)		15.2	35.4	37.9	8.5	3.0
幸福度別	平均以下(7点以下)(n=826)	11.7	32.3	40.8	12.5	2.7
	平均以上(8点以上)(n=993)	18.1	38.5	35.5	5.3	2.5

1. 市民一般調査

(2) 近所づきあいをしていない理由 (問 25-1)

「道で会えばあいさつをする程度の人ならいる」「ほとんど近所づきあいをしない」と回答した人に近所づきあいをしていない理由を聞いたところ、65歳以上は「普段つきあう機会がないから」(57.0%)が最も多く、「あまり関わりを持ちたくないから」(29.4%)、「気の合う人・話の合う人が近くにいないから」(24.2%)と続いている。

40～64歳は、「普段つきあう機会がないから」(64.7%)が最も多く、「仕事や家事で忙しく時間がないから」(55.6%)、「あまり関わりを持ちたくないから」(17.2%)と続いている。



65歳以上について性別にみると、男性は「普段つきあう機会がないから」(61.1%)が女性に比べて多く、女性は「引っ越してきて間もないから」(10.4%)が男性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「仕事や家事で忙しく時間がないから」(24.1%)が75歳以上に比べて多くなっている。

■近所づきあいをしていない理由 (複数回答) (65歳以上)

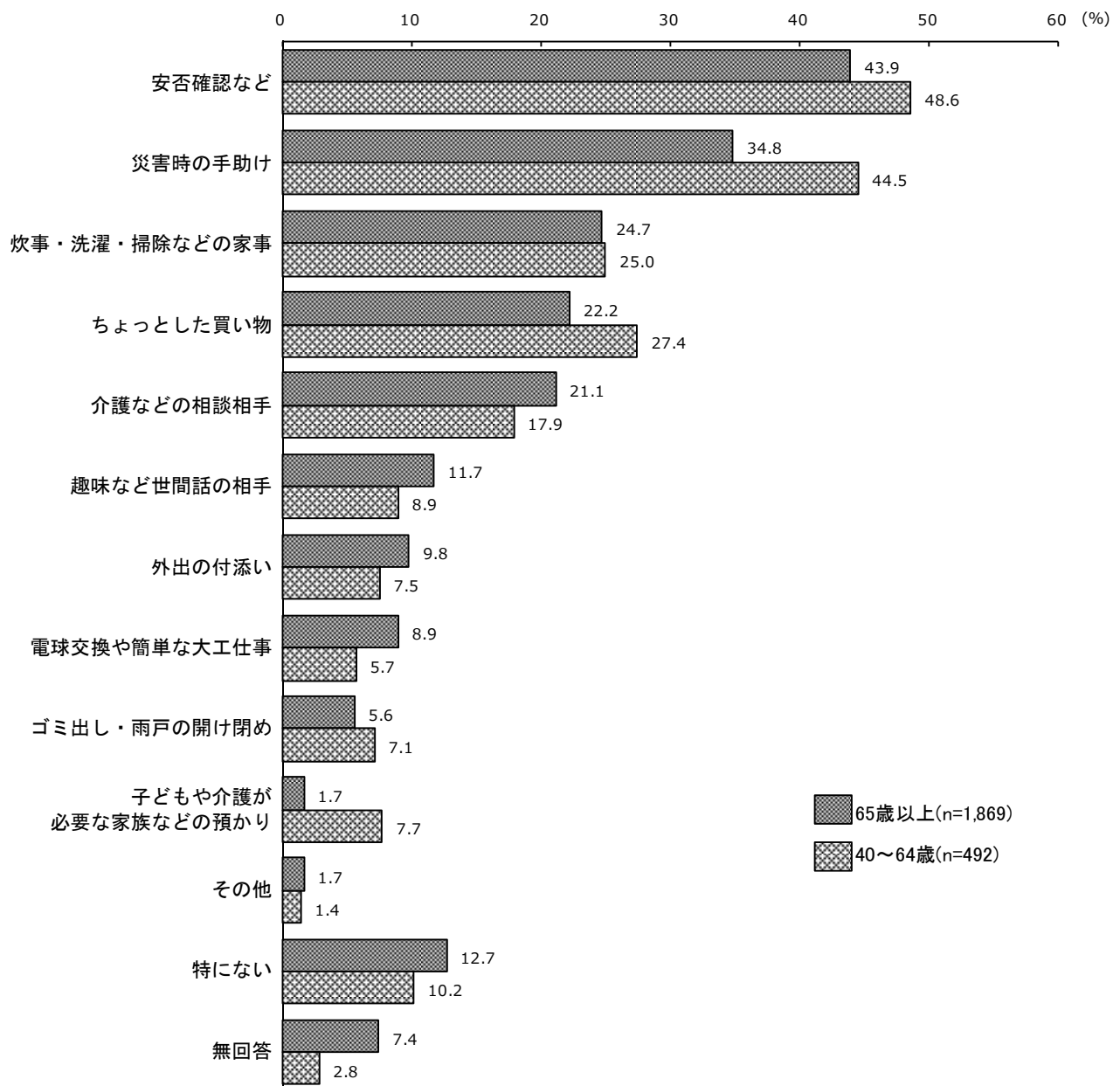
		ら機普	いをあ	か近話気	な忙仕	か近同	らて引	そ	無
		会段	か持ま	らくのの	いし事	らく世	間っ	他	回
		がっ	らちり	に合合	かくや	に代	も越		答
		なき	た関	いう	ら時家	いの	なし		
		いあ	くわ	な人	間事	な人	いて		
		かう	なり	いが・	がで	いが	かき		
全体(n=867)		57.0	29.4	24.2	19.3	10.5	6.3	3.2	5.0
性別	男性(n=512)	61.1	27.9	26.0	18.6	9.2	3.5	2.3	4.9
	女性(n=345)	51.9	31.3	21.4	20.6	12.2	10.4	4.3	5.2
年齢別	75歳以上(n=354)	54.8	29.9	26.3	12.1	11.0	7.9	3.1	6.2
	65～74歳(n=510)	58.6	28.8	22.9	24.1	10.2	5.3	3.3	4.1

(3) 日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け（問 26）

日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助けは、65歳以上は「安否確認など」（43.9%）が最も多く、「災害時の手助け」（34.8%）、「炊事・洗濯・掃除などの家事」（24.7%）と続いている。

40～64歳は、「安否確認など」（48.6%）が最も多く、「災害時の手助け」（44.5%）、「ちょっとした買い物」（27.4%）と続いている。

■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け（複数回答）



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「安否確認など」(47.2%)が女性に比べ多く、女性は「ちょっとした買い物」(26.4%)、「外出の付添い」(12.3%)、「電球交換や簡単な大工仕事」(12.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「電球交換や簡単な大工仕事」(11.3%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「炊事・洗濯・掃除などの家事」(26.4%)、「ちょっとした買い物」(24.4%)が75歳以上に比べ多くなっている。

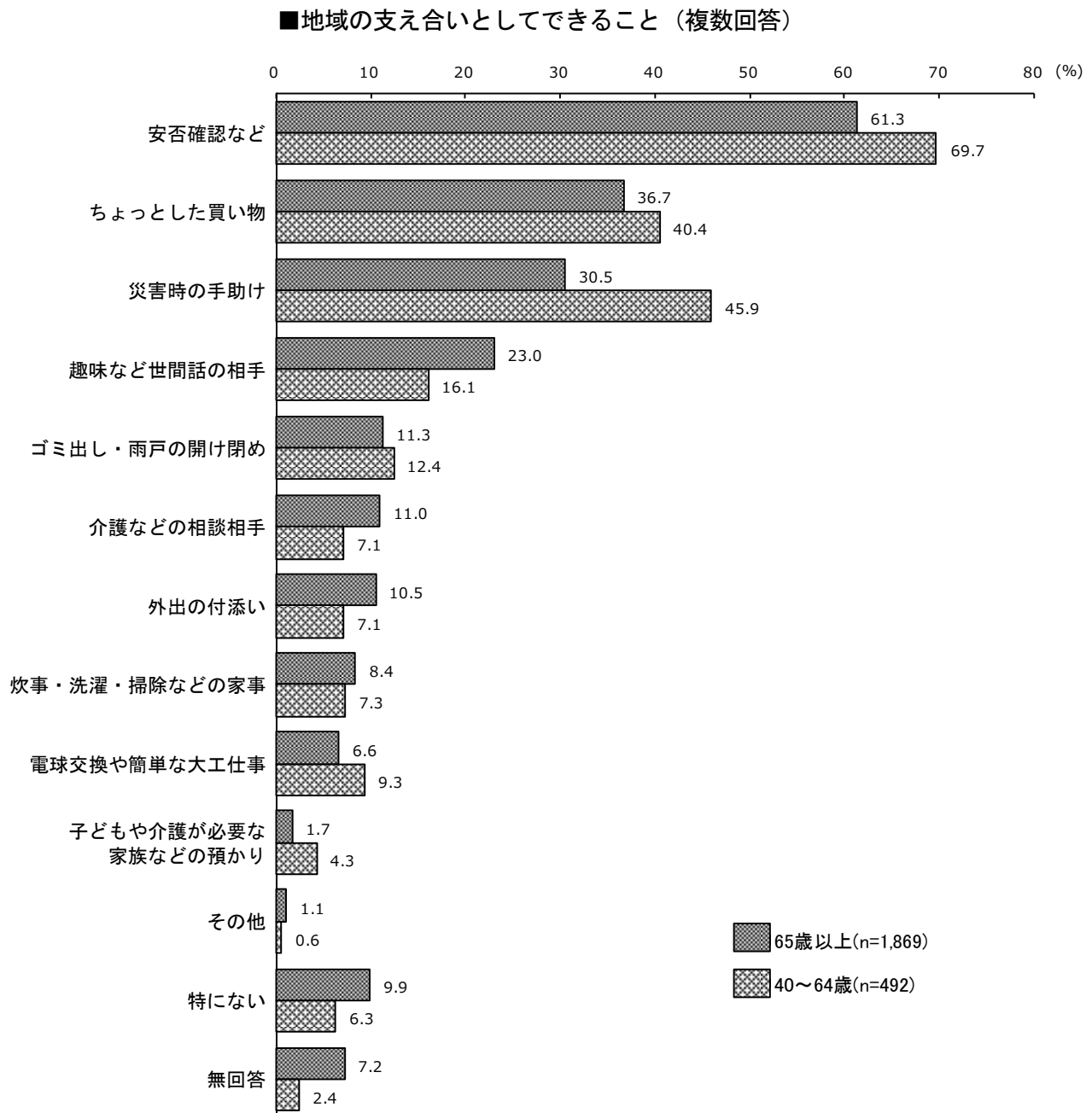
■日常生活が不自由になったとき地域の人たちにしてほしい手助け（複数回答）（65歳以上）

		(%)												
		安 否 確 認 な ど	災 害 時 の 手 助 け	炊 事 ・ 洗 濯 ・ 掃 除 な ど の 家 事	物 ち よ っ と し た 買 い	手 介 護 な ど の 相 談 相	相 趣 味 な ど 世 間 話 の	外 出 の 付 添 い	大 電 球 交 換 や 簡 単 な 大 工 仕 事	開 ゴ ミ 出 し ・ 雨 戸 の 閉 め	か 要 な も も や 子 ど も の 介 護 が 必 要 な 預 り	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体(n=1,869)		43.9	34.8	24.7	22.2	21.1	11.7	9.8	8.9	5.6	1.7	1.7	12.7	7.4
性別	男性(n=862)	47.2	34.8	25.1	17.9	22.4	12.2	7.0	5.0	5.8	2.0	1.6	14.7	6.8
	女性(n=977)	41.2	35.3	24.7	26.4	20.5	11.4	12.3	12.5	5.3	1.3	1.6	10.6	7.8
年齢別	75歳以上(n=803)	42.0	33.7	22.4	19.6	21.0	12.2	9.7	11.3	5.1	1.1	1.7	12.2	10.0
	65～74歳(n=1,056)	45.1	35.6	26.4	24.4	21.3	11.3	9.8	7.1	6.0	2.1	1.6	13.0	5.6

(4) 地域の支え合いとしてできること (問27)

地域の支え合いとしてできることは、65歳以上は「安否確認など」(61.3%)が最も多く、「ちょっとした買い物」(36.7%)、「災害時の手助け」(30.5%)と続いている。

40～64歳は、「安否確認など」(69.7%)が最も多く、「災害時の手助け」(45.9%)、「ちょっとした買い物」(40.4%)と続いている。



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「安否確認など」(63.7%)、「災害時の手助け」(39.9%)、「電球交換や簡単な大工仕事」(12.9%)が女性に比べ多く、女性は「ちょっとした買い物」(43.2%)、「炊事・洗濯・掃除などの家事」(11.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「趣味など世間話の相手」(25.9%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「安否確認など」(66.2%)、「ちょっとした買い物」(41.8%)、「災害時の手助け」(35.4%)、「外出の付添い」(12.4%)、「電球交換や簡単な大工仕事」(8.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「趣味など世間話の相手」(27.7%)が全体に比べ多くなっている。

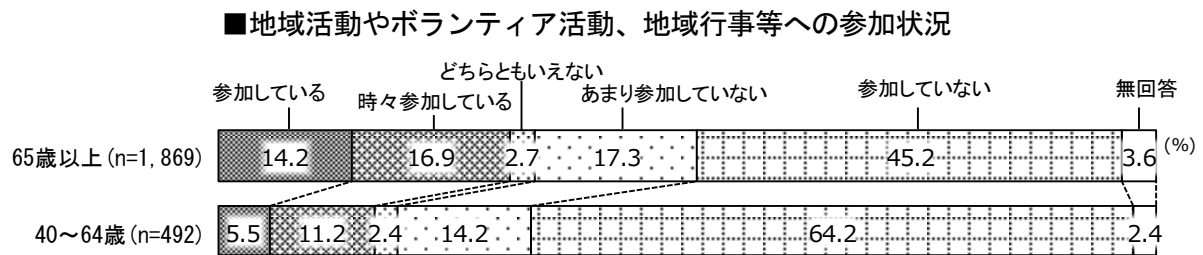
■地域の支え合いとしてできること（複数回答）（65歳以上）

		安否確認など	ちょっとした買い物	災害時の手助け	の趣味など世間話の相手	のゴミ出し閉め・戸	介護などの相談	外出の付添い	除炊事・洗濯・掃除などの家事	な電球交換や簡単な大工仕事	の必要な家族などが	子どもや介護などが	その他	特にない	無回答
全体(n=1,869)		61.3	36.7	30.5	23.0	11.3	11.0	10.5	8.4	6.6	1.7	1.1	9.9	7.2	
性別	男性(n=862)	63.7	29.4	39.9	21.0	9.9	10.6	9.9	4.4	12.9	1.2	1.3	11.1	4.6	
	女性(n=977)	59.0	43.2	22.4	24.6	12.5	11.6	11.4	11.8	1.3	2.1	1.0	9.1	9.2	
年齢別	75歳以上(n=803)	54.5	29.9	23.8	25.9	11.0	11.8	8.1	7.8	4.5	1.4	2.0	11.8	10.1	
	65～74歳(n=1,056)	66.2	41.8	35.4	20.8	11.3	10.4	12.4	8.8	8.3	1.9	0.5	8.4	5.1	
地区別	第1地区(n=344)	59.0	38.4	32.3	26.5	11.3	11.0	12.8	7.3	6.7	1.5	1.5	10.8	4.4	
	第2地区(n=398)	60.3	37.9	31.4	20.1	11.1	11.1	11.6	7.8	7.0	0.5	1.5	9.8	9.0	
	第3地区(n=339)	65.8	36.6	26.8	27.7	9.1	11.8	11.5	8.3	6.8	1.5	0.6	7.7	7.4	
	第4地区(n=221)	57.9	36.2	32.1	22.6	13.6	8.6	7.7	10.4	4.5	2.3	-	8.1	14.0	
	第5地区(n=245)	65.7	36.3	29.0	21.2	9.4	9.4	10.2	7.3	3.7	2.0	1.6	11.0	4.1	
	第6地区(n=296)	59.8	35.1	31.1	19.6	13.5	12.5	8.4	10.1	9.5	3.0	0.7	11.5	5.1	

(5) 地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況 (問 28)

地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況は、65歳以上は「参加していない」(45.2%)が最も多く、「あまり参加していない」(17.3%)、「時々参加している」(16.9%)と続いている。「参加している」と「時々参加している」を合わせた「参加している」は31.1%、「あまり参加していない」と「参加していない」を合わせた「参加していない」は62.5%となっている。

40～64歳は、「参加していない」(64.2%)が最も多く、「あまり参加していない」(14.2%)、「時々参加している」(11.2%)と続いている。「参加している」は16.7%、「参加していない」は78.4%となっている。



65歳以上について地区別にみると、第4地区は「参加している」(39.0%)が全体に比べ多くなっている。

■地域活動やボランティア活動、地域行事等への参加状況 (65歳以上)

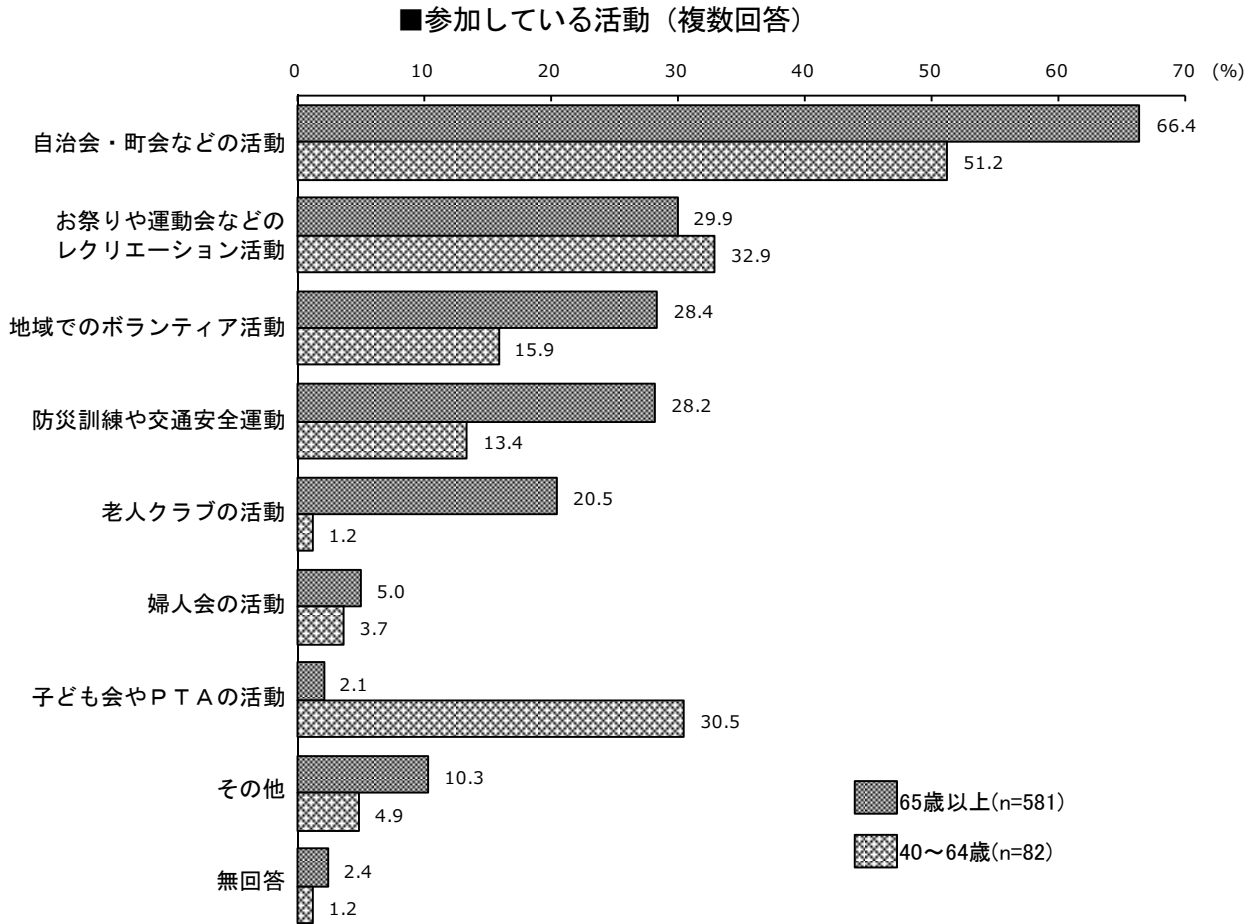
		(%)					
		る参加している	て時々参加している	いどちえちならいとも	しあてまいるいな参加	な参加している	無回答
全体(n=1,869)		14.2	16.9	2.7	17.3	45.2	3.6
地区別	第1地区(n=344)	11.0	15.4	3.2	18.9	48.0	3.5
	第2地区(n=398)	13.6	18.3	1.8	14.8	47.2	4.3
	第3地区(n=339)	14.7	14.7	1.5	21.2	45.7	2.1
	第4地区(n=221)	20.4	18.6	1.4	11.8	42.1	5.9
	第5地区(n=245)	13.1	17.1	4.5	18.0	44.1	3.3
	第6地区(n=296)	15.2	17.6	4.1	18.2	41.9	3.0

1. 市民一般調査

(5) 参加している活動（問 28-1）

“参加している”と回答した人に参加している活動を聞いたところ、65 歳以上は「自治会・町会などの活動」（66.4%）が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」（29.9%）、「地域でのボランティア活動」（28.4%）と続いている。

40～64 歳は、「自治会・町会などの活動」（51.2%）が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」（32.9%）、「子ども会やPTAの活動」（30.5%）と続いている。



65 歳以上について地区別にみると、第4地区は「老人クラブの活動」（32.6%）、第6地区は「お祭りや運動会などのレクリエーション活動」（40.2%）が全体に比べ多くなっている。

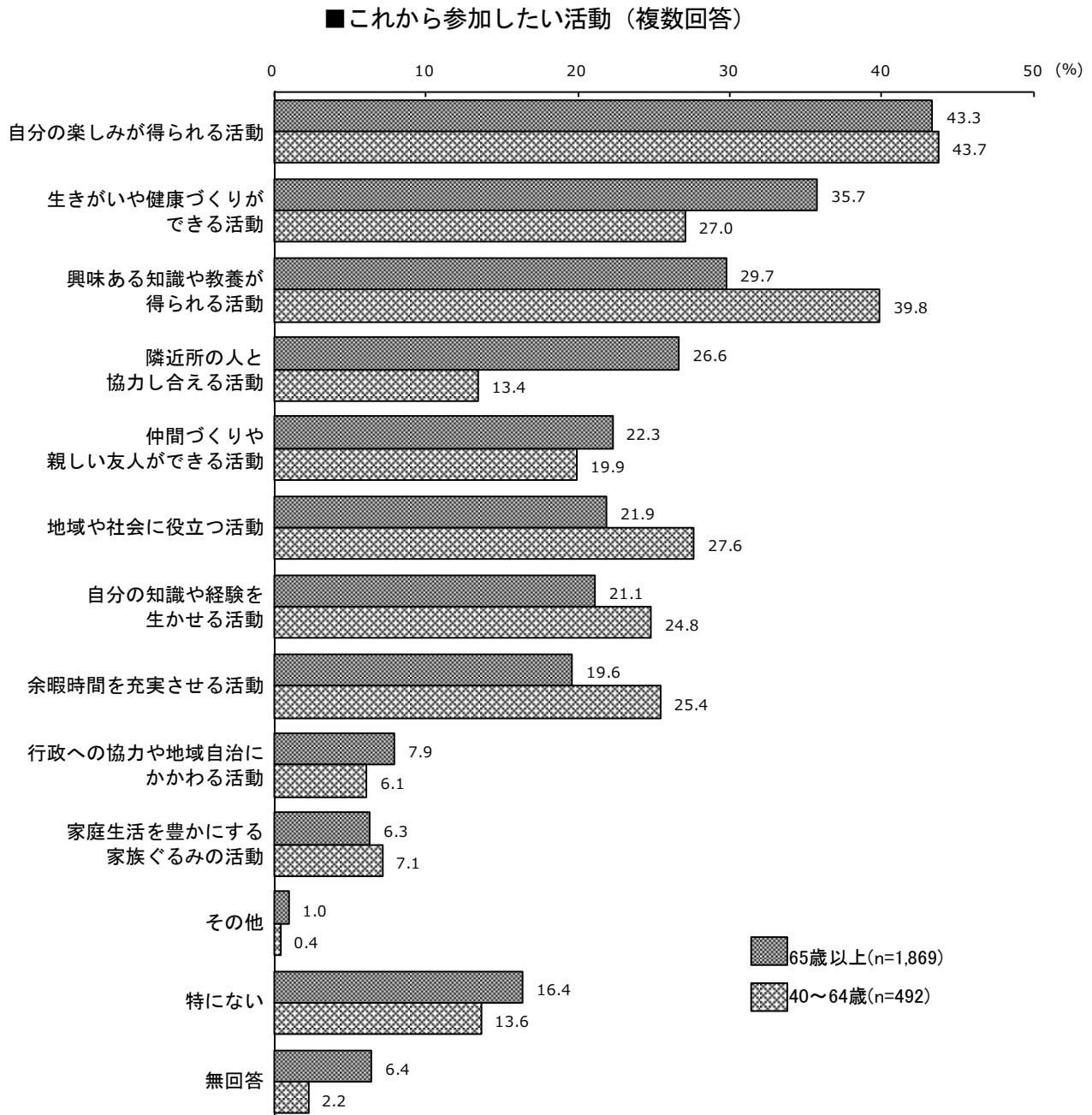
■参加している活動（複数回答）（65 歳以上）

		ど自治会の活動・町会など	エナシのヨレや活動	お祭りや運動会	地域でのボランティア	防災訓練や交通安全	老人クラブの活動	婦人会の活動	子どもの会やPTA	その他	無回答
全体(n=581)		66.4	29.9	28.4	28.2	20.5	5.0	2.1	10.3	2.4	
地区別	第1地区(n=91)	68.1	28.6	26.4	29.7	16.5	4.4	2.2	11.0	1.1	
	第2地区(n=127)	62.2	26.8	25.2	27.6	18.1	1.6	0.8	13.4	3.9	
	第3地区(n=100)	69.0	24.0	32.0	31.0	20.0	8.0	3.0	14.0	1.0	
	第4地区(n=86)	65.1	38.4	23.3	32.6	32.6	7.0	2.3	4.7	4.7	
	第5地区(n=74)	67.6	20.3	35.1	24.3	14.9	4.1	2.7	12.2	2.7	
	第6地区(n=97)	69.1	40.2	29.9	24.7	21.6	5.2	1.0	5.2	1.0	

(6) これから参加したい活動（問 29）

これから参加したい活動は、65 歳以上は「自分の楽しみが得られる活動」（43.3%）が最も多く、「生きがいや健康づくりができる活動」（35.7%）、「興味ある知識や教養が得られる活動」（29.7%）と続いている。

40～64 歳は、「自分の楽しみが得られる活動」（43.7%）が最も多く、「興味ある知識や教養が得られる活動」（39.8%）、「地域や社会に役立つ活動」（27.6%）と続いている。



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「地域や社会に役立つ活動」(25.3%)、「自分の知識や経験を生かせる活動」(27.6%)、「余暇時間を充実させる活動」(22.4%)、「行政への協力や地域自治にかかわる活動」(11.5%)、「家庭生活を豊かにする家族ぐるみの活動」(7.9%)が女性に比べ多く、女性は「生きがいや健康づくりができる活動」(39.5%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「自分の楽しみが得られる活動」(46.7%)、「興味ある知識や教養が得られる活動」(32.5%)、「地域や社会に役立つ活動」(27.2%)、「自分の知識や経験を生かせる活動」と「余暇時間を充実させる活動」(ともに23.0%)、「行政への協力や地域自治にかかわる活動」(9.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「隣近所の人と協力し合える活動」(33.5%)が全体に比べ多くなっている。

■これから参加したい活動(複数回答)(65歳以上)

(%)

		自分の楽しみが得られる活動	生きがいや健康づくりができる活動	興味ある知識や教養が得られる活動	隣近所の人と協力し合える活動	仲間がづくりや親しい活動	地域や社会に役立つ活動	自分の知識や経験を生かせる活動	余暇時間を充実させる活動	行政への協力や地域自治にかかわる活動	家庭生活を豊かにする活動	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)		43.3	35.7	29.7	26.6	22.3	21.9	21.1	19.6	7.9	6.3	1.0	16.4	6.4
性別	男性(n=862)	43.6	31.6	29.4	28.7	20.4	25.3	27.6	22.4	11.5	7.9	1.2	16.9	5.7
	女性(n=977)	43.5	39.5	30.4	24.8	23.7	18.7	15.4	17.7	4.8	4.9	0.8	16.1	7.0
年齢別	75歳以上(n=803)	39.2	34.2	26.5	27.3	22.9	15.1	18.7	15.4	6.4	6.1	1.4	18.4	9.1
	65～74歳(n=1,056)	46.7	36.6	32.5	26.0	21.5	27.2	23.0	23.0	9.1	6.4	0.7	14.8	4.5
地区別	第1地区(n=344)	43.9	36.0	30.5	29.1	25.0	23.3	22.4	17.7	8.4	7.3	1.7	13.4	4.9
	第2地区(n=398)	44.0	31.9	27.9	24.9	21.4	23.1	20.9	23.1	6.5	5.0	0.8	15.3	8.0
	第3地区(n=339)	39.2	37.8	32.4	23.9	21.5	21.2	19.8	20.6	8.3	6.2	0.9	16.5	7.4
	第4地区(n=221)	43.9	38.0	25.8	33.5	23.1	21.7	24.4	18.6	8.6	5.9	0.5	15.8	8.6
	第5地区(n=245)	44.5	35.9	28.2	26.1	20.0	18.4	20.0	18.8	9.4	6.5	1.2	20.4	4.5
	第6地区(n=296)	45.6	35.5	33.1	24.3	22.3	21.6	19.6	17.6	7.4	6.8	0.7	18.2	4.7

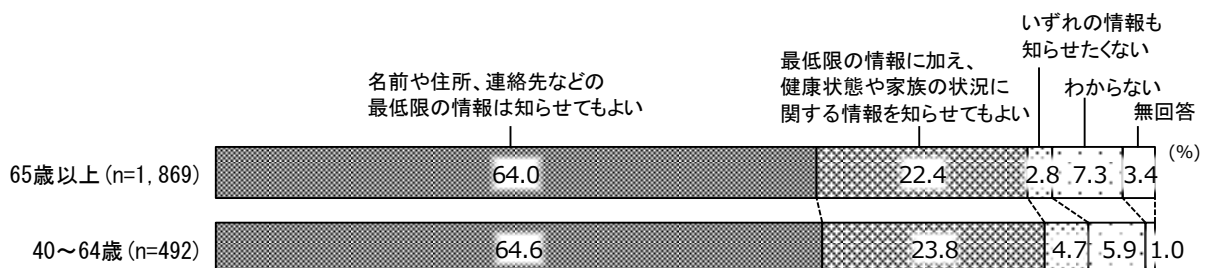
9 災害時の対応について

(1) 災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて（問 30）

災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについては、65 歳以上は「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」（64.0%）が最も多く、「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（22.4%）、「いずれの情報も知らせたくない」（2.8%）と続いている。

40～64 歳は、「名前や住所、連絡先などの最低限の情報は知らせてもよい」（64.6%）が最も多く、「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（23.8%）、「いずれの情報も知らせたくない」（4.7%）と続いている。

■災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて



65 歳以上について性別にみると、男性は「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（26.3%）が女性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、65～74 歳は「最低限の情報に加え、健康状態や家族の状況に関する情報を知らせてもよい」（24.1%）が 75 歳以上に比べて多くなっている。

■災害対策のため自分の住所、氏名、連絡先などを事前通知することについて（65 歳以上）

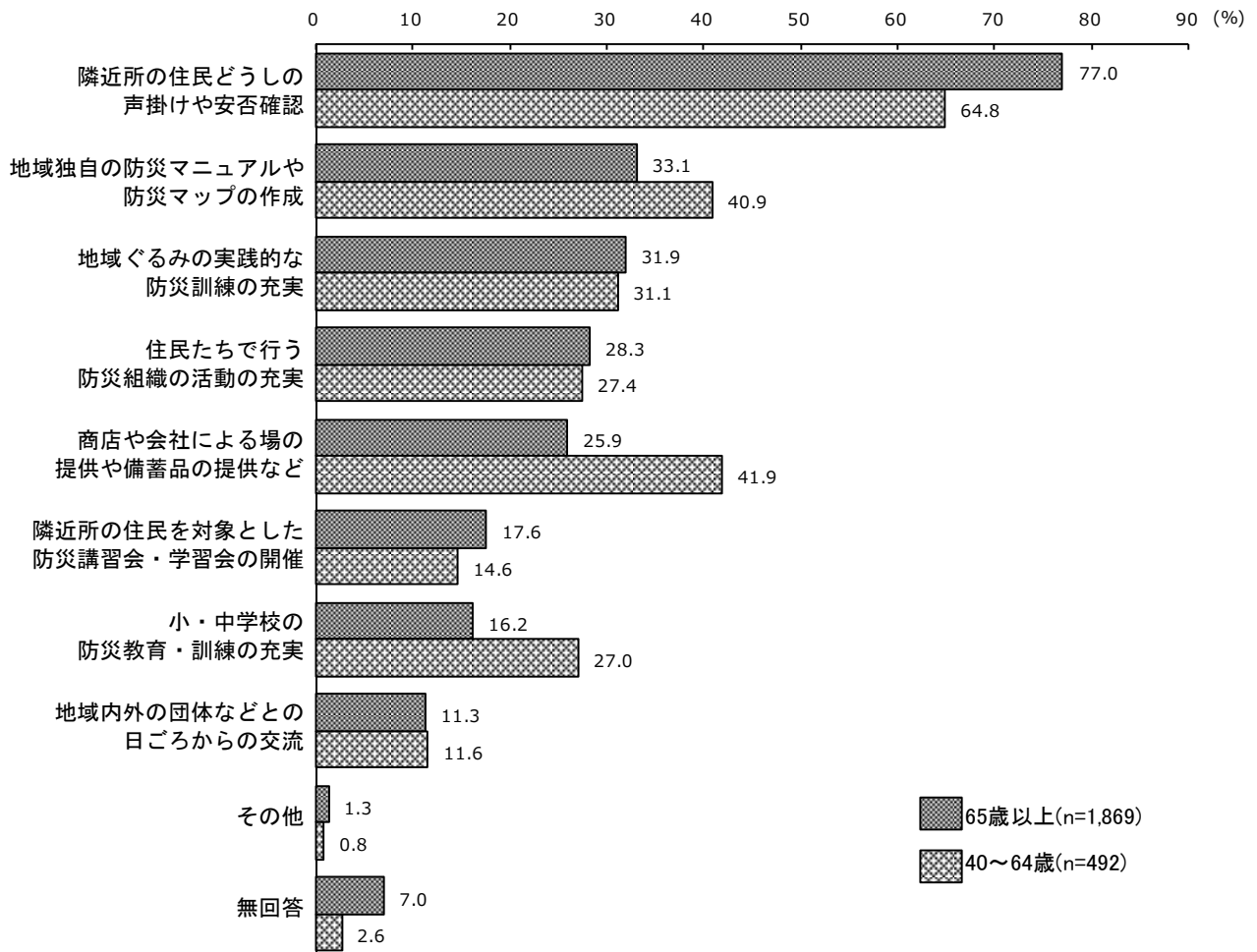
		はな名 知ど前 らのや せ最住 て低所 も限、 よの連 い情報 報先	をのえ最 知状、低 ら況健限 せに康の て関状情 もす態報 よるやに い情家加 報族	せい たず くれ ない い情 報も 知ら	わ か ら な い	無 回 答
全体(n=1,869)		64.0	22.4	2.8	7.3	3.4
性別	男性(n=862)	62.9	26.3	2.6	6.1	2.1
	女性(n=977)	65.2	19.2	3.0	8.2	4.4
年齢別	75歳以上(n=803)	66.4	19.9	2.0	7.1	4.6
	65～74歳(n=1,056)	62.6	24.1	3.4	7.4	2.6

(2) 災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うこと (問 31)

災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うことは、65 歳以上は「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(77.0%) が最も多く、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(33.1%)、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(31.9%) と続いている。

40～64 歳は、「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(64.8%) が最も多く、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(41.9%)、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(40.9%) と続いている。

■災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うこと (複数回答)



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(34.9%)、「住民たちで行う防災組織の活動の充実」(32.4%)、「地域内外の団体などとの日ごろからの交流」(13.3%)が女性に比べ多く、女性は「隣近所の住民どうしの声掛けや安否確認」(79.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成」(35.7%)、「地域ぐるみの実践的な防災訓練の充実」(34.2%)、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など」(29.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「住民たちで行う防災組織の活動の充実」(37.1%)が全体に比べ多くなっている。

■災害に備えて市民や企業等が協働で取り組むとよいと思うこと（複数回答）（65歳以上）

(%)

		の隣 声近 掛所 けの や住 安民 否ど う確 う認 し	ブニ地 のユ域 作ア独 成ル自 やの 防防 災災 マ マ ツ	な地 防域 災ぐる 訓み 練の の充 実 実 践 的	組住 織民 のた ち活 動で の行 う充 実 防 災	供の商 な提店 ど供や や会 や社 備に 蓄よ 品の の 提 場	学と隣 習し近 会た所 の防の 開災住 催講民 習を 会対 ・象	育小 ・・ 訓中 練学 の校 充の 実防 の災 防 災 教	流と地 の域 日内 ごろ 外 の か 団 体 ら の な ど	そ の 他	無 回 答
全体(n=1,869)		77.0	33.1	31.9	28.3	25.9	17.6	16.2	11.3	1.3	7.0
性別	男性(n=862)	74.9	34.8	34.9	32.4	24.1	18.2	17.7	13.3	1.7	5.6
	女性(n=977)	79.1	31.4	29.4	24.6	27.2	17.1	14.8	9.6	0.9	8.1
年齢別	75歳以上(n=803)	79.2	29.6	28.8	27.0	21.4	18.2	15.1	10.0	1.5	8.3
	65～74歳(n=1,056)	75.5	35.7	34.2	29.0	29.3	17.1	17.0	12.2	1.1	6.0
地区別	第1地区(n=344)	78.5	35.2	31.1	26.2	28.2	14.5	14.2	10.5	1.7	7.0
	第2地区(n=398)	74.6	32.9	31.9	28.9	26.4	18.8	18.1	12.1	1.3	7.5
	第3地区(n=339)	80.2	35.4	32.2	28.0	26.5	18.3	16.5	10.3	-	5.9
	第4地区(n=221)	76.9	30.8	37.1	37.1	22.2	21.7	14.9	10.0	0.9	8.1
	第5地区(n=245)	76.7	30.6	30.6	26.5	24.1	14.7	19.2	11.4	1.2	6.5
	第6地区(n=296)	77.4	32.1	29.1	24.0	26.0	18.9	13.9	12.8	2.4	6.8

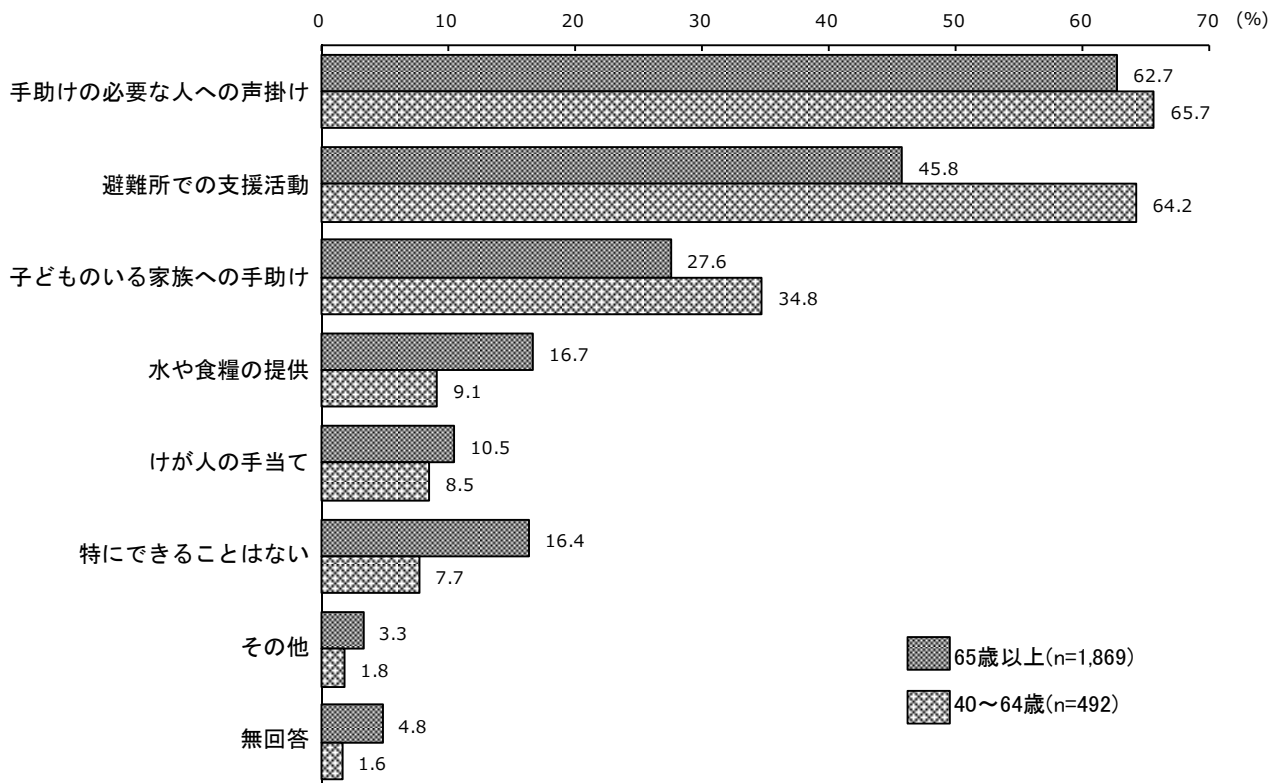
1. 市民一般調査

(3) 災害時に手助けが必要な人にできること (問 32)

災害時に手助けが必要な人にできることは、65歳以上は「手助けの必要な人への声掛け」(62.7%)が最も多く、「避難所での支援活動」(45.8%)、「子どものいる家族への手助け」(27.6%)と続いている。

40～64歳は、「手助けの必要な人への声掛け」(65.7%)が最も多く、「避難所での支援活動」(64.2%)、「子どものいる家族への手助け」(34.8%)と続いている。

■災害時に手助けが必要な人にできること (複数回答)



65歳以上について性別にみると、男性は「避難所での支援活動」(52.9%)、「水や食糧の提供」(19.5%)、「けが人の手当て」(12.8%)が女性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「特にできることはない」(22.0%)が65～74歳に比べて多く、65～74歳は「手助けの必要な人への声掛け」(68.2%)、「避難所での支援活動」(55.5%)、「子どものいる家族への手助け」(30.1%)が75歳以上に比べて多くなっている。

■災害時に手助けが必要な人にできること (複数回答) (65歳以上)

		声要手	支避	手る子	提水	当	こ特	そ	無
		掛な助	援難	助家ど	供や	てが	とに	の	回
		け人け	活所	け族も	食糧	人の	はで	他	答
		への必	動の	へのい	の	手	ない		
全体(n=1,869)		62.7	45.8	27.6	16.7	10.5	16.4	3.3	4.8
性別	男性(n=862)	63.6	52.9	28.0	19.5	12.8	15.5	2.8	3.2
	女性(n=977)	62.3	39.8	26.9	14.2	8.4	17.1	3.8	6.0
年齢別	75歳以上(n=803)	55.7	33.1	24.0	17.1	11.6	22.0	5.5	6.1
	65～74歳(n=1,056)	68.2	55.5	30.1	16.4	9.7	12.1	1.6	3.8

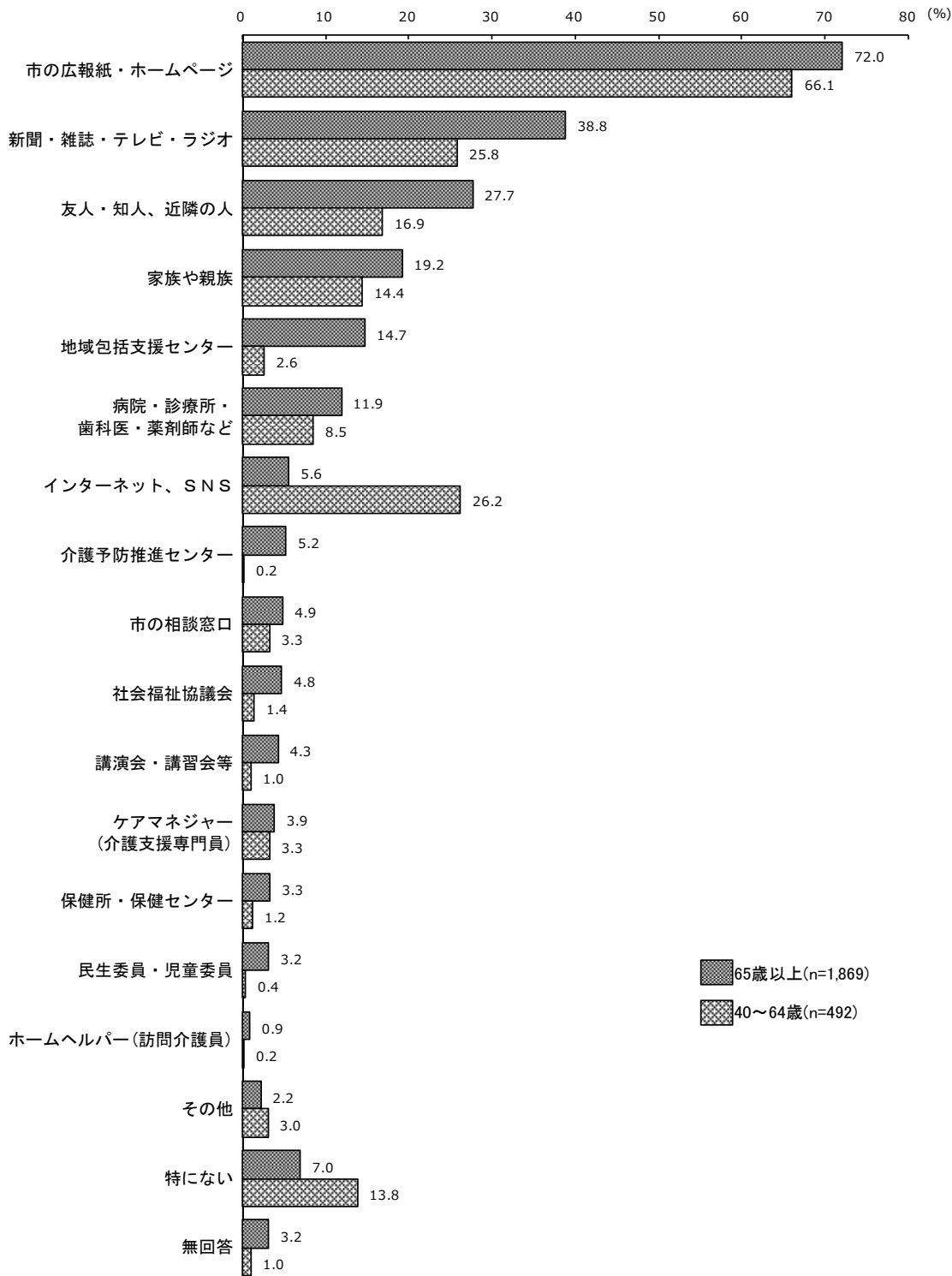
10 情報について

(1) 健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先 (問 33)

健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先は、65 歳以上は「市の広報紙・ホームページ」(72.0%) が最も多く、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(38.8%)、「友人・知人、近隣の人」(27.7%) と続いている。

40～64 歳は、「市の広報紙・ホームページ」(66.1%) が最も多く、「インターネット、SNS」(26.2%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(25.8%) と続いている。

■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先 (複数回答)



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(41.2%)、「家族や親族」(22.7%)、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」(15.2%)、「インターネット、SNS」(8.4%)が女性に比べ多く、女性は「友人・知人、近隣の人」(32.4%)、「地域包括支援センター」(18.0%)、「介護予防推進センター」(6.2%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(4.9%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「家族や親族」(22.7%)、「地域包括支援センター」(20.8%)、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」(14.7%)、「介護予防推進センター」(7.6%)、「民生委員・児童委員」(4.6%)が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「インターネット、SNS」(7.1%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第4地区は「友人・知人、近隣の人」(35.3%)と「介護予防推進センター」(9.5%)が全体に比べ多くなっている。

■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先(複数回答)(65歳以上)

		市の広報紙・ホームページ	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	友人・知人、近隣の人	家族や親族	地域包括支援センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	Sインターネット、SNS	介護予防推進センター	市の相談窓口	社会福祉協議会	講演会・講習会等	ケアマネジャー(介護支援専門員)	保健所・保健センター	民生委員・児童委員	介護員(訪問ヘルパー)	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)		72.0	38.8	27.7	19.2	14.7	11.9	5.6	5.2	4.9	4.8	4.3	3.9	3.3	3.2	0.9	2.2	7.0	3.2
性別	男性(n=862)	71.3	41.2	22.3	22.7	11.5	15.2	8.4	4.2	5.9	4.1	3.4	2.8	3.4	2.3	0.8	2.7	8.7	2.4
	女性(n=977)	72.8	36.6	32.4	15.9	18.0	8.7	3.2	6.2	4.0	5.5	5.1	4.9	3.4	3.9	1.0	1.8	5.5	3.7
年齢別	75歳以上(n=803)	69.9	40.5	29.8	22.7	20.8	14.7	3.6	7.6	5.6	4.7	4.4	4.0	3.4	4.6	1.0	2.2	4.9	4.6
	65～74歳(n=1,056)	73.8	37.4	25.9	16.5	10.2	9.8	7.1	3.5	4.3	4.8	4.3	3.8	3.2	2.1	0.9	2.2	8.5	2.1
地区別	第1地区(n=344)	70.3	37.8	26.5	20.6	13.4	12.8	6.7	3.8	5.5	3.2	4.9	4.1	4.7	1.5	3.2	7.8	3.5	
	第2地区(n=398)	72.1	37.2	26.1	19.6	14.6	13.1	6.0	3.3	3.3	4.8	5.3	2.5	5.0	2.5	0.8	2.0	7.0	4.1
	第3地区(n=339)	71.7	41.9	26.3	17.7	17.1	12.1	4.4	4.1	6.8	5.0	5.6	4.1	2.7	1.8	0.9	1.5	7.4	1.8
	第4地区(n=221)	73.8	36.7	35.3	22.2	15.8	10.9	5.9	9.5	5.0	6.3	3.2	4.5	1.8	3.2	0.9	1.8	4.1	4.1
	第5地区(n=245)	75.1	40.0	26.1	16.7	18.4	9.4	5.7	5.7	4.1	6.1	3.3	4.1	3.3	5.3	0.4	1.6	5.7	2.9
	第6地区(n=296)	70.6	38.9	27.0	18.2	10.8	12.2	5.1	7.4	4.4	4.4	4.4	3.4	2.4	2.4	1.0	2.7	8.8	2.0

さらに世帯の状況別にみると、ひとり暮らしの人は「地域包括支援センター」(19.7%)と「民生委員・児童委員」(5.3%)がひとり暮らし以外の人に比べ多く、ひとり暮らし以外の方は「市の広報紙・ホームページ」(73.9%)、「家族や親族」(21.6%)、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」(12.7%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(4.3%)がひとり暮らしの人に比べ多くなっている。

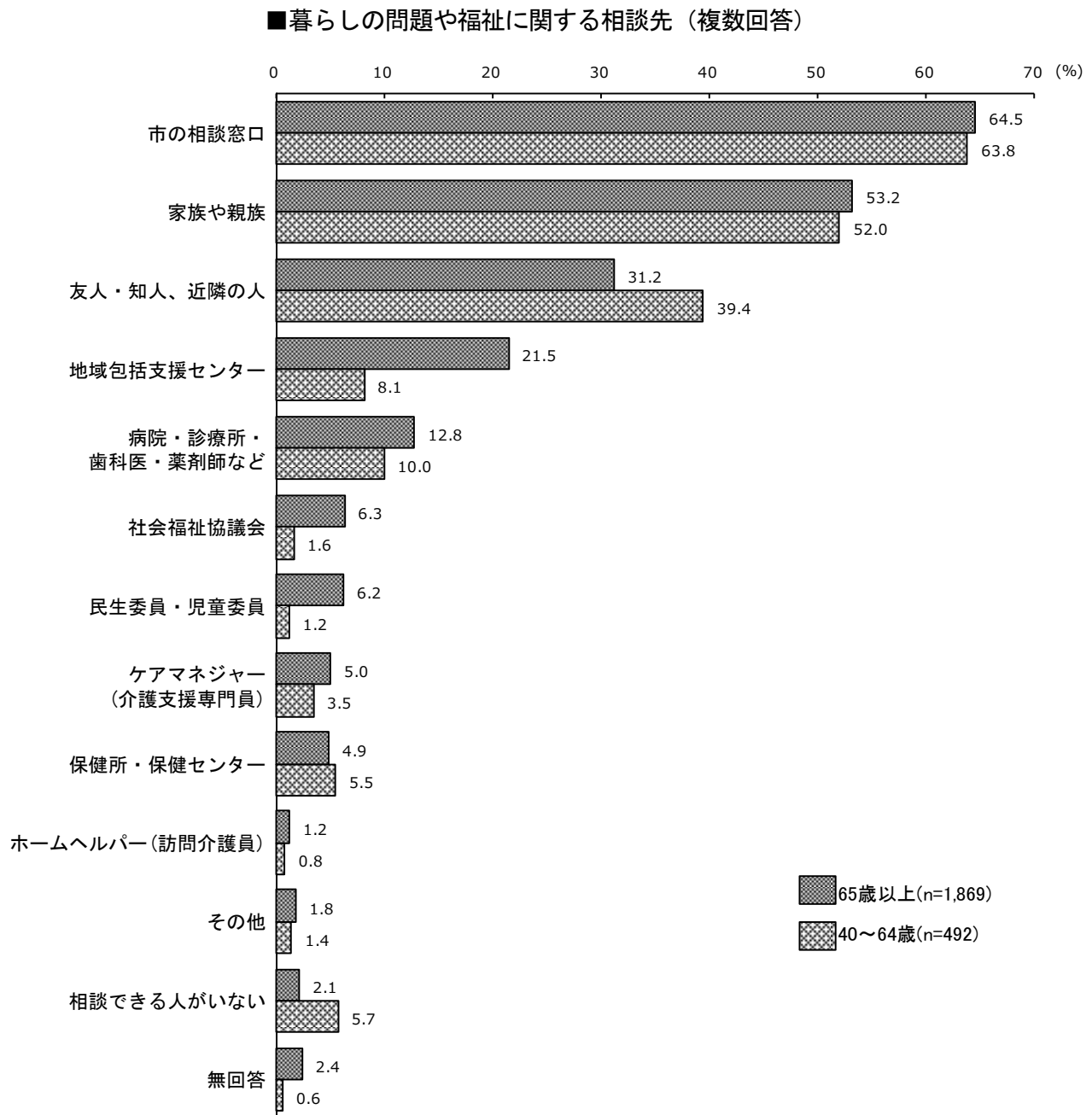
■健康や介護、福祉サービス、地域活動の情報入手先(複数回答)(65歳以上)

		市の広報紙・ホームページ	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	友人・知人、近隣の人	家族や親族	地域包括支援センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	Sインターネット、SNS	介護予防推進センター	市の相談窓口	社会福祉協議会	講演会・講習会等	ケアマネジャー(介護支援専門員)	保健所・保健センター	民生委員・児童委員	介護員(訪問ヘルパー)	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)		72.0	38.8	27.7	19.2	14.7	11.9	5.6	5.2	4.9	4.8	4.3	3.9	3.3	3.2	0.9	2.2	7.0	3.2
世帯の状況別	ひとり暮らし(n=300)	64.0	36.0	28.7	7.7	19.7	7.0	4.3	4.3	6.0	7.0	6.3	1.7	2.3	5.3	1.3	2.3	11.0	6.0
	ひとり暮らし以外(n=1,540)	73.9	39.1	27.1	21.6	14.0	12.7	5.9	5.5	4.6	4.4	3.9	4.3	3.5	2.7	0.8	2.2	6.1	2.5

(2) 暮らしの問題や福祉に関する相談先 (問 34)

暮らしの問題や福祉に関する相談先は、65歳以上は「市の相談窓口」(64.5%)が最も多く、「家族や親族」(53.2%)、「友人・知人、近隣の人」(31.2%)と続いている。

40～64歳は、「市の相談窓口」(63.8%)が最も多く、「家族や親族」(52.0%)、「友人・知人、近隣の人」(39.4%)と続いている。



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「市の相談窓口」（69.1%）、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」（14.3%）、「保健所・保健センター」（6.5%）が女性に比べ多く、女性は「家族や親族」（57.4%）、「友人・知人、近隣の人」（36.2%）、「地域包括支援センター」（25.2%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「市の相談窓口」（57.7%）、「家族や親族」（56.0%）、「地域包括支援センター」（27.1%）、「病院・診療所・歯科医・薬剤師など」（15.6%）、「民生委員・児童委員」（8.8%）、「ホームヘルパー（訪問介護員）」（1.9%）が65～74歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「地域包括支援センター」（27.1%）が全体に比べ多くなっている。

■暮らしの問題や福祉に関する相談先（複数回答）（65歳以上）

(%)

		市の相談窓口	家族や親族	友人・知人、近隣の人	地域包括支援センター	病院・診療所・歯科医・薬剤師など	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	ケアマネジャー（介護支援専門員）	保健所・保健センター	ホームヘルパー（訪問介護員）	その他	相談できない人が	無回答
全体(n=1,869)		64.5	53.2	31.2	21.5	12.8	6.3	6.2	5.0	4.9	1.2	1.8	2.1	2.4
性別	男性(n=862)	69.1	48.4	25.9	17.4	14.3	5.6	5.5	4.1	6.5	1.6	2.3	3.2	1.5
	女性(n=977)	60.6	57.4	36.2	25.2	11.2	7.0	7.1	5.8	3.4	0.9	1.3	1.2	2.9
年齢別	75歳以上(n=803)	57.7	56.0	29.8	27.1	15.6	7.2	8.8	5.7	5.6	1.9	2.0	1.5	3.1
	65～74歳(n=1,056)	69.8	50.9	32.2	17.3	10.6	5.6	4.3	4.5	4.4	0.8	1.7	2.7	1.8
地区別	第1地区(n=344)	66.9	52.6	32.8	18.6	11.9	4.4	7.6	5.5	6.4	1.2	2.9	1.7	1.5
	第2地区(n=398)	61.1	55.5	29.9	20.9	13.3	5.5	5.8	3.5	4.3	1.0	1.3	2.3	3.8
	第3地区(n=339)	63.7	52.2	31.0	27.1	15.0	7.1	4.7	5.6	5.6	0.6	1.2	1.5	2.4
	第4地区(n=221)	61.5	54.8	34.8	22.6	14.0	5.9	5.0	6.8	2.7	1.8	1.4	2.7	1.8
	第5地区(n=245)	64.1	53.9	28.6	20.4	10.6	8.2	7.3	5.3	5.7	1.6	2.4	3.3	2.0
	第6地区(n=296)	69.6	51.0	30.1	19.9	11.1	7.8	6.8	4.7	4.4	1.7	1.4	2.0	2.0

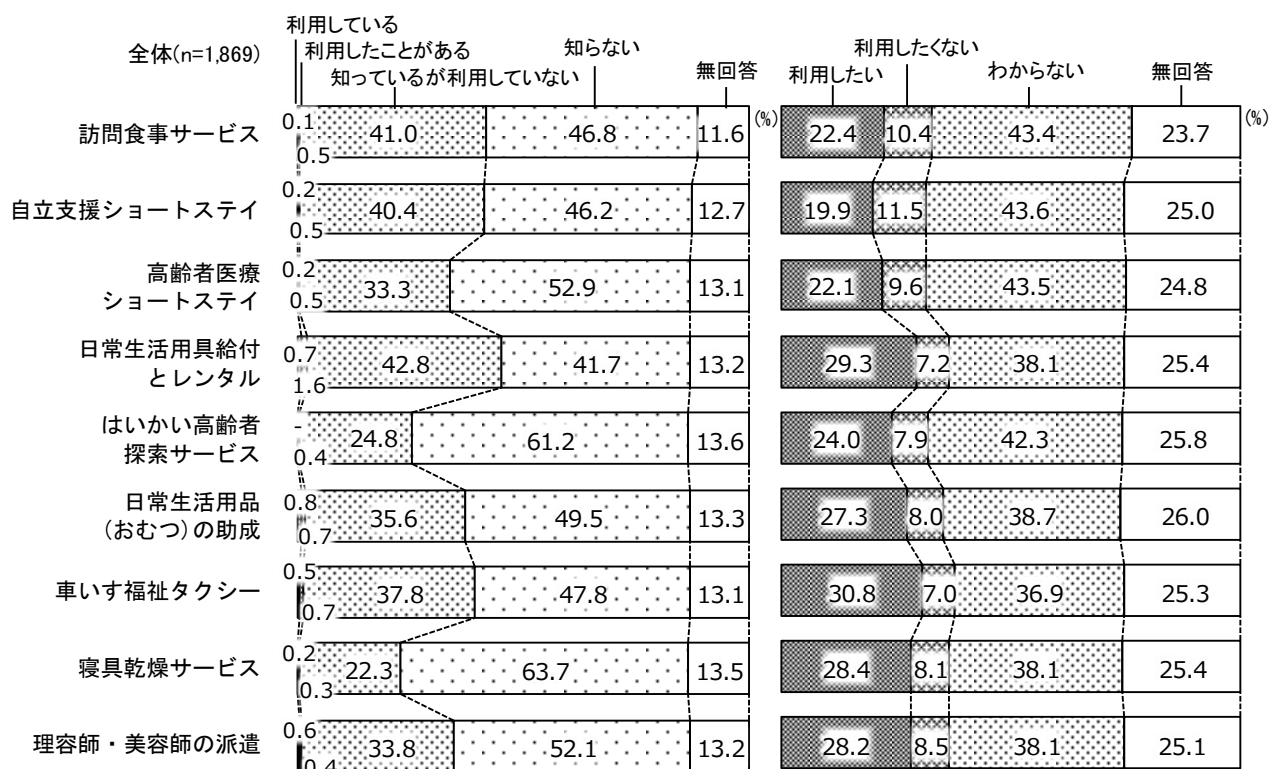
11 高齢者保健福祉サービスについて

(1) 高齢者保健福祉サービスに関する利用状況、利用意向 (65歳以上のみ) (問 35)

高齢者保健福祉サービスについて、「利用している」「利用したことがある」を合わせた“利用状況”は、『日常生活用具給付とレンタル』(2.3%)が最も多く、『日常生活用品(おむつ)の助成』(1.5%)、『車いす福祉タクシー』(1.2%)と続いている。「利用している」「利用したことがある」「知っているが利用していない」を合わせた“認知度”は、『日常生活用具給付とレンタル』(45.1%)が最も多く、『訪問食事サービス』(41.6%)、『自立支援ショートステイ』(41.1%)と続いている。

利用意向の「利用したい」は、『車いす福祉タクシー』(30.8%)が最も多く、『日常生活用具給付とレンタル』(29.3%)、『寝具乾燥サービス』(28.4%)と続いている。

■ 高齢者保健福祉サービスに関する利用状況 (左)、利用意向 (右)



1. 市民一般調査

性別にみると、いずれの高齢者保健福祉サービスも、「知らない」は男性が女性に比べ多く、「利用したい」は男性が女性に比べ少なくなっている。

■高齢者保健福祉サービスに関する利用状況（左）、利用意向（右）

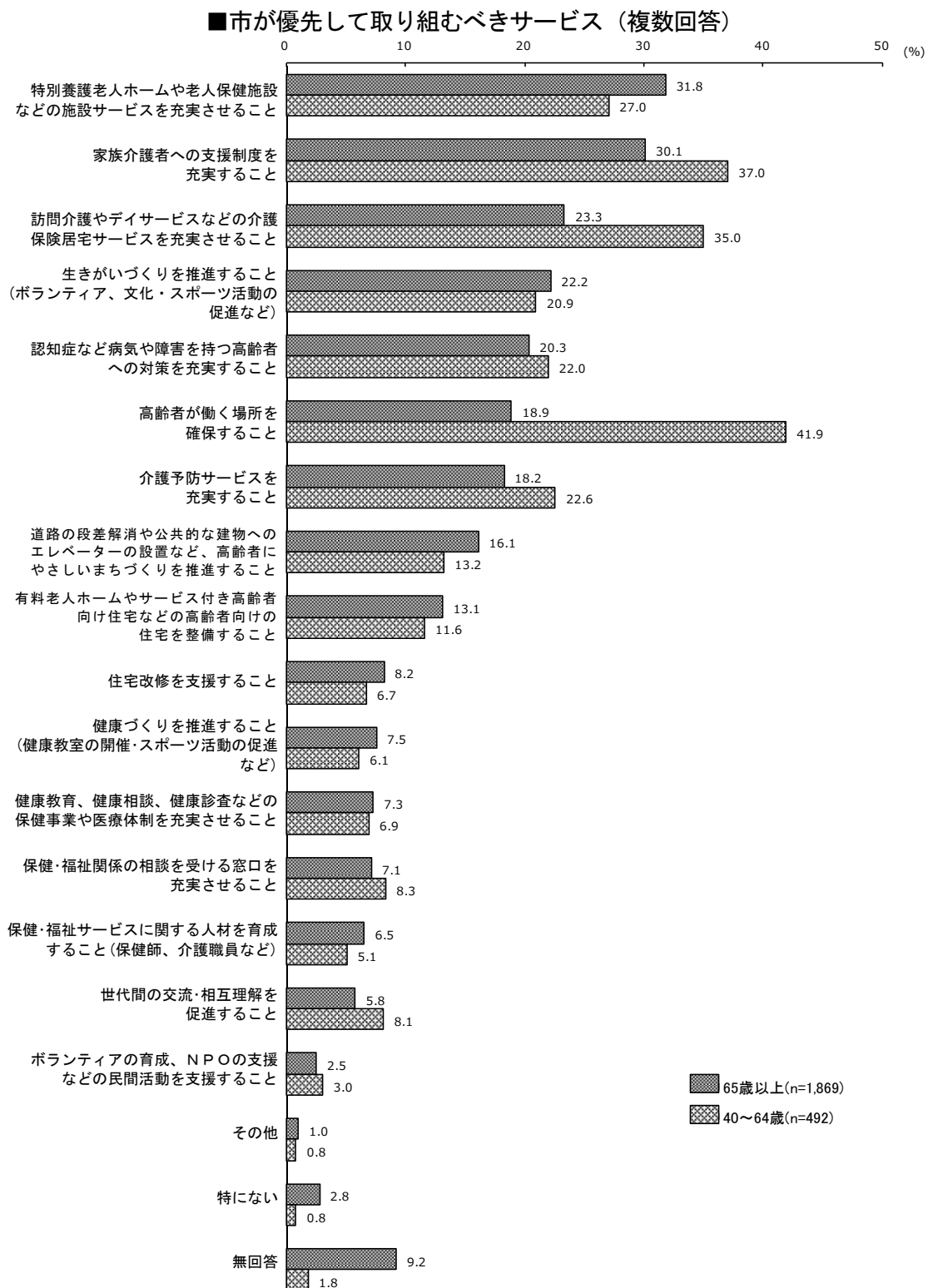
(%)

		利用している	と利用したことがある	知らない	知っている	知らない	無回答	利用したい	ない	利用したくない	わからない	無回答
訪問食事サービス	全体(n=1,869)	0.1	0.5	41.0	46.8	11.6	22.4	10.4	43.4	23.7		
	男性(n=862)	0.1	0.7	34.7	54.5	10.0	20.2	10.8	49.0	20.1		
	女性(n=977)	0.0	0.3	46.8	40.5	12.4	24.6	10.3	38.8	26.3		
自立支援ショートステイ	全体(n=1,869)	0.2	0.5	40.4	46.2	12.7	19.9	11.5	43.6	25.0		
	男性(n=862)	0.2	0.6	33.8	54.1	11.4	17.5	12.1	49.0	21.5		
	女性(n=977)	0.1	0.5	46.3	39.9	13.2	22.2	11.3	39.0	27.5		
高齢者医療ショートステイ	全体(n=1,869)	0.2	0.5	33.3	52.9	13.1	22.1	9.6	43.5	24.8		
	男性(n=862)	0.1	0.5	29.2	58.2	11.9	19.7	10.4	48.1	21.7		
	女性(n=977)	0.2	0.5	37.1	48.7	13.5	24.4	9.0	39.7	26.9		
日常生活用具給付とレンタル	全体(n=1,869)	0.7	1.6	42.8	41.7	13.2	29.3	7.2	38.1	25.4		
	男性(n=862)	0.6	1.3	35.0	51.2	11.9	25.1	8.5	44.8	21.7		
	女性(n=977)	0.9	1.8	49.7	33.9	13.6	33.5	6.1	32.4	27.9		
はいかい高齢者探索サービス	全体(n=1,869)	0.0	0.4	24.8	61.2	13.6	24.0	7.9	42.3	25.8		
	男性(n=862)	0.0	0.3	21.7	65.5	12.4	21.5	9.3	47.1	22.2		
	女性(n=977)	0.0	0.4	27.4	58.0	14.1	26.6	6.8	38.3	28.4		
日常生活用品(おむつ)の助成	全体(n=1,869)	0.8	0.7	35.6	49.5	13.3	27.3	8.0	38.7	26.0		
	男性(n=862)	0.9	0.8	30.2	56.0	12.1	21.9	10.2	45.2	22.6		
	女性(n=977)	0.7	0.6	40.7	44.2	13.7	32.2	6.2	33.2	28.4		
車いす福祉タクシー	全体(n=1,869)	0.5	0.7	37.8	47.8	13.1	30.8	7.0	36.9	25.3		
	男性(n=862)	0.8	0.6	34.1	52.6	11.9	25.2	8.8	43.9	22.2		
	女性(n=977)	0.2	0.8	41.2	44.2	13.5	36.2	5.3	31.0	27.4		
寝具乾燥サービス	全体(n=1,869)	0.2	0.3	22.3	63.7	13.5	28.4	8.1	38.1	25.4		
	男性(n=862)	0.3	0.3	20.1	66.8	12.4	24.2	9.2	44.2	22.4		
	女性(n=977)	0.1	0.2	24.4	61.4	13.9	32.4	7.2	32.9	27.5		
理容師・美容師の派遣	全体(n=1,869)	0.6	0.4	33.8	52.1	13.2	28.2	8.5	38.1	25.1		
	男性(n=862)	0.9	0.6	29.0	57.5	11.9	23.9	9.7	44.0	22.4		
	女性(n=977)	0.3	0.2	38.1	47.9	13.5	32.2	7.5	33.3	27.0		

(2) 市が優先して取り組むべきサービス (問 36)

市が優先して取り組むべきサービスは、65 歳以上は「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設サービスを充実させること」(31.8%) が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること」(30.1%)、「訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること」(23.3%)と続いている。

40～64 歳は、「高齢者が働く場所を確保すること」(41.9%) が最も多く、「家族介護者への支援制度を充実すること」(37.0%)、「訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービスを充実させること」(35.0%)と続いている。



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「生きがいがづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）」（24.2%）、「高齢者が働く場所を確保すること」（22.2%）、「健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること」（8.8%）、「世代間の交流・相互理解を促進すること」（7.7%）が女性に比べ多く、女性は「道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること」（19.3%）が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75歳以上は「介護予防サービスを充実すること」（20.7%）が65～74歳に比べ多く、65～74歳は「家族介護者への支援制度を充実すること」（33.2%）、「高齢者が働く場所を確保すること」（25.2%）、「世代間の交流・相互理解を促進すること」（6.9%）が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「世代間の交流・相互理解を促進すること」（10.0%）、第6地区は「介護予防サービスを充実すること」（23.6%）が全体に比べ多くなっている。

■市が優先して取り組むべきサービス（複数回答）（65歳以上）

		特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設サービス充実させること	家族介護者への支援制度を充実すること	訪問介護やデイサービスなどの介護保険居宅サービス充実させること	生きがいがづくりを推進すること（ボランティア、文化・スポーツ活動の促進など）	認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること	高齢者が働く場所を確保すること	介護予防サービスを充実すること	道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置など、高齢者にやさしいまちづくりを推進すること	有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの高齢者向けの住宅を整備すること	住宅改修を支援すること	健康づくりを推進すること（健康教室の開催・スポーツ活動の促進など）	健康教育、健康相談、健康診査などの保健事業や医療体制を充実させること	健康・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること	保健・福祉関係の相談を受ける窓口を充実させること（保健師、介護職員など）	世代間の交流・相互理解を促進すること	ボランティアの育成、NPOの支援などの民間活動を支援すること	その他	特になし	無回答
全体(n=1,869)		31.8	30.1	23.3	22.2	20.3	18.9	18.2	16.1	13.1	8.2	7.5	7.3	7.1	6.5	5.8	2.5	1.0	2.8	9.2
性別	男性(n=862)	32.7	29.9	22.5	24.2	20.2	22.2	17.5	12.8	12.2	8.0	6.8	8.8	6.4	5.9	7.7	2.4	1.2	3.4	8.9
	女性(n=977)	31.4	30.4	24.2	20.4	20.6	15.8	18.8	19.3	13.9	8.3	8.0	6.1	7.8	7.3	4.1	2.7	0.9	2.1	9.1
年齢別	75歳以上(n=803)	31.5	26.2	24.3	19.9	20.9	10.2	20.7	16.6	12.7	7.0	6.5	7.6	7.6	6.6	4.2	2.5	1.0	3.5	12.5
	65～74歳(n=1,056)	32.2	33.2	22.4	23.7	20.0	25.2	16.4	15.8	13.3	9.1	8.3	7.1	6.7	6.5	6.9	2.6	1.0	2.2	6.8
地区別	第1地区(n=344)	32.8	31.4	22.1	20.9	18.9	20.3	16.6	16.9	14.2	8.7	8.4	9.0	7.6	5.2	6.1	2.0	0.3	2.6	9.3
	第2地区(n=398)	30.4	29.6	21.9	21.6	20.1	20.6	18.8	18.8	13.8	9.8	7.8	5.0	8.5	7.0	4.8	1.5	1.3	2.6	8.9
	第3地区(n=339)	31.6	29.2	24.5	25.7	21.5	15.9	16.8	12.4	14.5	7.7	6.5	8.6	7.4	8.0	10.0	3.2	0.3	3.0	9.3
	第4地区(n=221)	29.4	30.3	23.5	22.6	17.6	19.0	16.7	17.6	11.3	6.8	8.6	6.8	5.4	7.7	4.1	2.3	2.3	2.8	10.6
	第5地区(n=245)	37.1	31.4	27.8	19.6	23.3	17.1	15.5	14.3	14.7	6.5	8.6	5.7	6.9	5.7	3.3	3.3	1.2	2.9	7.8
	第6地区(n=296)	31.1	29.7	22.0	20.9	20.3	18.2	23.6	16.6	9.5	8.4	6.4	8.1	6.1	5.7	4.4	3.4	1.4	3.1	8.8

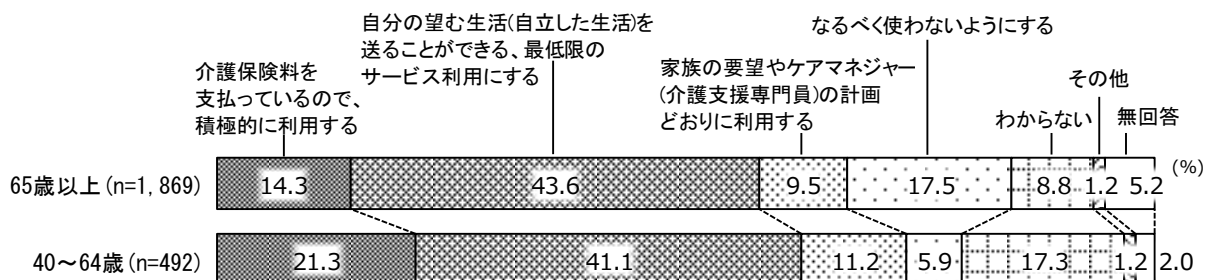
12 介護保険について

(1) 介護保険サービス利用についての考え (問 37)

介護保険サービス利用についての考えは、65 歳以上は「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（43.6%）が最も多く、「なるべく使わないようにする」（17.5%）、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」（14.3%）と続いている。

40～64 歳は、「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（41.1%）が最も多く、「介護保険料を支払っているので、積極的に利用する」（21.3%）、「家族の要望やケアマネジャー（介護支援専門員）の計画どおりに利用する」（11.2%）と続いている。

■介護保険サービス利用についての考え



65 歳以上について性別にみると、女性は「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（47.5%）が男性に比べて多くなっている。

年齢別にみると、75 歳以上は「なるべく使わないようにする」（22.8%）が 65～74 歳に比べて多く、65～74 歳は「自分の望む生活（自立した生活）を送ることができる、最低限のサービス利用にする」（49.1%）が 75 歳以上に比べて多くなっている。

■介護保険サービス利用についての考え (65 歳以上)

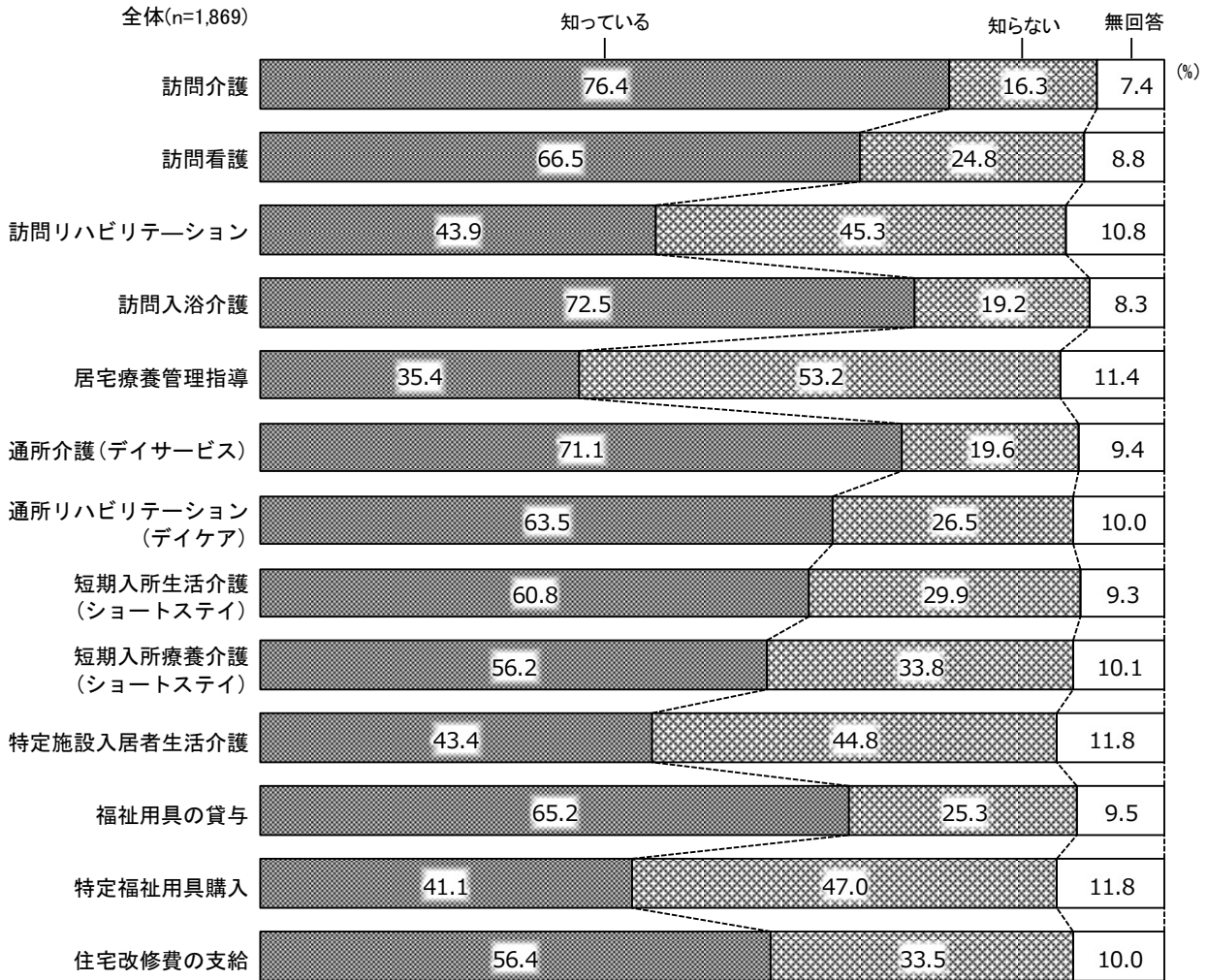
		介護保険料を支払っているので、積極的に利用する	自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする	家族の要望やケアマネジャー(介護支援専門員)の計画どおりに利用する	なるべく使わないようにする	わからない	その他	無回答
全体(n=1,869)		14.3	43.6	9.5	17.5	8.8	1.2	5.2
性別	男性(n=862)	14.5	39.8	10.0	19.0	10.6	1.2	5.0
	女性(n=977)	14.0	47.5	9.2	15.9	7.4	1.1	4.9
年齢別	75歳以上(n=803)	13.8	36.4	10.1	22.8	8.8	0.7	7.3
	65～74歳(n=1,056)	14.7	49.1	9.1	13.4	8.5	1.5	3.6

1. 市民一般調査

(2) 介護保険サービスの認知度 (問 38)

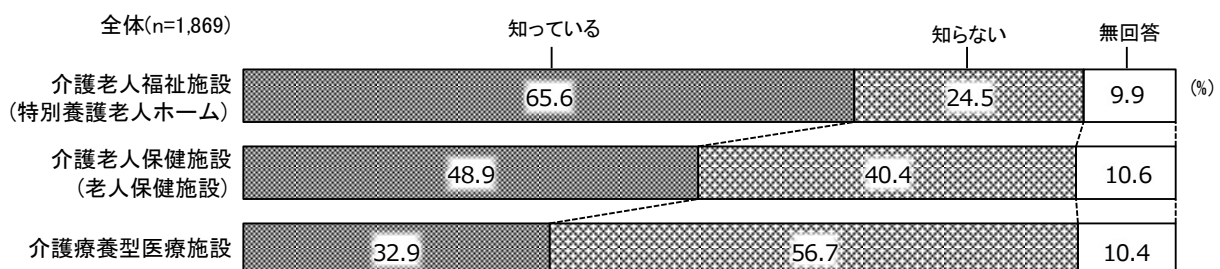
65 歳以上の介護保険サービスの認知度について、居宅サービスは『訪問介護』(76.4%)が最も多く、『訪問入浴介護』(72.5%)、『通所介護(デイサービス)』(71.1%)と続いている。

■介護保険サービスの認知度(居宅サービス)(65歳以上)



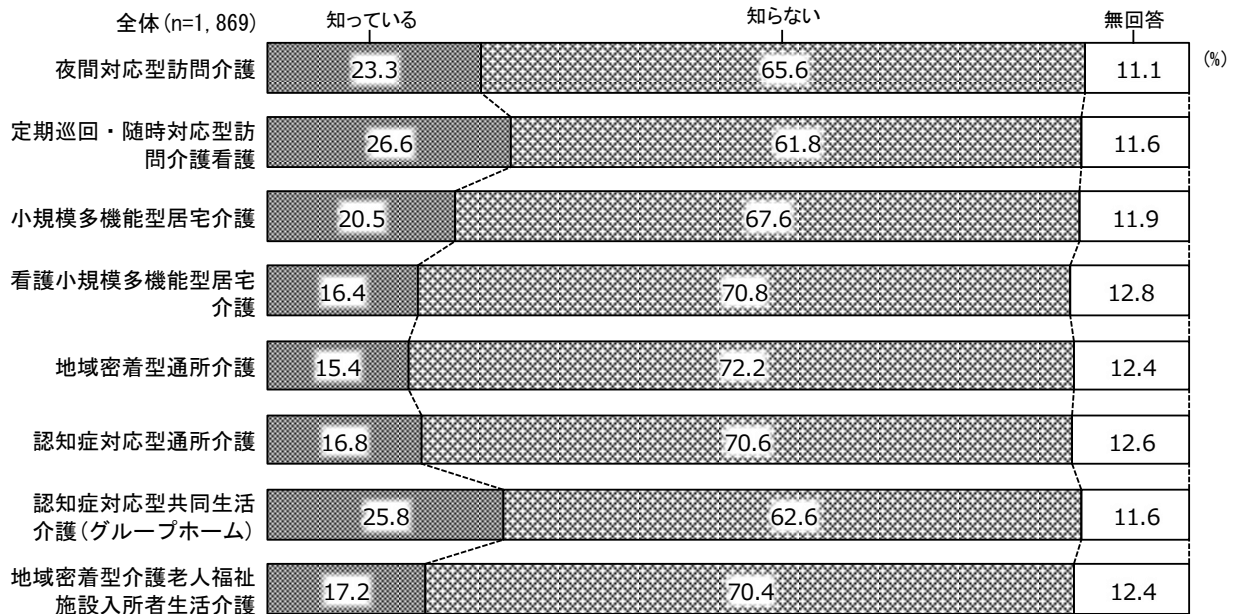
施設サービスは『介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)』(65.6%)が最も多く、『介護老人保健施設(老人保健施設)』(48.9%)、『介護療養型医療施設』(32.9%)と続いている。

■介護保険サービスの認知度(施設サービス)(65歳以上)



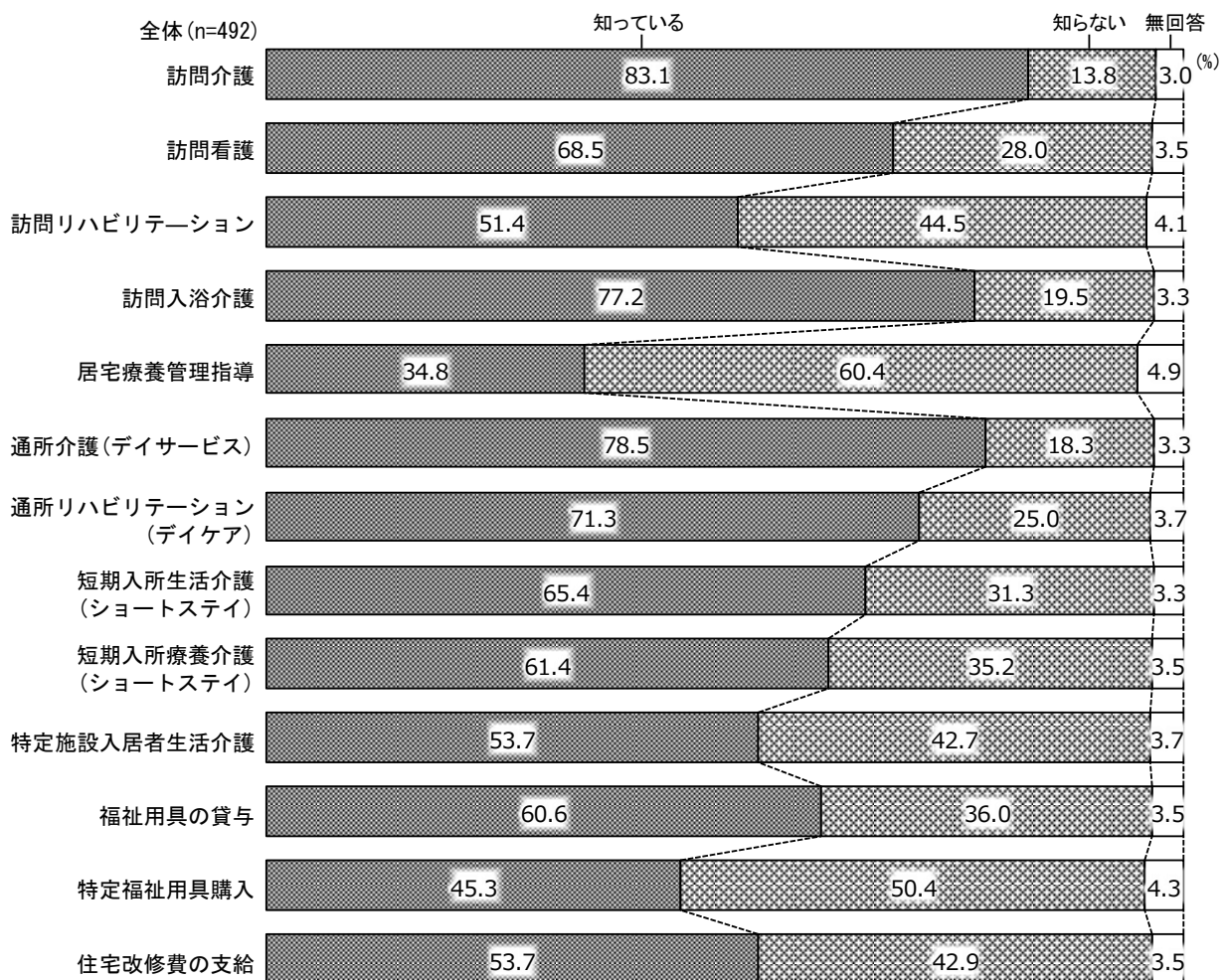
地域密着型サービスは『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（26.6%）が最も多く、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）』（25.8%）、『夜間対応型訪問介護』（23.3%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（地域密着型サービス）（65歳以上）



40～64歳の介護保険サービスの認知度について、居宅サービスは『訪問介護』（83.1%）が最も多く、『通所介護（デイサービス）』（78.5%）、『訪問入浴介護』（77.2%）と続いている。

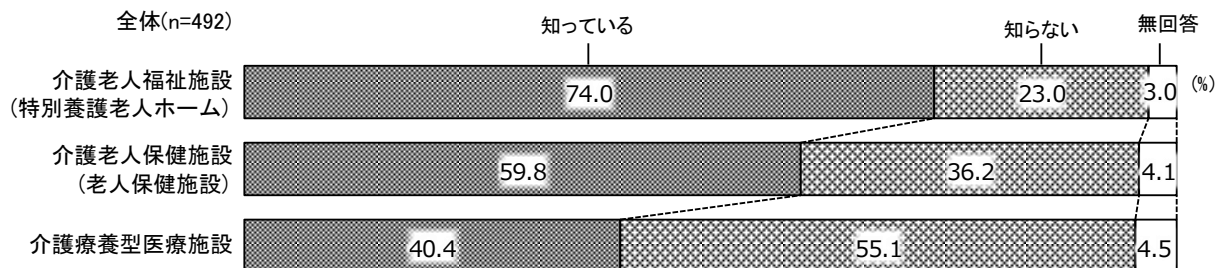
■介護保険サービスの認知度（居宅サービス）（40～64歳）



1. 市民一般調査

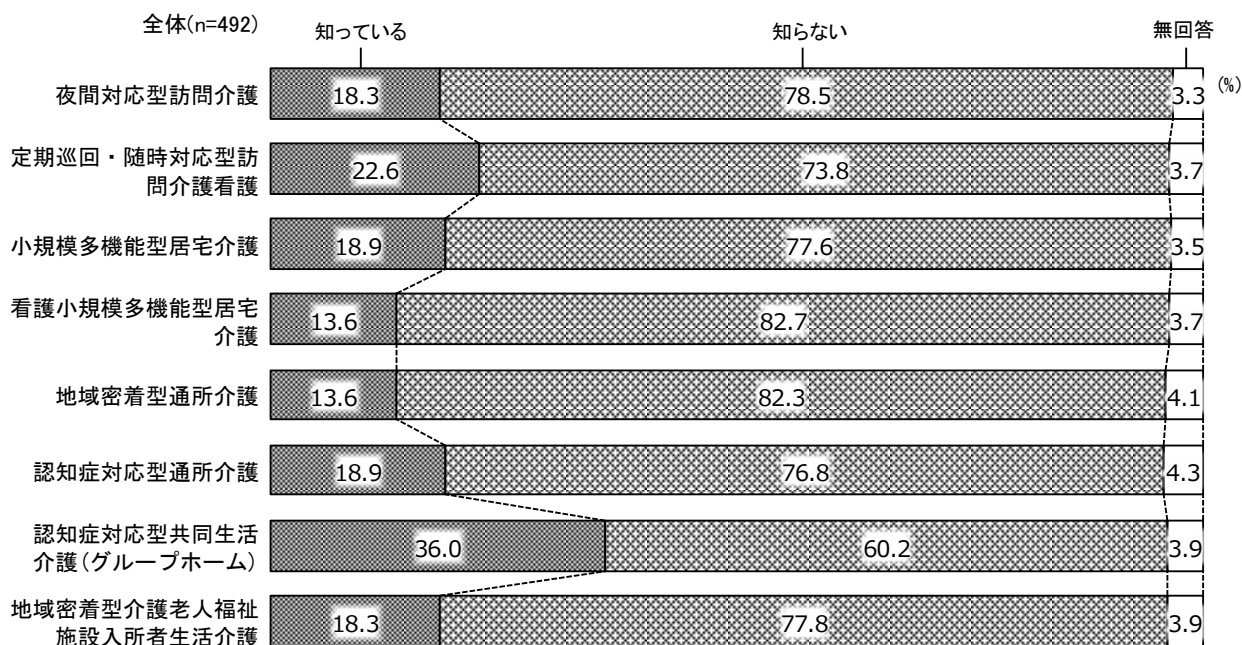
施設サービスは『介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）』（74.0%）が最も多く、『介護老人保健施設（老人保健施設）』（59.8%）、『介護療養型医療施設』（40.4%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（施設サービス）（40～64歳）



地域密着型サービスは『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）』（36.0%）が最も多く、『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』（22.6%）、『小規模多機能型居宅介護』と『認知症対応型通所介護』（ともに18.9%）と続いている。

■介護保険サービスの認知度（地域密着型サービス）（40～64歳）

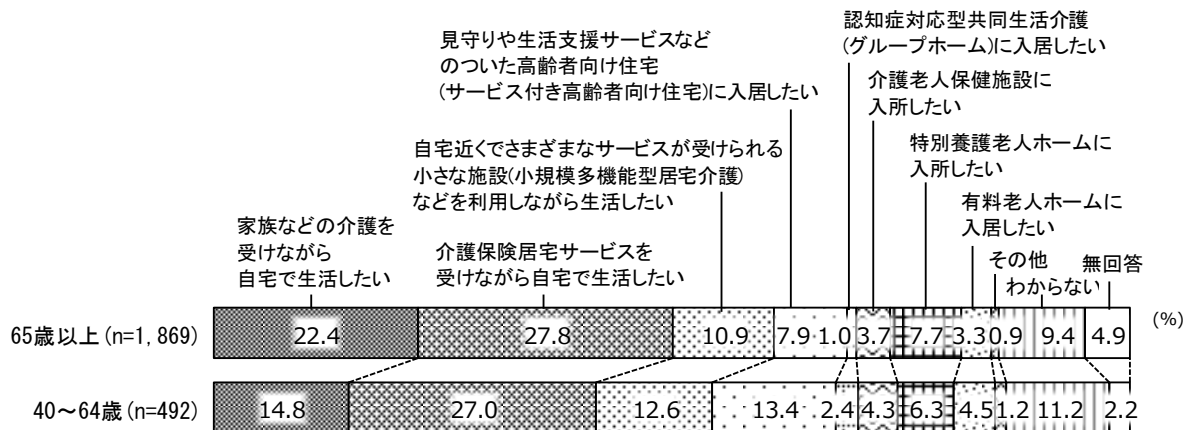


(3) 介護が必要になった時に生活したい場所 (問 39)

介護が必要になった時に生活したい場所は、65 歳以上は「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(27.8%) が最も多く、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(22.4%)、「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(10.9%)と続いている。

40~64 歳は、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」(27.0%) が最も多く、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(14.8%)、「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい」(13.4%)と続いている。

■介護が必要になった時に生活したい場所



65 歳以上について性別にみると、男性は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(28.3%) が女性に比べ多く、女性は「自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい」(12.8%)、「見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい」(9.1%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、75 歳以上は「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい」(26.0%) が 65~74 歳に比べ多くなっている。

地区別にみると、第 6 地区は「介護老人保健施設に入所したい」(6.1%) が全体に比べ多くなっている。

■介護が必要になった時に生活したい場所 (65 歳以上)

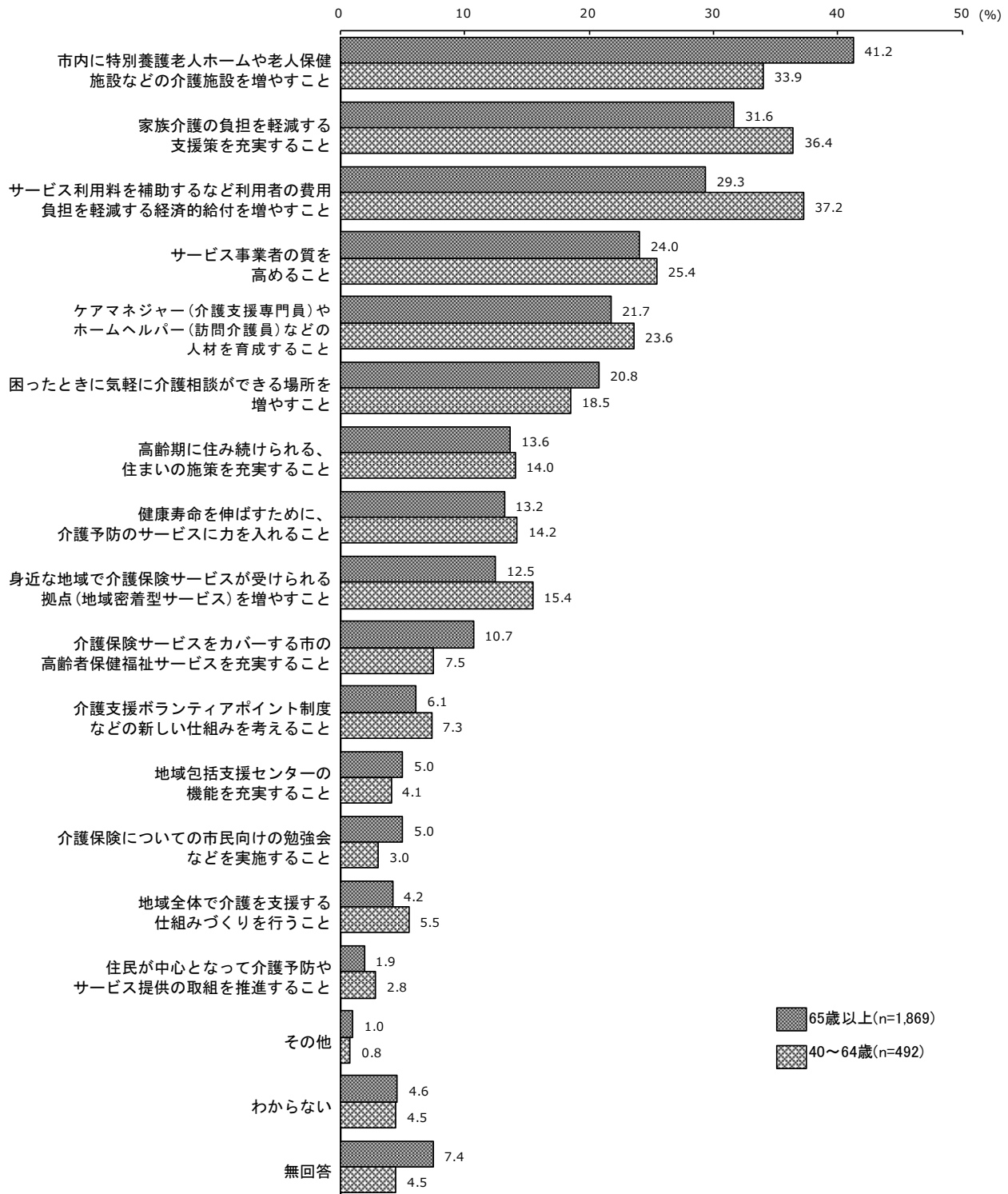
		家族などの介護を受けながら自宅で生活したい	介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい	自宅近くでさまざまなサービスが受けられる小さな施設(小規模多機能型居宅介護)などを利用しながら生活したい	見守りや生活支援サービスなどのついた高齢者向け住宅(サービス付き高齢者向け住宅)に入居したい	介護老人保健施設に入所したい	特別養護老人ホームに入所したい	有料老人ホームに入居したい	その他	無回答		
全体(n=1,869)		22.4	27.8	10.9	7.9	1.0	3.7	7.7	3.3	0.9	9.4	4.9
性別	男性(n=862)	28.3	27.3	8.9	6.6	1.0	3.8	7.7	2.7	0.8	8.6	4.3
	女性(n=977)	17.5	28.7	12.8	9.1	0.9	3.7	7.8	3.7	0.8	10.1	4.9
年齢別	75歳以上(n=803)	26.0	27.9	10.1	7.1	0.7	3.4	6.8	3.5	0.6	7.7	6.1
	65~74歳(n=1,056)	19.8	27.9	11.4	8.4	1.2	4.0	8.4	3.1	1.1	10.7	3.9
地区別	第1地区(n=344)	22.1	31.4	8.1	5.2	0.3	5.2	9.9	4.1	0.6	8.1	4.9
	第2地区(n=398)	22.1	25.6	13.3	7.8	1.3	2.0	7.3	3.3	1.3	9.8	6.3
	第3地区(n=339)	20.6	29.2	10.6	8.8	0.6	3.5	6.2	4.1	0.6	10.9	4.7
	第4地区(n=221)	25.8	29.4	8.1	6.3	1.4	1.4	7.2	2.7	0.5	11.8	5.4
	第5地区(n=245)	22.9	28.6	9.0	9.4	2.0	3.3	9.0	2.9	1.6	7.8	3.7
	第6地区(n=296)	23.3	23.6	14.2	10.1	1.0	6.1	6.8	2.4	1.0	8.8	2.7

(4) 介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと (問 40)

介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきことは、65 歳以上は「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(41.2%) が最も多く、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(31.6%)、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(29.3%) と続いている。

40～64 歳は、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(37.2%) が最も多く、「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(36.4%)、「市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」(33.9%) と続いている。

■ 介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと (複数回答)



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「サービス事業者の質を高めること」(27.0%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)やホームヘルパー(訪問介護員)などの人材を育成すること」(23.7%)が女性に比べ多く、女性は「身近な地域で介護保険サービスが受けられる拠点(地域密着型サービス)を増やすこと」(15.4%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること」(33.9%)、「サービス利用料を補助するなど利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」(31.3%)、「介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること」(7.3%)、「地域全体で介護を支援する仕組みづくりを行うこと」(5.3%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区は「介護保険サービスをカバーする市の高齢者保健福祉サービスを充実すること」(14.2%)、第4地区は「健康寿命を伸ばすために、介護予防のサービスに力を入れること」(18.1%)、第5地区は「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと」(28.6%)が全体に比べ多くなっている。

■介護保険制度の全体をよりよくするために市が力を入れるべきこと(複数回答)(65歳以上)

		市内に特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと	家族介護の負担を軽減する支援策を充実すること	サービスの費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと	サービス事業者の質を高めること	ケアマネジャー(介護支援専門員)やホームヘルパー(訪問介護員)などの人材を育成すること	困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	高齢者に住み続けられる、住まいの施策を充実すること	健康寿命を伸ばすために、介護予防のサービスを入れること	身近な地域で介護保険サービスが受けられる拠点(地域密着型サービス)を増やすこと	高齢者保健福祉サービスを充実すること	介護支援ボランティアポイント制度などの新しい仕組みを考えること	介護保険サービスを提供する市の高齢者保健福祉サービスを充実すること	地域包括支援センターの機能を充実すること	介護保険についての実施事項の市民向けの勉強会などを実施すること	地域全体で介護を支援する仕組みづくりを行うこと	住民が中心となって介護予防やサービス提供の取組を推進すること	その他	わからない	無回答
全体(n=1,869)		41.2	31.6	29.3	24.0	21.7	20.8	13.6	13.2	12.5	10.7	6.1	5.0	5.0	4.2	1.9	1.0	4.6	7.4	
性別	男性(n=862)	43.4	32.6	30.2	27.0	23.7	18.9	13.8	12.4	9.4	11.5	5.2	5.6	5.2	4.2	2.1	0.8	6.1	5.2	
	女性(n=977)	39.4	30.9	29.0	21.1	19.8	22.5	13.7	13.8	15.4	9.7	7.1	4.6	5.0	4.2	1.8	1.0	3.4	9.0	
年齢別	75歳以上(n=803)	38.7	28.9	26.8	22.8	20.0	22.8	11.8	12.2	13.1	11.0	4.6	6.0	5.1	2.7	1.5	1.2	5.1	10.8	
	65～74歳(n=1,056)	43.0	33.9	31.3	25.1	23.0	19.1	14.9	14.0	12.1	10.5	7.3	4.4	4.9	5.3	2.2	0.9	4.1	4.8	
地区別	第1地区(n=344)	43.6	33.1	25.3	18.9	21.8	23.0	13.1	14.0	14.2	10.8	8.1	4.9	7.3	4.9	1.5	1.7	5.2	5.8	
	第2地区(n=398)	41.2	28.9	29.9	27.6	23.6	19.1	12.6	12.8	14.1	8.0	5.8	5.8	6.0	4.3	0.8	1.0	4.0	7.4	
	第3地区(n=339)	43.7	31.3	32.2	25.7	20.9	16.5	16.8	12.7	11.8	14.2	5.6	5.3	2.9	3.5	2.1	0.9	4.4	5.7	
	第4地区(n=221)	35.7	35.7	28.5	23.5	19.9	20.8	13.1	18.1	14.5	12.7	6.3	4.5	5.4	4.1	2.3	-	4.1	8.3	
	第5地区(n=245)	41.2	32.2	33.1	24.1	20.0	28.6	14.7	10.6	9.0	9.0	5.7	4.9	4.9	4.9	2.9	0.8	3.7	6.2	
	第6地区(n=296)	39.5	31.4	27.7	23.6	21.6	18.9	11.8	12.5	11.1	10.5	4.7	4.4	3.7	3.7	3.0	1.4	5.7	10.2	

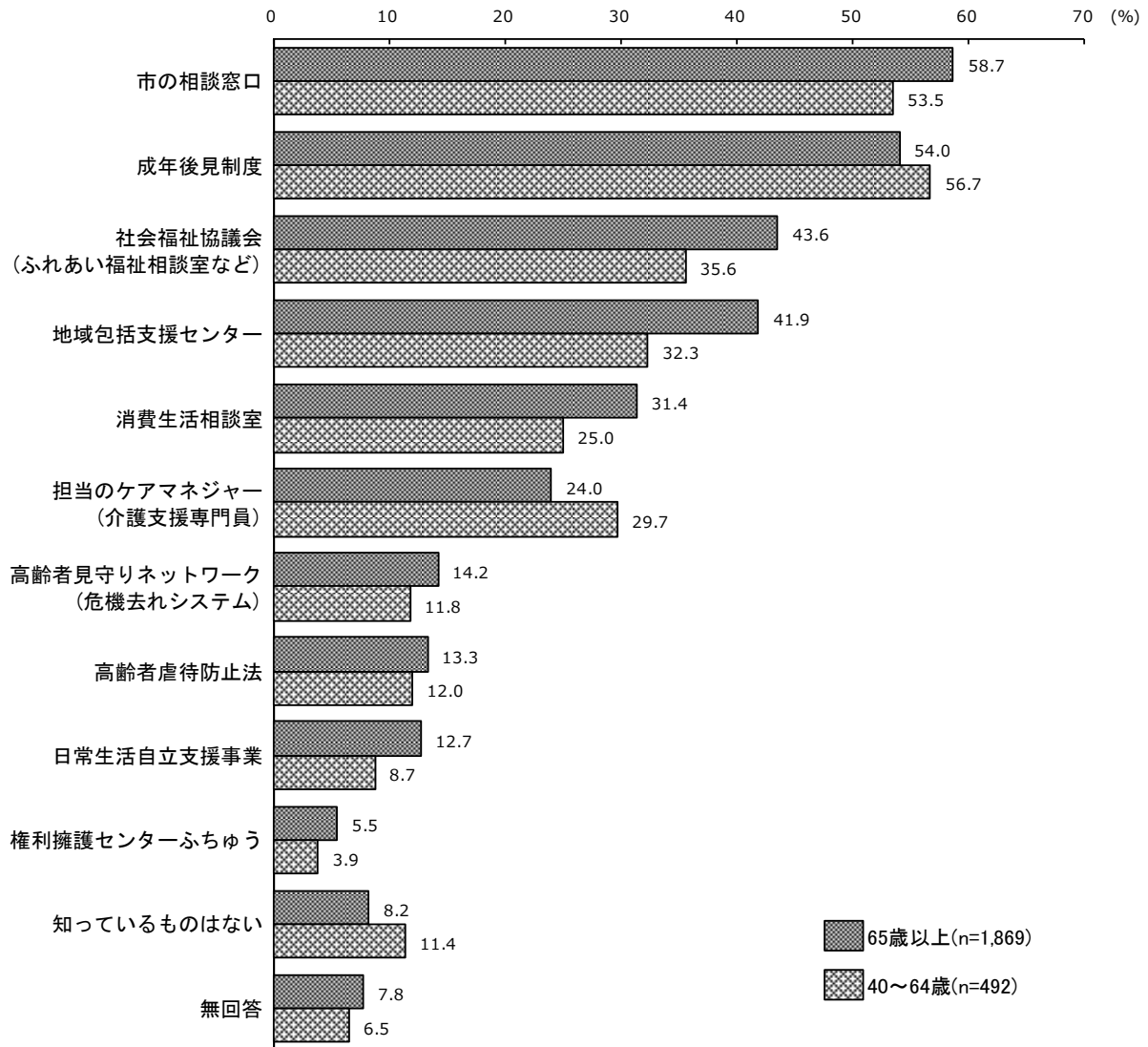
13 高齢者の権利擁護について

(1) 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (問 41)

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度は、65歳以上は「市の相談窓口」(58.7%)が最も多く、「成年後見制度」(54.0%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(43.6%)と続いている。

40～64歳は、「成年後見制度」(56.7%)が最も多く、「市の相談窓口」(53.5%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(35.6%)と続いている。

■高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度 (複数回答)



1. 市民一般調査

65歳以上について性別にみると、男性は「知っているものはない」(10.4%)が女性に比べ多く、女性は「地域包括支援センター」(48.5%)、「担当のケアマネジャー(介護支援専門員)」(28.8%)が男性に比べ多くなっている。

年齢別にみると、65～74歳は「市の相談窓口」(60.8%)、「成年後見制度」(59.5%)、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(45.5%)、「消費生活相談室」(34.8%)が75歳以上に比べ多くなっている。

地区別にみると、第3地区と第4地区は「地域包括支援センター」(順に47.8%、52.5%)、第5地区は「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室など)」(49.8%)と「高齢者虐待防止法」(19.2%)が全体に比べ多くなっている。

■高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口の認知度(複数回答)(65歳以上)

(%)

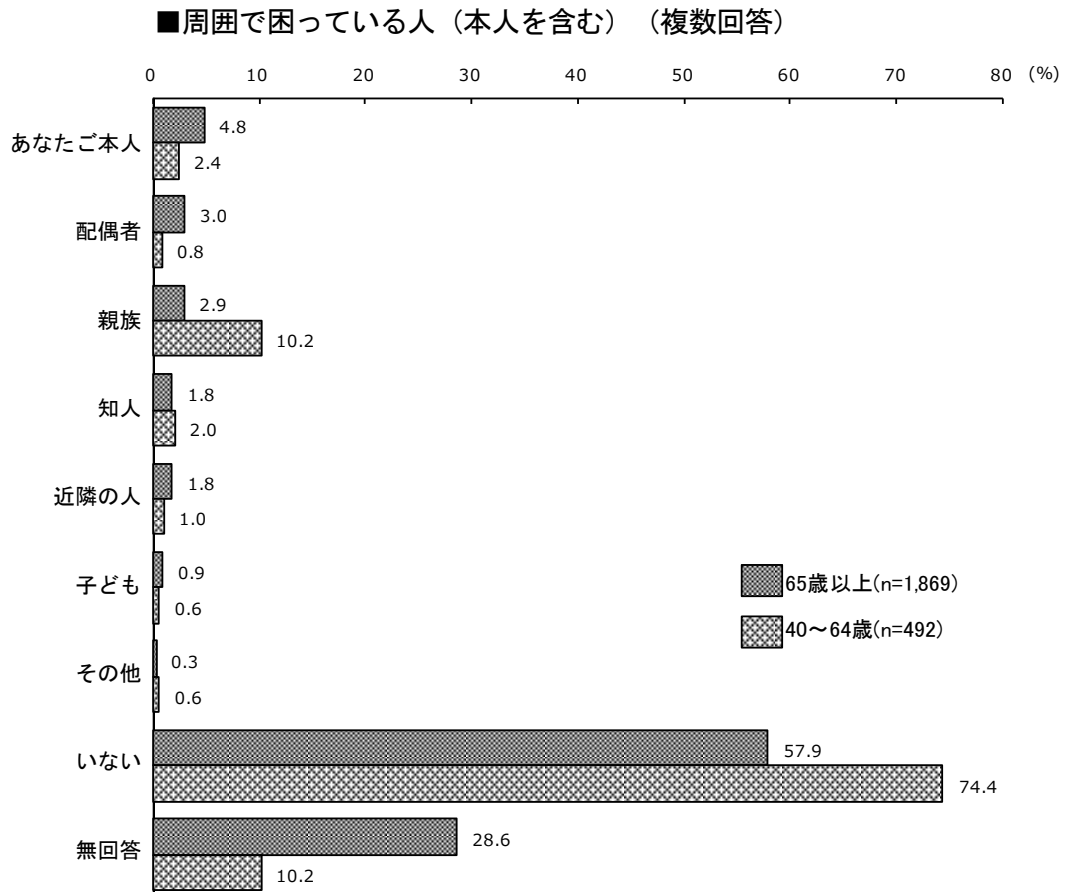
	市の相談窓口	成年後見制度	ふれあい福祉相談室(な)	社会福祉協議会	地域包括支援センター	消費生活相談室	担当のケアマネジャー(介護支援専門員)	高齢者見守りネットワーク	高齢者虐待防止法	日常生活自立支援事業	権利擁護センター	知っているものはない	無回答
全体(n=1,869)	58.7	54.0	43.6	41.9	31.4	24.0	14.2	13.3	12.7	5.5	8.2	7.8	
性別	男性(n=862)	59.3	52.9	43.3	34.6	29.5	18.4	13.3	13.2	12.1	5.7	10.4	6.5
	女性(n=977)	58.2	55.7	43.8	48.5	33.0	28.8	14.9	13.2	13.6	5.3	6.2	8.4
年齢別	75歳以上(n=803)	56.2	47.3	40.8	43.1	27.0	22.4	12.7	13.1	12.1	5.1	8.1	11.1
	65～74歳(n=1,056)	60.8	59.5	45.5	41.4	34.8	25.5	15.3	13.4	13.4	5.8	8.1	5.1
地区別	第1地区(n=344)	60.8	52.3	39.5	38.4	32.6	22.7	10.8	10.8	13.1	5.2	10.8	7.8
	第2地区(n=398)	56.8	57.0	40.7	41.5	30.4	20.9	16.3	11.8	11.8	6.0	7.8	7.5
	第3地区(n=339)	61.4	53.7	46.9	47.8	29.5	27.7	12.4	13.3	13.9	6.8	7.7	5.9
	第4地区(n=221)	58.4	46.2	44.3	52.5	32.6	22.6	15.4	14.9	13.6	4.5	6.8	9.0
	第5地区(n=245)	60.4	60.0	49.8	40.8	33.9	26.1	17.1	19.2	11.0	4.9	7.8	6.1
	第6地区(n=296)	56.8	55.4	43.9	35.1	32.4	26.4	14.9	12.5	13.9	5.1	7.1	9.5

1. 市民一般調査

(2) 周囲で困っている人（本人を含む）（問 42）

周囲で困っている人（本人を含む）は、65歳以上も40～64歳も「いない」が最も多い。困っている人の中では、65歳以上は「あなたご本人」（4.8%）が最も多く、「配偶者」（3.0%）、「親族」（2.9%）と続いている。

40～64歳は、「親族」（10.2%）が最も多く、「あなたご本人」（2.4%）、「知人」（2.0%）と続いている。



65歳以上について地区別にみると、第6地区は「近隣の人」（3.4%）と「子ども」（2.4%）が全体に比べ多くなっている。

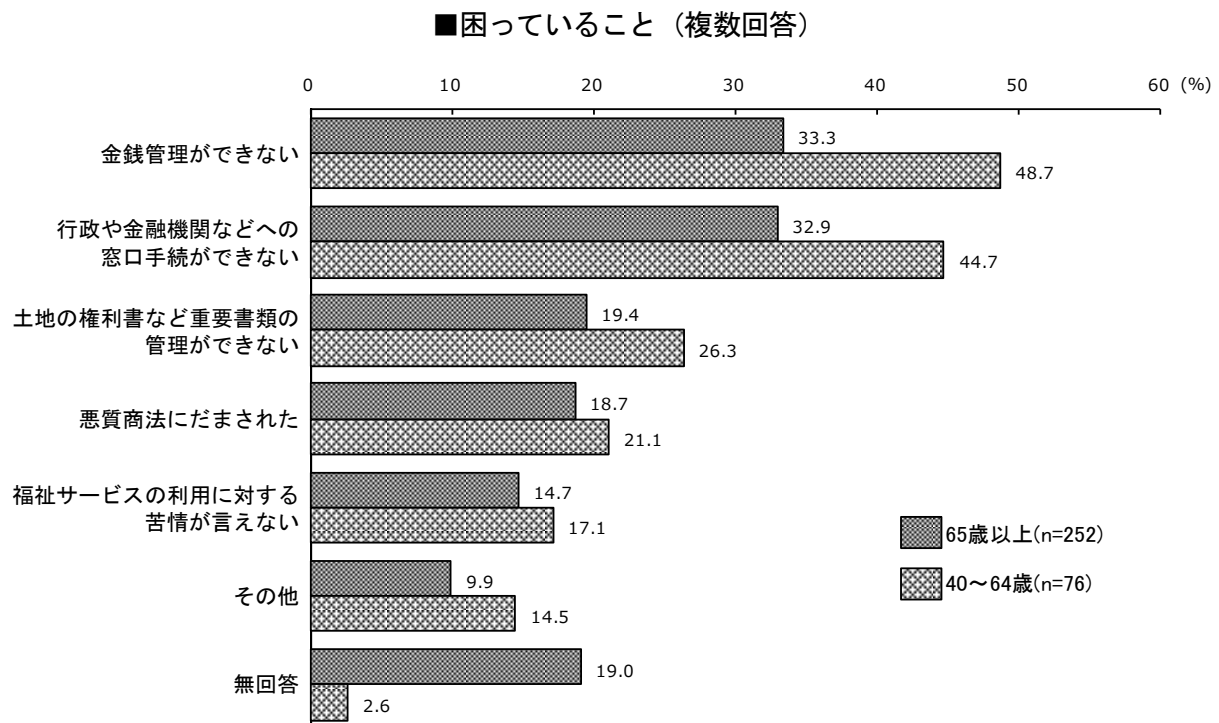
■周囲で困っている人（本人を含む）（複数回答）（65歳以上）

		ごあ 本 人 た	配 偶 者	親 族	知 人	人 近 隣 の	子 ど も	そ の 他	い な い	無 回 答
全体(n=1,869)		4.8	3.0	2.9	1.8	1.8	0.9	0.3	57.9	28.6
地区別	第1地区(n=344)	4.1	2.3	3.8	2.6	1.5	0.3	0.0	58.1	28.5
	第2地区(n=398)	3.3	3.3	2.5	1.3	1.5	0.8	0.3	61.6	26.4
	第3地区(n=339)	5.9	3.5	2.9	2.7	0.9	0.9	0.3	56.9	28.0
	第4地区(n=221)	5.4	3.2	4.5	1.8	1.8	0.9	0.0	55.7	31.7
	第5地区(n=245)	5.3	2.4	3.3	2.0	2.4	0.4	0.8	56.7	27.8
	第6地区(n=296)	5.7	3.4	1.4	0.7	3.4	2.4	0.3	56.8	29.7

(3) 困っていること (問 42-1)

周囲で困っている人（本人を含む）がいると回答した人に困っていることを聞いたところ、65歳以上は「金銭管理ができない」（33.3%）が最も多く、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」（32.9%）、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」（19.4%）と続いている。

40～64歳は、「金銭管理ができない」（48.7%）が最も多く、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない」（44.7%）、「土地の権利書など重要書類の管理ができない」（26.3%）と続いている。

**(4) 市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度についての意見・要望〈自由回答〉(問 43)**

市の高齢者保健福祉サービスや介護保険制度について、自由回答形式で聞いたところ、全体で 706 件の回答があった。以下、内訳を掲載する。

- 制度、サービス、事業について：82 件
- 情報提供、周知について：63 件
- 保険料について：49 件
- 施設について：44 件
- 相談窓口、連絡先について：26 件
- 人材について：11 件
- 家族への支援について：8 件
- 住居について：7 件
- 手続きについて：7 件
- まちづくりについて：5 件
- 交通・移動支援について：4 件
- 現状や将来について：138 件
- アンケートについての意見：30 件
- アンケートを回答しての感想：56 件
- その他の市への意見・要望：96 件
- その他：45 件
- わからない・特になし：35 件